滿洲日報

平和の満洲の日本軍

装甲列車上における發射演習

電信隊と軍用傳書鳩班の活動

滿洲の曠野に飜る日章旗

一番うれしい陣中の御馳走

装甲列車搭載砲の手入れに忙しい兵隊さん

吹き荒ぶ雪の中の軍用犬を

暇なき満洲軍首脳

（1）本庄關東軍司令官
（2）多門二郎中將
（3）森連中將
（4）三宅光治參謀長
（5）長谷部照俉少將
（6）嘉村達次郎少將
（7）鈴木美通少將

…と幸福を図る

陣中生活

凍れる雪に伏して……

屋根にのぼつて敵狀偵察

敵陣近く潜伏斥候

焚火でやつと暖を取る夜營の兵隊さん

閑院…元…宮殿下

これでなければ活動が出來ない滿洲軍將兵の防寒具

敵狀偵察機の飛來を待つ陸上勤務員

嚴寒の滿洲に派遣された日本赤十字社救護班

…て重任についた鐵道巡察兵

滿洲日報

其の一

竹の園生の御榮

眞に御目出たく拜し奉る

陽光輝かしく明くれば方にこれ昭和七年の新春、天皇陛下には寶算三十二、皇后陛下には玉齡三十、皇太后陛下には恰も中歳御生誕の御年四十九歳、また照宮さまには御八歳、孝宮さまには御四歳、順宮さまには御二歳、澄宮殿下には御十八歳、なほ秩父宮殿下には御三十一歳、同妃殿下には御二十四歳、高松宮殿下には御二十八歳、同妃殿下には御二十二歳、その他各宮様方にも御機嫌麗しく新春を迎へさせられ、竹の園生の御榮え眞に目出度く拜し奉る。

畏し、時局を御軫念

聖上晝夜政務を御親裁遊さる

天皇陛下には御規律正しき御日常と適當の御運動とに相俟つて益々御健かに、昨年は大分御肥りにならせられた御模樣に拜す。御多端なる御政務をはじめ、毎日の御進講、時々催される木曜日の特別御進講、土曜日の生物學御研究に、目まぐるしいまでに御いそしみあらせらるゝことは既に拜承する所であるが、昨年九月突如として起つた滿洲事變に就いては、側近者が御案じ申上ぐるほどの御精勵さであつた。政務の御親裁は午前十一時と午後五時の二回に定められてゐるが、これは勿論御平常の事で、滿洲事變起つて以來は、早朝から深夜に亘り午後二時から四時の間に行はれる御運動も廢されることすらあらせられた、事變の經過は毎日侍從武官府から書類を以て捧呈する外、首相、陸相、參謀總長等が隨時參内して奏上、陛下には深甚なる御心を寄せられ絶えず事變の經過を御軫念あらせられ、昨年十月には川岸侍從武官を現地に差遣はされて、出動部隊の活動狀況を視察せしめられ、なほ御慰問の爲め將士に恩賜の煙草、酒肴料等を傳達せしめられたるなど聖慮を勞し給ふことは畏き極みである。

滿洲事變には皇后陛下におかせられても出動將兵の辛苦を痛く御憂念遊ばされ、十月、十一月、十二月の三回に亘つて御手製の繃帶を傷病兵に賜はり、更に十二月には皇太后陛下と御共同で酷寒の折柄とて出動全將兵に眞綿を賜はつた。

大演習と地方行幸

陸軍特別大演習と地方行幸は、天皇陛下の重大なる御軍務、御政務の御一端で、昨年は十一月遠く肥筑の野に錦旗を進められて、親く御統監遊ばされたが、本年も十一月の大演習に御統監の爲め行幸あらせらるゝ由に拜承する。地方行幸は昨年四、五月の候山陰地方に鑾駕を進めらるゝやの御内儀もあつたが、農村疲弊の折柄とて、畏くも農村の窮狀を思召されて御取止めとなり、大演習後引續いて熊本縣下並に鹿兒島縣下を四日間に亘つて縣治、教育、產業等の狀態を親く御視察遊ばされた。本年は四、五月の候、宮中に差支へない限り地方に鳳輦を進めさせられ親く民情をみそなはせらるゝやに洩れ承はる。

皇后陛下の御慈愛深く在さるゝこと申し上ぐる迄もなく、特に今回の滿洲事變においても拜する通りであるが、大奥におかせられては御母性愛いと御深く、內親王さまは御誕生以來すべて御膝下において御養育、順宮さまは目下御乳兒の御事とて晝間は陛下御親ら御授乳、夜間のみ乳人が奉仕してゐる、なほ常に政務に御勞の陛下に御優しく御仕へ遊ばされ、婦德の範を示され、午後の御運動の時間には陛下のゴルフの御相手などを遊ばさるゝ御趣きに拜承する。

凶作地方へは侍從御差遣

更に天皇、皇后兩陛下におかせられては昨年の北海道並に青森縣下の凶作による窮狀を聞召されていたく御軫念あらせられ、舊臘七日黑田侍從を御差遣あらせられ御救恤のため金一封御下賜の御沙汰があつた、同侍從は青森に赴き同地方を約四日間視察の上、更に北海道に渡り狀況を詳細に視察の上歸京、天皇陛下に御復命申上げたが、御救恤金は同侍從より青森縣廳並に北海道廳においてそれぞれ知事長官に傳達されたので、同地方民は畏き思召を拜し何れも感涙に咽んだ。

照宮內親王學習院に御入學

照宮さまには一昨年六月以來、女子學習院幼稚園の園兒十八名と御共に、新宿御苑又は赤坂離宮にて、幼稚園の御課程をお修め遊ばされるが、本年四月を以て御學齡の御八歳に達せさせられるので、いよいよ四月から女子學習院に御入學になり、專ら御學業にいそしませらるゝこととなつたので、殿下の御膝下を離れさせられて御別居遊ばさるゝこととなり、その御殿を目下宮城內舊御本丸跡に御造營中であるが、三月頃には完成の豫定であるから、殿下には學習院御入學前に御移りの御手筈であつて、この御殿は「皇子御學修所」と申上げて將來は孝宮、順宮兩內親王殿下にも御移りの趣きである。

皇太后陛下の御日常

皇太后陛下がひたすら先帝御追福の爲め、靜かな御日常を過ごさせ給ふことは、既に民人の尊き範と仰ぎ奉る所であるが、陛下には先帝御不例の際親しく御看護に盡され、一方神宮、山陵等に御平癒の御祈願をかけさせられたので、その御禮參りを昨年遊ばされたき御內意を側近者に御洩らし遊ばされた趣きに承はるが、深刻なる社會不況のさき天皇陛下にも地方行幸をお取止め遊ばさるゝが如き折からとて、陛下の行啓も御沙汰止みとなつたが、或は本年御實行遊ばさるゝやに承はる、なほ陛下には先帝御追福の思召から、世に最も悲慘な境遇にある癩病患者根絶の畏き思召から、さきに國、官立の癩療養所並にその職員に對して莫大なる御下賜金のあつた事は周く知る所で國を擧げて感激した所[illegible]滿洲出動兵士に防寒の眞綿を賜はりて御慰問遊ばされた。

澄宮殿下は士官學校御入學

澄宮殿下には來る三月學習院四年を御修了、四月からは陸軍士官學校豫科に御入學遊ばされる筈であるが、將來は騎兵科を御志望の趣きで、隨つて非常に馬術に御堪能であらせられる。

兩皇弟殿下の御精勵

陸の秩父宮、海の高松宮として陛下の御双翼にあらせらるゝ兩皇弟殿下には、皇族方の中でもその御德高き範を示され、軍務に御精勵遊ばされるが、秩父宮殿下には昨年十一月、三年間の陸軍大學生活を終へさせられて麻布三聯隊に御歸隊、目下は一大尉として御六中隊長の職にあらせらる。高松宮殿下にも大尉に在はし霞ケ浦海軍の大異動によつて軍令部出仕から海軍砲術學校高等科學生を仰付けられた。

御寫眞　上段――聖上陛下（中央）皇后陛下（右）皇太后陛下（左）中段――順宮厚子內親王殿下（右）秩父宮殿下（左）秩父宮妃殿下（中央）下段右から高松宮同妃兩殿下、照宮成子內親王殿下、孝宮和子內親王殿下、澄宮殿下

新年の辭

茲に昭和七年の元旦を迎へて吾人の感懷は實に少くない。凡そ國として最も望ましい姿は、上に英明仁慈の君主いまし、下に忠誠賢良の臣子あり、相輯睦して國運の伸張を期するにある。今の日本の大勢は正にそれだ。就中吾人海外に生を營むもの常時念とする所は、祖國の推移變遷である。人情は父母を念ふより親しきはなく、懷思は宗家を愛するより切なるはない。吾人の父母たる今上兩陛下、玉體益々康健に、宗家たる皇室愈々御繁榮に渉らせ給ふ。今や新春の佳節に當り、高臺に登つて炊煙の盛なるを望み、玉簾を掲げて民人の疾苦を察し給ふ時吾人の先づ喜びに堪へぬのは、一にこの帝家の惠澤である。

唯夫れ昭和六年度は國政上實に多事多端であつた。而してそれに引き續く七年度は、更に大なる問題に直面して居る。內にあつては產業振興の國是を確立し、外に向つては東洋平和の大業を完成せねばならぬ。歐洲大戰後の世界は、爾來十餘年間を波瀾重疊の裡に送迎した。切言すれば國際平和の支柱を失ひ、人類擧つて疑惑不安の淵に呻吟して居る。之が爲に幾度か平和會議は召集され、幾度か新經濟策は討議されたが、隨つて出づれば隨つて紛糾し、就中亞細亞の過半を占むる東洋大陸は、亂離混沌、益々闇るべき禍源を深且つ廣ならしめた。

かくの如きは獨り亞細亞民族のみならず、實に世界全民族の不幸である。隨つて、この世界の不安を除去せんと欲せば、先づ東洋の現狀を匡救せねばならぬ東洋の現狀を匡救せんと欲せば先づ支那大陸の動搖を截定して其の波及する諸弊を掃蕩せねばならぬ。日本が最近手を滿蒙問題の解決に染めたのは、この必至的趨勢に發憤して、全支那の自覺を喚起せんと欲する當然の歸結だ。萬國無比の國體を有する日本が、上下一致協力して、進んで東洋民族平和の支柱となり、延いて世界平和の新基礎樹立に貢獻せんとする、決して偶然でない。昭和維新の洪業は實に此一點にあることを、この新年の第一日に於いて吾人は主張する。

日支問題を一切解決　東洋永遠の平和確立

內閣總理大臣　犬養　毅

茲に昭和七年の新春を迎へるに當り謹みて聖壽の萬歳を祝し奉り、併せて七千萬同胞諸君に賀意を表すると同時に尙この機會において聊か所懷の一端を述べ國民諸君の御贊同を得たいと思ふ。

先づ第一に御覺悟を願はなければならぬことは、日支紛爭問題であつて、之はこの機會において是非とも解決しなければならぬ、日本は何故にロシアと斷交したか、何故同胞十萬の血を犠牲にして二十億の巨資を擲つて惜まなかつたか、之は全く東洋永遠の平和を確保し、延いては世界人類の文化に貢獻するところあらんとする崇高の信念に基いたものである、幸ひに當地の支那の政治家も日本の眞意を諒解し幾多の條約は双方に善意の下に締結せられ、爾來滿蒙の地は日に月に開發せられ、日露戰爭前には僅かに九百萬人であつた同地方の人口は四分一世紀後の今日においては既に三千萬を突破するの盛況を呈するに至つた、これ實にわが日本民族の努力の賜ものといはねばならぬ。

然も日本はこれに滿足するものではない、更に益々進んで及ぶ限りの力を傾注し人類文化のために滿蒙開發に努力しつゝあるに對し、近來支那政治家は日本の眞意を解せず、盛に大衆を煽動して排日運動を行ひ、條約を無視し或は破棄せんと企てるに至つた。

斯くの如く彼等の態度は世界人類に對する背德である、殊にわが日本民族にとりては、實に生命に對する脅威である、故に昭和三年五月時の政府田中內閣は、滿蒙の治安に關して聲明書を發し同地方の治安を攪亂若しくはこれを紊るの原因をなすが如き事態の發生は帝國政府の極力阻止せんとする旨を力說して、これを支那政府に交附した、然るに彼等はなほ悟らず遂に今回の如き事變の勃發を餘儀なくせしむるに至つたのは寔に遺憾千萬である、若し此機會において日支紛爭問題の一部を解決しなければ、東亞の地は永久に不安に陷らされ、わが民族は遂に大陸から退却するの餘儀なき運命に陷るかも知れぬ、これは斷じて忍び得べきことではない、吾々は如何なる困難をも突破して斷々乎として一路根本解決に向つて進む覺悟を持たねばならぬ、次に經濟問題についても吾々には既に與黨の政務調査會において決定したるものもあつて大體對策方針は立つて居るが、なほ當面の問題については折角當局において研究し着々實行に誤りなきを期して居る次第である、終りに臨み國民諸君は年の新たなると共に更に心を新にし國家のため盡瘁せられんことを切望に堪へませぬ。

支那福祉增進に　全幅の同情と支持

外務大臣　犬養　毅

昭和七年の新春を迎へるに當つて、わが國際關係を大觀するに、對支關係においても亦對世界一般關係においても亦極めて多事である、先づ對支關係を見るに、極東の平和を確保し日支共榮の實を擧ぐることは明治以來わが傳統的國策であつて、今日においても何等變るところがない。

滿洲事變のわが對策も亦一に右國策に依據するものである、滿蒙は嘗て我國がその興亡を賭して凡ゆる犠牲を忍んでロシアの極東侵略を擊破して以來、門戸開放、機會均等の原則の下に內外人安住繁榮の地たらしめんことを要望してわが官民力を盡して其平和的解決に從事し支那軍閥私鬪の波及を阻止し來つたのであつて、わが國防上並に國民的生存上重大至上の利害關係を有するのである。

從つて若し此歷史と此現實を無視してわが滿蒙權益を蹂躪し治安を紊す者あらば、其何者たるを問はずこれを排除し以て滿洲が內外人安住發展の地として保持せられるやう必要なる措置を執るべきはいふ迄もないのである、又支那本土においてもわが通商貿易が暴力により阻害され或はわが居留民地に重大なる被害が及び、斯くの如き事態に對しては機を逸せず有効なる手段を以てわが權益の擁護に當るべき事亦當然である、現在の支那が國內の軍閥政治家、共產主義者其他の不正分子に依つて禍ひせられ漸次無政府狀態に陷り、又國家としての實質形體を共に失ひつゝある事實は、啻に支那民衆のため絶大なる悲慘事であるのみならず善隣のわが國にとつても亦極めて不幸である。

若し支那における穩健分子が同國民衆を極度に苦めつゝある封建的諸軍閥、共匪其の他の破壞分子を排除し、民衆の疾苦を救濟すると共に勤勉なる民衆の努力を啻に彼等自身の幸福のためのみならず延いては人類一般の福祉增進のため建設的方面に向はしむるに至らば、我國としても此種運動には全幅の同情と支持とを與ふべき事勿論である。

之を要するに我國は極東の平和を攪亂する支那軍閥が其不正分子の排日的行動に對しては自衛的見地より飽く迄之を排除すると同時に他方支那官民にして自ら國內を廓清し且つ日支共榮の本義を重んじ極東の平和と繁榮とに貢獻せんとする者に對しては、協力提携して相互の福祉增進を圖らんとするものである。

次に支那以外の諸國との關係如何を見るに大體において滿足なる狀態にある、滿洲事變勃發の際は歐米諸國中多少誤解を抱く向きもあつたが、其後實狀判明に伴ひ漸次わが公正なる立場を認識するに至つて居る、近く支那に派遣さるべき國際聯盟委員の調査は支那の實狀に關する歐米の認識を助成するに役立つべきものあると同時に、延いて支那を無政府狀態より救ひ建設的方面に資する處あらば幸ひである、又我國は世界各國を擧げて苦みつゝある經濟不況打開のためには進んで國際協力をなすに吝かなるものではない。

殊に明春開催せらるゝ軍縮會議には有力なる全權團を派遣して、その事業に協力する事になつて居る先年の華府及びロンドン海軍會議におけるが如く、我國が人類の平和と繁榮とに貢獻し居ることはわが國民の喜びである、昭和七年のわが國際關係は斯くの如く多事なることが豫想せられるが、此重大なる時局に際會してわが國運を擁護伸長すべき責務を有する吾國民は擧國一致なほ一層の緊張と努力とを有することは一般の等しく痛感する處であつて、吾等一致の協力により此一年が我が國運隆興の歷史に貢獻することゝならんことを諸君と共に希望するものである。

國民の努力により　所謂「陽春布德澤」へ

大藏大臣　高橋是清

昭和七年の新春を迎ふるに當り年頭の所感として一言致します。所謂世界の不況は一面に於て歐洲戰後世界各國に於ける生產技術の一大進步に伴ひ、製造工業品農產物等の生產額は非常に增加するに至つた、然るに其反面に茲數年の間世界各國は競つて金本位制復活に力むると同時に、デフレーション政策を遂行したるが爲め、增大したる物資の供給と、之を消化すべき購買力との間に權衡を失し爲めに物價の激落を來し、あらゆる生產事業は非常の窮境に陷り失業者續出して遂に世界を通じて經[illegible]收拾すべからざる時局に陷つたのである。勿論我國の經濟界も此經濟界を脱することが出來ず、經濟界の不況は日に月に深刻を加へ、何種の事業を營む者も其生產費さへ償ふ能はず、作れば損、賣れば又損といふ有樣であつた、斯の如き狀勢では國民經濟の發展は得て望むべからざるのみならず、國家社會の前途實に寒心に堪へざる所であります。凡そ正しく働く人々に對し正しき報酬の保障せらるゝやうな世相を作り出すことが政治經濟上最も肝要であると思ふのであります。

現內閣は組閣と同時に金の輸出を禁止したのであるが、之は一昨年の金解禁後豫想外に多額なる正貨の流出あり、殊に昨秋イギリスの兌換停止以來其勢急激を告ぐるに至りましたが、前內閣においては極力既定の方針を繼續せんと努めたる結果、我國の金利は愈々高騰し金融梗塞して產業界の壓迫は一層甚だしきに至るべきは明かであり、此上國民に大なる苦惱を強ふるは斷じて不可なるのみならず金兌換制度を維持せんが爲めあらゆる一切の犠牲を國民に忍ばしめんとするは本末を顚倒するものであります、加之如何に努力を續くるとも內外の大勢は金輸出禁止必須の情勢に在ること明かなるに至りたるを以て政府は現下の國民經濟對策として最も肝要妥當の處置なりと信じ禁止を斷行したのであります。

世間には金輸出再禁止すれば、直に好景氣到來するものと速斷するもの無きに非ずと雖も左樣に簡單には參りません、成る程之がために爲替は低落し對內的に物價昂騰し對外的には却つて低落するを以て國內產業を刺戟し、外國貿易の上にも好果を齎すもの、如くなるも、國民が今後緊張したる精神を以て勤勉事に當るに非ざれば將來の好結果は俄に到來するものではない、殊に一時の反動景氣に醉ふが如きは最も禁物とせねばならぬ所であつて、飽くまで着實穩健なる方針を以て事に當らねばならないと思ふ、即ち今後は漸次働く者が働き易き時代に移ることゝせねば成らぬ、それには人々の働きを尊重せねばならぬ、是れ經濟發展の第一條件である。しかしながら折角のその働きを浪費せざることが即ち無駄を省くといふ事も亦國民の充分注意を拂はねばならぬ點であると思ふ。

之を要するに昨年末に至るまでの我經濟界は古人が嘗て四時榮落三分減、萬物蹉跌過半凋、と詠じたる如き有樣であつた、今や年の新たなると共に所謂陽春布德澤といふ風に進めたいと思ふ、而して果して左樣に進むや否やは國民諸君の覺悟の如何に由るのである。

滿洲問題を解決　國運進展に寄與

拓務大臣　秦　豐助

昭和七年の新春を迎ふるに際し一言所懷を述べて年頭の辭とする。自分は拓務大臣に任ぜられ舊臘測らずも拓務行政統理の任に當ることゝなつたのであるが、國家多事の際この重責を擔ひ只管赤誠を以て任に當り大いに拓務行政の實を擧げ以て輔弼の任を誤らざらむことを深く期する次第である。

昭和四年六月拓務省の設置を見たのは時運の進展と共に拓務行政を等閑に附し得ざる事情が朝野に痛感せられた結果であつて國策遂行上寔に適當の施設といふべきである。

然るに設置後僅か二年有半にして前內閣時代に行政整理の犠牲に擧げられ廢止せられんとするに至つたとは甚だ遺憾に堪へぬことであつた、斯の如きは正に時勢を察せず拓務省の本來の使命を解せざるより出でたるものであつて甚だ當を缺くものといふほかないのである。

我國の現狀を見るに內外多事多難であつて無爲消極徒らに座して環境の好轉を俟望し得ざる事態となり、茲に政局の變轉を見た次第であるが、新內閣組織と共に拓務省の存續を確定し、拓務行政の中樞機關としてその機能を發揮せしむることになつたのである。

朝鮮、臺灣、關東州、樺太及び南洋群島の統治に關する事務は年と共に重要性を加へることは明かであり、又滿鐵、東拓の業務の監督に關する事務は益々複雜となつて行くのであるが、更に又遠く南洋南米における移植民及び海外拓殖事業に關しては新政綱の下において海外進出の急務が更に強く提唱せらるべきは火を見るよりも明であらう。

斯の如く拓務省の主管事務は將來益々複雜に且重要となるべきであると信ずるのであるが、更生の拓務省として直面善處する最も重要なる事務は刻下の大問題たる滿洲問題に外ならない。

朝鮮總督府及關東廳に關する事務を統理し、南滿洲鐵道株式會社の業務を監督する等の重責を擔ふ當省として滿洲における治安維持の問題、鐵道、通信、通貨、金融其他の產業問題、在滿鮮人問題等に關しては今回の劃期的事變を契機に將來の根本方針樹立に關し各方面と十分連絡を保ち慎重に考慮し速かに處理し國運の進展に寄與すべき重大使命を有するのである。

回顧すれば昭和六年はまことに多事多難な年であつたが今昭和七年も亦益々多事な年であらう。自分はこの年頭に際し更生の拓務省が大いにその機能を發揮して拓務行政の實を擧げその重責を果すに遺憾なからむことを切望して已まぬ次第である。

陣中の年頭所懷

堂々、正義への進軍

關東軍司令官 陸軍中將 本庄繁

關東軍は客年九月暴戾なる支那軍隊の挑戰に應じ敢然起つて軍事行動を開始し、爾來月を閲すること四箇月、或は正規軍、或は匪賊と戰ひ、時としては又酷寒饑餓と戰ひつゝも士氣益々旺盛にして克く威武を中外に發揚し、茲に目出度新年を迎ふるに至りしは同慶に堪へない。是れ固より聖上陛下の御稜威の然らしむる所であるが、他面においては又全國各方面熱烈なる後援の結果たるや明にして、全軍將士と共に深甚の謝意を表する次第である、惟ふに今次皇軍の軍事行動は單に暴戾非道の支那東北軍權一味を排擊するに止まらず、更に進んで滿蒙三千萬民衆を救濟甦生せしめ滿蒙の天地に永遠の平和と正義とを確立し人類の福祉を增進せんとするものにして、崇高なる倫理運動、堂々たる正義の進軍である、是れ卽ち皇國九千萬同胞の大理想に基くものにして將士一同家を忘れ身を顧みず喜んで難に赴く所以亦こゝに存するのである、吾々在滿將士一同はこの光榮ある使命を念ひ年と共に愈々その信念を牢ふし假令如何なる難局に際會するとも敢然之を排除し一意專心大御心に應へ奉り、併せて九千萬同胞の期待に副はんことを期するものである。茲に聊か所懷を述べ年頭の祝辭に代ふる次第である。

守備隊の使命は東洋平和の確保

獨立守備隊司令官陸軍中將 森連

遙かに陣中より新年を賀し、併せて聊か所感を述べ國民全般に對して訴へ其奮起を促したい、我獨立守備隊は如何なる事を爲し又爲さんとしつゝあるかに就いて理解されて居る人が極めて尠い事を私は最も遺憾として居る。吾々の任務は滿鐵線並に其附屬地を守備するものであると解釋して居る樣であるが、それは單にその一斑を見たもので吾々は帝國擁護の先驅とし將又東洋永遠の平和を確保する重大な使命の下に活動して居るものである。昨年來日支關係が惡化し、排日侮日の思想が南滿、北滿のみならず支那全般を風靡して居る、之は南京政府及張學良の日本の勢力を滿蒙から驅逐せんとする根本方針から出たものであるが、滿蒙は我國の生命線である、之を奪はるゝ事があれば、政治、經濟、國防上日本の前途は寒心に堪へず、吾々は如何なる犧牲を拂つても之を死守せねばならぬ、國策遂行上吾々の使命が如何に重且大なるものであるかに就て、常々より將卒に對して訓諭し、我軍の威力を蒙昧な支那軍隊並に兵匪馬賊に知らしめ不逞の徒を掃蕩し、我國家權益に一指だも染めさせぬ爲、將卒一同晝夜を別たず、零下卅餘度の嚴寒の下に潛伏斥候に、巡察警備に嚴重な警戒に努めて居る將卒の辛勞を思ふと涙無しに居られぬ、明日の戰ひに備へよとのモットーがあるが、吾々守備隊は、そんな悠長な事は云つて居られぬ、今日の戰ひに備へよを標語として朔北の野に文字通り不眠不休の活動を續けてゐる、この平素の實戰的訓練が今回の事變に對して非常に役立つた。九月十八日事件勃發後北大營、東大營、鳳凰城、南嶺に殆ど滿鐵全線に亘つて極めて寡少な小兵力を以て數萬の學良軍を疾風迅雷的に一瞬の間に擊滅し得た、之は陛下の御稜威の然らしむることもさよりであるが、平素の訓練と支那の横暴に對する燃ゆる如き敵愾心に依るものである、九月十八、十九日の我軍の奮戰に依つて學良の東北軍閥の力は滿蒙から一掃されんとしたが、其後國際聯盟の動きと我中央政府の態度等が原因して最近またも東北軍閥は息をつき返し、錦州を中心として盛に抗日救國を標示む馬賊兵匪便衣隊約三萬を糾合し、正規軍を其幹部とし、錦州軍の別働隊として盛んに滿鐵沿線に送り出し、掠奪、慘殺、暴行等あらゆる暴虐を逞しふし頻りに我生命財產を脅かすと共に治安を亂しつゝある、是等匪賊の討伐掃蕩に守備隊は東奔西驅、九月以來討伐回數五十餘回に亘り、十一月の如きは三十回の討伐を敢行し、千餘名の匪賊を擊滅し、將校卒は殆ど每日寢食を全く交代も休養もない、最近は吉長、四洮、洮昂線にまで守備區域が延び事件前迄は九百八十餘キロが一躍二千餘キロとなり兵員は補充も增派も無いが、各部隊は一死報國の念に燃え、非常な緊張で戰鬪の結果却つて減少して居り病者も極めて尠く士氣益々旺盛あくまで重任を完ふする覺悟と決心を有してゐる、國民も我々の心境に共鳴して擧國一致、國運進展のため奮起されんことを切望する

至誠一貫　關東軍司令部　本庄中將

民族發展の歷史に光彩を添へよ

關東長官 塚本清治

昭和の年、七たび茲に新にして皇威愈々輝き、國運益々隆に、九千萬の臣子、同心一體、民族發展の前途に向つて、更に長足の一新飛躍を試みんとす、幸慶何ものか之に加へん、今や時局多端その終結を見ずと雖も、鴻鈞一轉舊去り、新來り扶桑初日の光は曈々として滿蒙氷雪の原野を照し、東亞の天地復昨年に非ず、吾人滿蒙の地に在る者、この佳辰に當つて感喜尤も深く、希望洋々として欣躍自から禁ずる能はざるものあり。遙かに帝闕を拜して謹みて聖壽の萬歲を祝し奉り、併せて所懷を述べて、滿蒙在住の同胞に告ぐ

思ふに、東亞經綸の大業は、我等民族の夙に希ふ所、而も能く之を遂行して、以て永遠の平和を確保し、人類共榮の理想を實現せんとする、固より支那民族の覺醒親和に待たざるべからず

然るに支那當局の頑迷悖戾なる、徒らに眼前の私利私慾に汲々として、國際親善の通誼を思はず、常に民衆を煽動强壓して、濫にわが國權を侵害し、わが國民を排斥し、終に今次の事變を激發せり、その亡狀無道實に神人の共に容れざる所たり、事起つて以來、わが帝國の態度は公明正大、一點の私曲を存せず、その暴虐を膺懲するや、疾風迅雷、以て兇賊の膽を奪ひ、一意過の擴大を阻止し、戰勝つて兵を撤し、敵散じて戈を戢め、毫も自衞の範圍を出でず、國際に折衝するや、公論正議、東洋和平の大旆を揭げ、列國の認識不足を是正し直接交涉の一途に邁進して斷乎として他の干涉を排せり。是皆支那民族の覺醒を促し、東亞經綸の大理想を共にせんとするの精神に本づかざるはなし、幸ひにして帝國正義の主張は世界の輿論を動かし、而して滿蒙における支那民衆亦能く自國の現狀に覺醒し帝國の態度に信頼し翕然として舊東北軍閥の苛虐を排し、以て獨立自治の新政權を樹立するに至れり是實に東亞和平確立の第一着歩にして滿蒙の歷史に一新時期を劃せるものと謂ふべく、將來の發展將に刮目して觀るべきものあらんとす、日支兩民族の幸福豈之に加ふるものあらんや

然りと雖もその事業は絕大にしてその前途は遼遠なり、滿蒙に在住する者、この機運の到來を喜ぶと共に、その使命の重大なるを思ひ豁達剛毅、絕大の抱負と絕大の努力とを以て各々其の業務に從ひ、東北支那民衆と共に肝膽相照して產業を興し、文化を弘め國家永遠の大業に向つて着々その步武を進めざるべからず、是余の希望に堪へざる所なり

今や朔北の野、嚴寒骨を刺し、兇賊虐を逞ふし、その暴を懲らし、良民を護るの勞苦、實に察するに餘りあり、其他運輸交通の任に當る者、醫藥看護の務に服する者の如き亦皆身を忘れて王事に盡瘁せざるはなし、歲華斯に新にして希望維新なりと雖も、邦國益々多事、徒らに迎春の酒に醉ふて、以て太平と醉樂を貪るの時に非ず、願はくば滿蒙の人士と共に渾身の力を盡して以て邦家の進運に貢獻し、昭和七年をして、民族發展の歷史に、一大光彩を添ふるの年たらしめんことを、是を年頭の辭となす

國際的の大舞臺に躍出した滿蒙

平和郷建設曙光歡喜に堪へず

滿鐵總裁 伯爵 內田康哉

昭和七年の新春を迎へるに當つて想起せざるを得ざる事は、昨年支那兵の滿鐵線破壞に因つて起つた滿洲事變である、この事變は或る意味において歷史上曾つて見ない重大な意義を持ち、又支那本部將來の運命に影響する處甚大なるものあるべしと思はるゝが、滿蒙自體が忽然として世界の舞臺に躍り出でその存在を知られたのみならず、國際聯盟が之に干與した事に依つて近代の國際的重大問題となり、全世界の視聽を集め、事變は啻に日支間の問題に止まらず、全世界の重大關心を喚起するに至つた、滿蒙自體の躍出はいふ迄もなく日本が自衞權を發動し、その自衞權の命ずるが儘に巳むなく軍事行動を續けた事である、その結果これ迄世界各國は勿論、支那でさへ體として知られなかつた滿蒙の特殊事情が自然と認識されて來たのである。滿蒙は支那領土の一部ではあつたが、實際は支那本部とは殆ど獨立の關係を保ち、張作霖、張學良は東三省の勢力を以て屢々支那本部に乘り出し、恰も滿朝發祥當時の如く支那中央の運命までも制せんとしたのである、殊に張學良に至つては、その餘勢を驅つて日本の滿蒙における勢力を驅逐せん事を企圖し、先づ日本を牽制するため南京政府と手を握り、表面上外交問題を中央の管掌に移したが、南京政府は滿蒙の實狀を知らず、張學良の術中に陷り只徒らに日本を排斥せんとし再度戰つた歷史を無視し、條約上の權益を冒瀆して顧みず、遂に昨年の事變を勃發するに至つた、茲において日本軍は正義のため敢然起つて寡よく衆を制し、今や着々兵匪掃蕩の實を擧げ、滿蒙三千萬民衆の魍魎を驅除して止まなかつた平和樂土建設の曙光が現はれるに至つたのである。滿蒙の狀態が斯くの如くなつた以上、滿蒙本來の歷史的事情に顧み支那本部の干涉から離れて、始めて滿蒙に平和と自由を得るものであり、又再び今回の如き事變を繰返す事を免るゝのである、世界的には今回の事變は國際聯盟に對し非常に有益なレッスンを與へ、聯盟將來の發育上得難き經驗であつたから、聯盟は今後如何なる國に如何なる問題が起らうとも慎重に之に當り、輕率なる干涉を加へて深入りする事なく因つて來る原因を探究し、萬全の方途を講ずべきである、幸ひにして今回の事件は或種の解決を得て、一段落を告げ、この上認識を誤るが如き事なかるべきも、支那滿蒙に關する限りは元來問題の絕えない國であるから、聯盟は今後支那について研究を怠らず、認識を分明にし如何なる問題が惹起するも善處するやう希望する次第である。畢竟現實に卽せず、單に理想を基調として聯盟規約の條項を解釋し若しくはこれを適用せんとする事は、眞に危險千萬であるといふ事が學び得られた譯で、この意味において滿洲事變は國際平和のために偉大なる貢獻をなしたものである。

萬物革新　內田滿鐵總裁筆

建國の本義に則り皇道を八紘に布施

陸軍大臣 荒木貞夫

茲に昭和七年の元旦を迎ふるに當り恭しく聖壽の萬歲と寶祚無窮を祝し奉り、併せて益々國運の進展と隆昌とを禱る事切なり、今や皇國は思想界に經濟界にその他各般の上において極めて重大危機に際會し、加ふるに滿洲事變は吾人が一大覺醒と決意とを以て斷然この難局を打開し、以て東洋永遠の平和を確保促進すべき唯一の機會を實現せり、吾人は須らく新年と共にその意氣を新にし所謂歐米模倣の弊習より脫退し、我は日本人なりとの自覺の下に日本々來の面目に立ち歸り、諾册二尊八洲創造の意義を體し、天照大神垂示の神勅を奉じ、神武天皇建國の本義に則り、斷乎皇道を八紘に布施せずんば已まざるの決意を以て邁進し、國家永遠の計を確立せざるべからず、些か所信を述べて年頭の辭となす（寫眞版は陸相の書）

六合兼都八紘爲宇　貞夫

犧牲將士に對し永久に溫い同情

滿洲駐剳第二師團長陸軍中將 多門二郎

歲華茲に改まり昭和壬申の新春を迎ふるに當りまして遙かに陣中より聖壽の無窮と國運の隆昌を祈る次第であります。小官滿洲駐剳を命ぜられて既に一年に垂んとしてゐるますが、此間を顧みて感慨無量なるものがあります。今や滿蒙の時局は益々多事、之が解決は須臾も忽せに出來ぬ問題で其解決方法の如何は惹いて、我國運の消長に關するものである。余はもとより一介の武辨に過ぎぬが、常に思ひをこゝに致し、統率する將卒と共に滿洲事變勃發以來征戰に從ひ東奔西馳各地を轉戰し、北滿における數度の戰鬪において暴戾な黑龍江軍を殲滅し、皇師の武威を世界に宣揚し、延いて滿蒙問題解決に多少資する所あつたことゝ信じて居ます、たゞ江橋、昂々溪、チチハルと轉戰する間に、忠勇義烈な幾多の軍隊を戰死せしめ、若しくは負傷させたことは痛恨至極で、上陛下に對し奉り恐懼に堪へざるのみならず、是等の戰歿傷病兵等の遺族、親戚、知友に對して誠に申譯なく今更會はすべき顏もない次第である。

最近滿蒙問題の重大性に關しては國民齊しく之を認識理解し、吾々が何故に極寒の荒野に身命を曝し銃劍を把つて戰つて居るかをよく了解して絕大な國民的支援を寄せられて居る事を深く感謝して居る、然し日本人の通有性として一時的の熱にうかされて夢中になつて居る時はいゝが、いざ戰が終ると直に何事も忘れ去つて顧ない者が多いので、從來の經驗に依ると、戰死者遺族や傷病兵は其日の生活にすら窮迫するやうな氣の毒な狀態に置かれて居るが、國家も國民も此等の人々に對して充分なる救濟の途を講じて居ない憾みがある、今回の戰鬪で戰歿した勇士の家庭には涙なしに見られぬ氣の毒なのが非常に多い、殊に凍傷の爲め四肢を切斷し生れもつかぬ不具者となつた人々の將來を思ふと、哀れとも悲慘とも言ひやうがない、護國の爲にかういふ運命に立至つた遺族傷病者に對しては國家國民は如何なる犧牲を拂ふても出來る限り手厚く慰藉し救濟してやる義務がある、私は特に此點を國民大衆に訴へ單に一時的でなく永久に溫かい同情と救援を與へられん事を切望してやまぬ。

明日の滿蒙

關東憲兵隊長 陸軍少將 二宮健市

一九三一年の世界は未だ曾て經驗せざるところの重大なる事態に直面した、その一は全世界に亘る經濟恐慌であり、他の一は實に今次の滿洲事變である、而して前者の世界的經濟恐慌の旋風は歐洲各國の財界に致命的打擊を與へ、黃金王國を誇るアメリカをさへ不況に沈淪せしめた、わが財界も亦可成りの手痛き影響を受けたとはいへ、世界の中心市場に遠いが故に辛うじてなほ幾分の餘裕を得た如くである。然るにこれに反して今次の滿洲事變は我等の避け難き生命線の守りであるが故に、我國としては國運を賭し、且如何なる犧牲を忍んでも守り拔かねばならぬ、蓋し緊急的、且必然的な事實に直面したのである、これ當事國日本の重大危機といはねばならぬ、幸ひわが機宜を得た應急の措置と、擧國的國民の熱烈なる後援とにより、多年三千萬東四省住民に重壓を加へ來つた舊東北軍權を掃滅し、略われ等が生命線の確保せられたるは等しく同慶に堪へない次第である、しかしながらなほ明日の滿蒙に對しては吾等は更に層一層の關心と覺悟を持たねばならぬことを痛感する、しからば明日の滿蒙とは如何なるものか？卑見によれば、その政體組織の如何なるかを問はず、飽くまで滿蒙は其日に安んじ樂土に就き得る東北三千萬民衆の樂土郷建設にあらねばならぬ。「滿蒙に國際理想郷を建設せよ」とは余の深く祈念するところである、滿蒙を理想郷たらしむるがためには、多種の要素あらんも現實の問題としては治安の維持と苛斂誅求の救濟にある、卽ち舊軍閥、匪賊等の跳梁跋扈に委ねたることの滿蒙の地に平和の光りを輝かし、これ等軍權に搾取せられたる民衆をその塗炭の苦より救ふことを以て第一段階としなければならぬ、これが完全に實行せらるゝ、こゝによつて滿蒙三千萬の民衆は始めて平和の樂土郷に住み得る事と信ずる、然もこの涅槃への建設は、一に在滿日支兩國人の眞の提攜協力に俟たねばならぬことも亦余の說を要せぬ所であり、兩者の心からなる握手協和こそ世界の無可有郷たる滿蒙の樂土建設に向つての一大源泉たるとを信ずるものである

われ等素より微力とはいへ、こゝに信實行に努めたきものと念じてゐる、今や世界史上に絕大なる意義を齎すだらうところの滿蒙の重大時機に直面して昭和七年の元旦を迎ふるに當りこゝに些か所懷を述べて新春の辭に代へる次第である

國論統一を切望

支那駐屯軍司令官 陸軍中將 香椎浩平

滿洲及び天津事變の將來が如何に展開するかといふ事は、主として支那側の出方一つにあるのであるが、今度の事變前及び其後において世界總ての人々の周知せる如く支那側が飽く迄圖々しく惡辣陰險な術數を弄せば、永く強く一貫せる日本の正義觀を大爆發に導くものと豫想される、この場合凡ゆる責任は支那が負ふべきである事は言を俟たぬ、正義一點張りは局外者にも隨分廻りくどく見ゆるであらう、然し何といつても日本は正義の塊である、急がば廻れでたゞ一筋に正義に向つて邁進す可きである、そは取りも直さず大日本建國の精神であり榮光を永遠に輝かす所以である、今次事變に對するわが國論は日露戰役以來初めての統一された熱烈なもので同時に不健全な思想は吹き飛ばされた、これは畢竟正義の現はれである、之が我々第一線に立つてゐる者に取つて何よりの後援で、この國を擧げての後援の下に、馬革に屍を裹むは實に武人として本懷至極とする所である、どうか今後も益々堅忍持久最後迄國論の統一支持を熱望して止まない、また申したい事は數々あるが口舌よりも實行である吾々は只管實行によつて現實の上に國運の進展と國威の宣揚に努むべくこの信念に生きこの覺悟に終始するものである

朝野を擧げ一大覺悟を要す

大連市長 小川順之助

多事多難なる昭和七年の新春を迎ふるにあたり聖壽の萬歲を祈願し奉り國運の隆昌を祝福すると共に遭回の國難に對しては國民の一大決心を要するものありと考ふるのであります。

囊に支那兵匪は滿蒙に於ける我權益を蹂躙したるが故に皇軍は自衞權の發動により之を膺懲すると共に各地に轉戰し多大の犧牲と非常なる困苦とに堪へ匪賊を擊滅して治安の維持に努むると共に錦州における學良軍閥を掃蕩しつゝありかくして吾人は東北四省民の基調とする建設近きにありと確信するのであります。從來滿洲における支那軍閥は外に對し條約を無視し凡ゆる不法行爲を敢てしたるのみならず內にありては內政紊亂その極に達し馬賊兵匪は橫行して生命財產は脅せられ軍閥政府は苛斂誅求至らざるなく民衆は常に塗炭の苦をなめつゝあり、此秋に際し帝國は獨り我權益を擁護するのみならず、進んで滿蒙に於ける治安を維持し、東北四省三千萬民衆の爲め滿蒙をして一大樂園境たらしむる事は吾人の理想とする所にして、此理想實現によりて支那民衆が救はるゝのみならず、各國人は喜び來り住み資本の投下を呼び、經濟的に異常なる發展をなす事は明かなり、かくして我移民問題並に人口食糧問題も解決するは勿論、滿蒙が世界各人間に解放せらるゝに依り滿蒙が救はれ、日本が救はれ、世界が救はるゝのであります、此大理想の實現迄には幾多の難關ある事は勿論で之が責任を雙肩に擔ふ帝國としては此難關に處する方策を講ぜねばならぬのであります、支那の政權は混沌として豫想を許さない國民黨が崩壞せんとする時、三民主義の理想が打破せらるゝ時、青天白日旗が飜るゝ時、斯うした場合に支那の內亂は非常に擴大するは當然にして、そこに列强の勢力が介入して紛擾をしてより大ならしむのである、かくして支那の憐勢が東洋の局面に一大波瀾を惹起するのではないかと思はしむるのみならず、滿蒙問題を一の契機として、極東の風雲は愈々險惡化せんとしつゝあるは事實である、建國以來常に王道をふみ、正義に立脚して行動し來れる帝國は、何者の橫暴も許さず、何國の强大も恐るゝに足らずと雖も、此難關を突破し東洋平和の救世主となるには我國民は朝野を擧げて一大覺悟を要する事は勿論であります、此意義ある元旦に際し吾人は滲然屠蘇の酒に醉ふ事なく、共に與に國難に處すべく緊張したる然も元氣に滿ちたる新年を迎へたいと思ふのであります

崇高なる國民精神

關東軍參謀長陸軍少將 三宅光治

兵馬倥偬の間、茲に昭和七年の佳辰を迎へたり。顧みれば客年九月突如勃發せる事變に處して、我關東軍は兵を進むること大小幾十度、其地域は遠く東より北はチチハルに及び今や遼西一帶の地區に擴大せんとす。皇軍の向ふ所、至る所に武威を發揚して東洋永遠の平和を招來し世界人類共同の福祉を增進せんとす、實に旺なりといふべし。然り而して我國內の情勢を觀るに朝野翕然として軍の行動を壯とし擧國此一大難局に處せんとするの觀あるに似たり。若し夫れ朝夕出征將士の健鬪を祈願せらるゝ國民諸氏の熱情に對しては吾人此れに應ふるの言辭を知らず。夫れ戰場に斃れ或は傷つき或は極寒に病める將士並に其家族に對しては誠に悲痛の念に堪へず。希くは今後の奮鬪に依りて聊かなりとも其靈を慰藉の微衷を表せん。惟ふに今次の軍事行動たるや實に崇高なる國民精神の發露に他ならず、然るに創業未だ中途にして前途益々多難なり。吾人は天佑を確信して唯命以て此難局に處せんとす。茲に建設の意義ある新年を迎ふるに當り聊か所懷を述べて年頭の辭となす。

軍容を新に滿を持す

第三旅團長 陸軍少將 長谷部照倍

昭和六年は誠に多端の年であつた、殊に九月十八日夜滿洲事變突發以來、我等は暴虐なる支那兵の挑戰に應じて東奔西走、席の暖まる暇もなかつた。加ふるに事變に對する認識不足なる國際聯盟の橫車は我等第一線における戰士の意氣を挫折せしむるもの尠くなかつた。然るに今や新春を迎ふるに際し國際聯盟また我帝國の主張が至誠至純なることを諒解したるものゝ如く、國論また歸一して擧國一致し支那全土の步調漸く亂れんとし我等をして大に勇氣づけるものがある。我等は滿蒙問題解決の前途に輝ける光明を望みつゝ、茲に軍容を新にし滿を持して命令一下直に飛躍の機を待ちつゝ迎年の杯を擧ぐ

滿蒙開發の重大使命

混成旅團長陸軍少將 嘉村達次郎

酷寒北滿の野に新年を迎ふるに當つて、遙かに伏て謹みて天皇、皇后兩陛下の彌ます御榮えを壽ぎ奉ると共に帝國々民の隆勝を祈る。顧みれば昨秋事變突發以來、小官の部隊は麻の如く亂れた奉天の任に當り秩序整理と人心の安定、舊軍憲の兵器彈藥、その他軍用品の整理に努むること二ケ月、一部隊はその後チチハル方面の戰鬪に參加し、八十餘名の犧牲者を出した、皇國の安危に際して一死之に報ゆるは固より軍人の本分ではあるが、齡既に老ゆる小官が生き殘り、前途有爲の士を失つたことは斷腸の念を禁ずるあたはず、遺されたる父兄妻子に對しては滿腔の同情をよせるものである。然しながら彼等戰死戰傷將士の功績は、滿洲永遠の平和と共存共榮の礎となつて、事件解決も近き將來であることを信ずる。而して殘された問題は、今後の滿蒙に對して如何に處すべきかである。明治大帝御鴻業の一つである東洋永遠の平和確立の爲に、當局は勿論國民は更に一層滿蒙に對する認識を正しく深刻にし鞏固なる意思と相俟つて、滿蒙開發の重大使命を果さなければならぬ、小官は茲に國民の滿蒙に對する決心と覺悟をうながして、年頭の辭に代へるものである。

廿八年振の陣中正月

混成旅團長 陸軍少將 鈴木美通

予は日露戰役當時第八師團に屬して明治三十八年の新春を太子河の邊に迎へた。忠勇なるわが將卒の二十萬の命を捧げた日露戰役以來、各種の條約により保障せられたわが權益の自衞のために敢然として起つた皇軍に從ひ、而も同一師團下において、忠勇なるわが將卒と共に、北滿最前線の陣中において今二十八年目の正月を迎へた。當時と今とを思ひ較べ、二十八年間における滿蒙の情勢を考へ、國運の前途を思ふて、感慨洵に無量なるものがある。國家多事の際、武人の新春、素より何等の休養も許されぬ。陣中に年は改まるも、內は依然として一層の緊張を加へ、進んで國家の難局に當り、新たなる平和の礎石を築くべく、この新春に當り更に一段の信念を加へた。予が言はんとする年頭の所感はこれだけである

滿蒙王道之先驅　南海　混成旅團長村井少將書

賀正 旅順

旅順市青葉町四五 酒問屋 西本商店 西本勝衛 電話一八五番

旅順 潘修海

宏記 呉服店 電話三一八番 精米工廠 電話六六一番

養鶏經營 旅順市岩手町 岡野商會 岡野榮次郎 電話二八〇番

高等理髪 中央館 旅順乃木町

旅順 結髪 東美容院 調髪 昭和軒

旅順市乃木町三丁目 製靴 トロンコ 澤豊太郎商店 電話五二〇番

旅順市八島町 井上釣具店 電話六〇四番

旅順市新市街松村町 御國タクシー 電話四七九番

◎マルミヤ舞樂部創立 樂器 蓄音器 和洋雜貨 マルミヤ商店 旅順市乃木町三丁目電話六六六番 ◎旅順五景満洲寫創元

旅順市乃木町 電氣機械器具 津田電機商會 電話四六四番

旅順市乃木町 蓄音器 櫻井時計店 電話一九五番

旅順市乃木町三ノ二〇 齋藤洋服店 電話六五六番

旅順市乃木町 和洋諸雑貨 小間物毛糸類 友田商店 電話四一六番

旅順市青葉町 豆腐製造販賣 釘島商店 電話一一六番

本店 旅順乃木町 電話四六七番 旅大定期貨物 引越荷造 自動車大六運送 支店 大連恵比須町停留所前電話七四六二番

明治製菓株式會社 京城菓子株式會社 新高製菓商會 特約店 卸問屋 山岸洋行 旅順市乃木町三丁目電話四五四番

旅順市乃木町 陸海軍御用達 精肉 金太屋 電話二七五番

旅順市青葉町七二 紙、文具 糸小間物商 鮎川商店 江里口吉太郎 電話二五四番

旅順市忠海町 土木建築請負業 磯谷捨吉 電話六〇六番

舊年中は格別の御愛顧を蒙り厚く御禮申上候 尚本年も倍舊の御引立奉希上候 陶磁器 家庭用金物 硝子器 世帶道具一式 旅順仙洞山燒發賣元 緒方商店 電話四二番

自轉車附屬品 修理販賣 富永商店 乃木町電話四〇一番

自轉車 附屬品其他 田村商會支店 乃木町電話五一〇番

各種銘茶 茶器類一式 丸山茶舗 乃木町二丁目電話一六八番

柏木鐵工所 柏木常三郎 朝日町電話一八三番

山下鐵工所 山下好太郎 西町三九電話五〇九番

酒王富久娘 販賣元 入江商會 鯖江町五十番地電話一九〇番

銘酒 菊正宗 櫻正宗 金水商會 乃木町電話一〇六番

銘酒 霞鶴 釀造販賣 北川酒店 北川鶴之助 明治町五七ノ四電話四四七番

慶弔進物 各種記念品 大洋商會 乃木町電話五六五番

成松寫眞館 新市街松村町二二電話二五九番

ヒグチスタヂオ 大連連鎖街常盤町電話二二三〇番 寫眞機械材料販賣 樋口寫眞館 青葉町四二電話四一七番

迅速叮嚀 齋藤寫眞館 中村町八番地電話六六三番

和洋雑貨 藤井洋品店 新市街松村町電話五七番

圓橋商會 西田泰助 乃木町二ノ一九電話一四〇番

陸海軍各官衙御用達、船具、金物 機械、綿糸布、タオル其他諸納入品一式 センターストーブ 特約販賣店 岳南公司 乃木町三ノ六六電話三八二番

諸官衙御用達 久野商店 久野儀一 敦賀町電話一四九番

日米商會蓄音器部 新市街中村町電話六六四番

サクラ印サイダー、シトロン製造所 旅順櫻泉社 那須梅吉 電話二一八番

諸官衙御用達食料品雜貨 齋藤商店 電話一七六番

乃木町三丁目 ゑびす屋呉服店 電話一三〇番

製靴革類 阪本洋行 敦賀町電話六三七番

表具商 原榮年堂 敦賀町電話五三三番

井町商店 朝日町魚市場電話三三二番

寫眞器械、材料藥品、寫眞撮影 南満公司 旅順寫眞館 乃木町三丁目交番横電話四七二番 振替大連一八二九番

満電驛前タクシー 電話五二三番

満洲タクシー 旅順敦賀町(婦人病院前)電話二六二番

旅順タクシー 巖島町電話五六〇番

食料雜貨 山口屋 山口清輔 市場内電話五四一番

深川歯科醫院 青葉町電話四七六番

近江屋呉服店 乃木町三丁目電話七九番

旅順質屋組合

宮澤疊店 宮澤猛雄 旅順市大津町一八電話四九二番

土木建築請負 和田武吉 旅順市乃木町二丁目電話五八八番

小野田セメント一手販賣店 瓦材金物 船具 村上信二商店 旅順市乃木町電話一〇二番

旅順飲食店組合

旅順菓子信用組合

電機販賣 修理釣具 金澤屋 涌波初三郎 旅順市乃木町(郵便局前)電話五〇八番

竹川支店 宮地梅治郎 旅順市乃木町三ノ六電話一九四番

土木建築請負 築島組 築島米藏 旅順市乃木町二丁目電話三九七番

豆腐製造 福島屋 赤坂惣太郎 旅順市鮫島町三三電話一五八番

左官 大谷守 旅順市名古屋町電話七五二番

和洋雑貨 ふたば屋 旅順市乃木町電話六一一番

土木建築請負業 森谷吉五郎 乃木町三ノ二八電話四八三番

銘酒神代醸造元 土木建築請負 神田酒店 神田小太郎 乃木町二丁目電話三二三番

土木建築請負業 川谷竹次郎 伊知地町三三電話四七三番

歐米諸雜貨 内地各新聞取次 外山洋行 旅順青葉町電話二四一番

土木建築請負 山村組 大津町 電話五八九番

土木建築請負業 久野順一 鮫島町一ノ七電話一五三番

土木建築請負業 前西熊市 大津町四一電話三四三番

疊製造 興石商店 興石久作 大津町一六電話三六〇番

裝飾煉瓦及煉瓦土管製造 小林治作 金比羅町八電話五二五番

西洋家具、室内裝飾品漆塗及黒板、諸雜貨商 諸官衙御用達 清水洋行 敦賀町五二電話六七五番

和洋家具、書畫骨董 二宮商店 忠海町二四電話四五三番

材木、建築材料 西野商行 乃木町電話六八番

諸官衙御用 山田活版所 山田杢次 乃木町電話五四番

土木建築請負 廣垣治助 忠海町電話三〇七番

書畫骨董、貴金屬賣 石類、毛皮家具類 後藤勇太郎 末廣町一二電話四三九番

土木建築請負業 清住泰一 鯖江町一二電話五三四番

謹賀新年 小生儀從來喜野商會旅順支店の商號を以て營業罷在候處今般本田商會と改稱仕候間然樣御諒知被下度今後共一層御引立賜り候樣只管奉希上候 拜具 昭和七年一月一日 旅順市乃木町三丁目 本田商會 本田治三郎 (喜野商會旅順支店改稱) 電話四二七七番、振替大連一五四九番

旅順料理店組合

りんご紅玉國光 生みたて玉子 生みたて鵞卵 ウヅラ粕漬卸小賣 内地沿線送荷造 手續一切無料 旅順驛前 月見農園賣店 電話六二〇番、振替大連二七四一番 月見町 月見農園 富士町 養鶏場

野間式ストーブ製造元 野間鐵工所 野間鷹一 乃木町電話一九七番

旅順市乃木町 新鮮第一 渡邊果物店

土木建築請負業 石井組 石井本一 旅順市名古屋町一九電一一三番

満鐵撫順石炭特約販賣店 本溪湖煤礦公司代理店 千代田生命保險相互會社代理店 朝鮮火災海上保險株式會社代理店 日本麥酒鑛泉株式會社特約店 海軍糧食品御用達 一般倉庫業 旅順倉庫經營 倉庫所在地 旅順市八島町(電三一一番) 朝日町一丁目 石炭商 矢幡商會 出張所 滿鐵貯炭場構内 電話三〇六番

旅順市金比羅町 トラスト製造元 タイハンストーブ販賣 石井榮一 電話三七番

(いろは順) 鮫島町 稲富藥店 電話五八七番 乃木町 田中藥舗 電話三三六番 青葉町 萬代號藥房 電話四二八番 青葉町 宮竹藥店 電話一七〇番

石炭商 満昌洋行 旅順市八島町 電話一六六番 貯炭場 電話一四七番

満洲寫眞帖出版元 記念品卸商 東京堂 旅順乃木町三丁目電話八一番 大連連鎖商店街 電話二二一九五番

製鹽業 矢原商會 矢原重吉 旅順市巖島町電話八一・四四六番

朝鮮銀行旅順支店 正隆銀行旅順支店 旅順無盡會社 旅順輸入組合 キンユウクミアイ 旅順金融倶樂部

満洲乃華 高粱しるこ 加藤東金堂 出張所 旅順白玉山麓電話五三二番 大連市聖德街三丁目 電話九八三六番

土木建築業 本田組 本田與市 乃木町三丁目電話四一一番

旅順市外方家屯 林農園 山羊牧場 林源一郎

謹んで新春の御祝詞申上候 客年中は格別の御愛顧を蒙り難有御禮申上候 過去の業績に鑑み今後一層の努力を傾注可仕候間倍舊の御引立御愛顧の程偏に願ひ申上候 食堂 キムラ 浮田寅二郎 旅順市敦賀町角電話三〇五番

御旅館 寶來館 乃木町電話五六番

御旅館 防長館 青葉町電話二八二番

御旅館 旅順ホテル 青葉町電話三六七番

(いろは順) 岩崎洋服店 乃木町電話三六四番 井本洋服店 乃木町電話一五七番 高田洋服店 新市街大迫町電話三三七番 中山洋服店 乃木町電話三三九番 島村洋服店 敦賀町電話一七九番

(イロハ順) 御履物 乃木町 栗田商店 電話三四一番 御履物 敦賀町 ヤマ一號 電話五〇二番 乃木町 みやこ履物店 電話六五九番 青葉町 下村履物店 電話三三五番

敦賀町共榮會 井上玩具店 カフエー松尾 電話三六一番 玉屋モスリン店 電話九二番 熊井洋行 電話六七番 安永商店 電話九三三番 ヤマ一履物 電話〇二五番 小森運動具店 電話〇一五番 木村精肉店 電話一二六番 久富商店 電話二九四番

青葉町街燈維持會 (いろは順) 池田洋行 電話七四番 御菓子 泉屋 原田時計店 電話六七六番 早瀬商店 電話六四一番 新見時計店 電話八〇四番 岡女庵 電話〇三五番 大阪屋號書店 電話五一二番 吉野洋品店 電話八六一番 谷疊店 電話八四五番 高治洋行 電話八七番 山口商店 電話四九二番 やまご軒 電話九三四番 山本商店 中野日界堂 松崎紙店 電話二八一番 文英堂書店 電話〇七二番 コンパル食堂 瑞章堂印房 電話六三番 喫茶店スヾラン 電話八一六番

旅順料理屋組合 (いろは順) 西町 一力 電話二〇一番 同 蛤亭 電話四七二番 柳町 濱館 電話六九番 西町 東洋軒 電話〇八一番 川端町 吉田屋 電話一七二番 同 旅島屋 電話八三一番 十年町 松葉 電話三〇四番 川端町 満月樓 朝鮮料理 同 京城樓 朝鮮料理 西町 榮福樓 電話七〇三番 同 吾妻樓 電話八〇二番 朝顔町 堺樓 朝鮮料理 西町 新世界 朝鮮料理 同 新萬歳 電話二一三番 川端町 笑福樓 電話四三二番 東町 春海館 朝鮮料理 川端町 昭和樓 朝鮮料理

落語 猿後家

柳亭芝樂

本年の干支に因まして、猿後家といふ御笑ひを一席申上げます。世間には能く表へ立つて往來の人の噂をしてゐる者がございます。甲「オヽ見れえ、好い孃だなア、何處へ行くんだらう」乙「彼やア此の横丁へ活花の稽古に行くんだ」甲「さうか、後から犬が尾てくがア」乙「下られえことをいふない、犬も矢張り花の稽古をするのかな犬が花の稽古をする奴があるかい」甲「俺も可笑と思つたから聞いたんだ!、畜生々々」乙「何が畜生だ」甲「向ふ側を見ろよ、若夫婦がいやに附着いて歩いてやがるぢやアねえか」乙「嫉妬なく/\」甲「アッ小間物屋の前に女中を連れて立つてる內儀さんがあるだらう」乙「ウム」甲「年齡は二十八、九、それとも三十を一つ二つ越したかな髪の格好、着物の着こなし、帶の締工合、いづれ粋者の上りだらう」乙「ア、彼やア俺は知つてるな」甲「お前は能く諸方の女を知つてるなア、何處の內儀さんだ」乙「此の先の山城屋の後家さんだ」甲「ヘエー亭主は何者だえ」乙「後家だつてえのに亭主を聞く奴があるかい、亭主がれえから後家ぢやアれえか」甲「アッ成程」乙「能くいふな、後家になるさ樣子が好く見へるツて」乙「さうかなア俺も女房を後家にして見てえよ」乙「何をいやがる、何うだお前、アノ後家さんを前に廻つて見たら美いさ思ふか」甲「さうさな、後ろ姿が好いから前へ廻つたら猶美いだらう」乙「だれでもさう思ふがな、アノ內儀さんばかりやア前へ廻つて二度ビックリだ、後ろ姿を見ちやア千兩の價値があるが、前へ廻つて見た日にやア百の價値もれえ」甲「フーム、どんな顔なんだ」乙「顔が眞赤で、額に三本深い筋があつて、顎が出て、目が引込んで、何の事はれえ、山で獲り立ての猿みたやうな顔をしてゐる」甲「エ、、アノ內儀さんが!ヘエー」乙「それで横から見るさ猿みたやうだツてえので、山城屋の猿後家、猿御內儀さんさ近所の者が皆さういつてる」甲「ヘエーアノ好い姿でれえ、さるさは辛いれッ!」乙「洒落るない、何でも話を聞いて見るさ、アノ內儀さんの親父さんが猿が好きで、山で猿や猿を撃つた報いで、あんな孃が出來たんだ」甲「眞正かえ」乙「だらうさ思ふんだ」甲「何をいやがるんだ、此方やア眞面目に聞いてるんだ」乙「アッ此方を向いた見れえよ」甲「成程是やア不思議な顔だ、……山で獲り立ての猿に違えれえ、猿だ/\」乙「大きな聲をするない、馬鹿だなア」後家「きよや、それだから私は表へ出るのは嫌だといふんだよ、あんな事をいはれて口惜いぢやアないか」きよ「マア內儀さん、そんなに貴女お怒り遊ばすことはございませんよ、大變に評判が宜しいので、髪の格好から着物の着こなし、帶の締工合、粋者の上りだらうツていつてますよ」後「お前は好いさころばかり聞いてるが、私の事を猿に似てゐるツて、眞正に口惜いぢやアないか」きよ「マア勿體ないございません、猿が猿に似てゐるんぢやアございません、猿の方で內儀さんに似てゐるので」後「エーお前までがそんな事をいふ」さ大變な立腹で家へ歸るさ直に其の女中はお拂ひ箱になつて終ひました。店では番頭さんが心配をして番頭「すイく皆なこゝへお出で、マアお前達も知つての通り、此方の內儀さん位何かさ能く氣を着けて下さる方はない。誠に結構な御主人だが、只瑾はお顔だ、町內の惡口に猿だのひゝだのさいふものだから大層御氣になさつて、今日もおきよどんが下らない御世辭をいつたんで御暇が出た、何でも之からさるだのひゝだのさいふ事は決していつてはならない、それに此頃お氣に入りの佐兵衛がお客の供をして伊勢參宮に行つて居ないものだから、餘計御機嫌が惡い。アノ又佐兵衛さいふ方は幇間さはいひながら實に不思議だ、內儀さんを捉まへて、御容貌が好いのお美しいのさ、能くあんな空々しい事がいへたものだ、早くアノ男が歸つて來てくれゝば宜い!オ、噂をして居たら向ふから來たのは佐兵衛だ、宜い鹽梅に歸つて來た」佐「ヘエ番頭さん御無沙汰を……只今歸りましたばかり、先づ取敢ず當方へ御挨拶に伺ひました」番「ア、然うかえ、イヤモウ內儀さんが御待兼で、毎日のやうに佐兵衛はまだ歸らないか、まだかまだかさ仰しやるんで困つて終つた、早く奥へ行つておくれ、あさで緩くり旅の話は聞かうから」佐「ア、左樣でございますか……ヘエ御免下さいまし、佐兵衛只今戻りました、何にいたせ、旦那方の御供で、夫から夫へさ御廻りになりましたものですから、ツイ遲くなりまして、此方樣へも御無沙汰になつて何さも申譯がございません……オヤ今日は奥さんは何方へか御出掛ですか、これは飛んだ失禮を致しました」後「佐兵衛や、お前何をおいひだえ、私は此所に居るぢやアないか」佐「オヤ矢張り奥樣でございますか、どうも失禮を……イエ私は京都の御親戚のおゆきさんが在つしやるのかさ、存じまして」後「マアお前は隨分疎忽かしいれ、私さおゆきさ間違へるなんて、おゆきは京都生れでまだ十八、私はモウ三十を越した婆アだよ、それを見違へるなんて隨分疎忽かしいぢやアないか」佐「どうも恐れ入りました。併しどうも奥さん實に御綺麗ぢやアございませんか……ア、分りました、佐兵衛が歸つて來たらアッさ驚かしてやらうさいふんで、人魚か何か召上つて……エ、召上りませんか。夫では充分御化粧をなすつて……オヤ何も御附けなさらないんですか。それで地のお顔ですかい、ヘエー恐れ入りましたなア」後「そんなに綺麗に見へるかいご」佐「見へるかいごころのもんぢやアございませんや、全くお綺麗で、奥さんはお年を逆さにおなりになるのぢやアございませんか、段々御綺麗にお成り遊ばすやうで」後「佐兵衛や、お前は口が巧いかられ」佐「イエどう仕りまして、私は眞實の事を申上げて居るので」後「さうかい……アノ怜や、佐兵衛が戻つて來たから鰻をさういつて御酒を附けておやり」佐「どうも相濟みませんな、歸り早々御馳走を頂きましては」後「マア宜いから緩くりしてお出で……何うだつたえ、旅は面白かつたかれ」佐「ヘエ面白うございました。奥樣はまだ彼方へお出でになりませんか。では今度私が御供を致さうぢやアございませんか、內宮樣、外宮樣、只モウ結構さ申すより外に言葉はございません。お出へ參りまして、旅の[illegible]

てだいふので、皆さん藝人揃ひで在つしやいますから、彌次喜多其方除け、幇間跣足さいふ位、實に大愉快を致しました。どうだい此處まで來たものだから、二日ばかり日延べをして奈良を見物して行かうぢやアないかさいふので、奈良へ參りましたが、奥さん此處は又結構な所でございますな。南の都さか申して、名所古蹟が澤山ございます。ザッさ申しますさ停車場を出ました所が三條通り、角細工あられ酒奈良漬なぞの名物を賣る店が列んで居ります。南の高見に見えますのが南圓堂、北に參りますさ北圓堂、西に三重の塔、東へ參りますさ花の松に五重の塔、是は皆興福寺さいふ御寺の地內で、夫から師範學校に博物館、アノ百人一首の、いにしへの奈良の都の八重櫻、けふ九重に匂ひぬるかなさいふ八重櫻がございます。どんな大きな木かさ思ひましたらさうでもございません。北へ參りますさ、東大寺さいふ奈良第一の大きな御寺で、南大門さいふ仁王門がございます。東の方の仁王樣が湛慶、西の方が運慶の作ださうで、其の正面が大佛樣、是は又大きなもので、御身の丈が五丈六尺五寸鼻の穴から笠を被つて入れるさいふ位」後「それは眞正かえ」佐「エー眞正で、現に陷落ちる人を見ました」後「大方大佛樣の御罰が當つたのだらう」佐「イエかさが鼻へ廻つたさうで」後「御巫山戯でないよ」佐「ヘッヘッへ、それはマア冗談でございますが、裏の方へ抜けるさ名代の大釣鐘、少し東へ參りますさ四月堂に三月堂、杉、二月堂、其の隣が手向山の八幡樣、菅公の、此度はぬさもさりあへず手向山、紅葉のにしき神のまにまに、さお詠みなされたのは此所でございます。其處を出ますさ三笠山、此の山は三重になつて居りまして、一面の芝で、遠くから見ますさ毛氈を敷詰めたやうに美しうございます、その側に、奈良七重七堂伽藍八重櫻さ聯ました芭蕉の句碑がございます。南へ參りますさ、春日神社、却々結構なお社で、燈籠の數知らず、鹿の數知らずなど、申ます。燈籠の數を數へたものは長者になるさ昔から申傳へてございます。若宮樣から走り元の大黒、白藤の瀧、西へ參りますさ石子詰の跡がございます俗に十三鐘さ申す古い御寺で、其から坂を下りますさ、大きな池がございます。乃の字の形になりまして、水牛分魚牛分、龍宮まで屆いてゐるさ申します猿澤の瀧、其の池の東に衣掛柳、西北の采女の宮……」後「一寸お待ち、能くペラペラ喋るれ。蒼蠅ぢやアないかれ」佐「ヘエ」後「お前池の名前は何さいふんだえ」佐「ヘエ」後「池の名前は何さいふのだよ」佐「でございますから、水牛分魚牛分……」後「そんなことを聞くんぢやアない、池の名前さ」佐「ヘエ池の名前は、猿……ウヘッ、是はどうも失禮いたしました。どうか御勘辨を願ひます」後「佐兵衛、お前ぐらゐ薄情の人はないよ、お前の顔を見るさ私は氣持が惡くなる。サッサさ歸つておくれ怜や鰻屋へ斷つておしまひ、サア佐兵衛早く出て行つておくれ、誰か佐兵衛を表へ突き出してお終ひ」番頭「オイオイ佐兵衛、餘りペラペラ喋るからハラハラしてゐたよ。到頭何か失策つたな」佐「イヤどうも驚きましたな番頭さん、奈良の名所で失策つちまひました、ナニ此方やア一生懸命御機嫌を取結ぶ了簡で、奈良の名所を列べて居る內に、猿澤の池、これでやり損ひました」番「ア、猿澤の池か、さんだ事をいつたな、マア仕方がない、當分來ないで居なさい。其內に又私がお詫をして出入の叶ふやうにしてやるから」佐「どうか何分お願ひ申ます、當家を失策るさ佐兵衛忽ち生活に差支へます」番「商賣に精出したら宜いぢやアないか」佐「私の商賣は當家の奥さんを褒めるのが商賣で」番「變な商賣だな、夫ならモット氣を着けるが宜いぢやアないか。之れを思ふさ前の一八なんか可哀想だつた」佐「一八さんてえさ」番「矢張り御當家の御出入で、內儀さんの御氣に入りだつた。それがつまらないことをいつて失策つて終つた。口數多きは品少しさいふから氣を着けなければいけない」佐「どんな事をいひました」番「奥の御普請が出來上つた時に一八や、此の床柱は好いだらう。ヘエ結構な床柱でございます。さそれだけにして置けば何事もないのに、奥さん、私が御出入りをいたしますさ、麹町のさる御家のさいつた、是で失策つて終つた」佐「さる御家、成程」番「その次は奥さん私は御暇になりますさ、親子三人木から落ちた猿同然、夫で又失策つた」佐「オヤオヤ」番「それで又御出入御差し止め、あさへお前が來たさいふ譯さ」佐「成程、れえ番頭さん私を助けるさ思つて昔から此上もない別嬪の名を數へて下さいませんか」番「さうさなア別嬪さいへば、日本ならば小野の小町、照手姫、衣通姫、唐土では玄宗皇帝の寵妃楊貴妃だな」佐「左樣でございますか、有り難うございます」番「それを聞いてどうするんだ」佐「御機嫌を取直すので」番「それなら暫く氣を抜いた方が宜からうぜ」佐「イエ大丈夫で、早い方が宜しゆうございます」番「氣をお着けよ、又變な事をいふさ取返しが附かないから」佐「エ、奥樣」後「佐兵衛まだお前ウロウロして居たのかえ、誰か佐兵衛を早く突出しておくれよ」佐「モシ奥樣、私には何で御氣に障りましたのか些さも分りませんので、御腹の立つことがございましたら、幾重にも御詫を致しますが、どういふことが御氣に障りましたか仰しやつて頂きたう存じます」後「白々しいことをお云ひでない。そんなら聞くけれども、池の名前は何さいふのか、モウ一遍いふて御覽」佐「ヘエ水牛分魚牛分で」後「それは聞かないでも知つてゐる。龍宮まで屆いて居て、そして池の名は」佐「左樣でございます。此の池は龍宮まで屆いてゐる。深いなアさ思ふさゾーッさして寒くなりますから、さむさうの池さ申します」後「ナニさむさうの池」佐「ヘエ、さむさうの池でございます」後「さうかえ、夫では私の聞き違ひだつたのだれ。お前に限つて、そんな事をいふ氣遣ひないさ思つたんだよ」佐「それぢやア奥さんの御聞き違ひでございましたか。それでやつさ安心致しましたがどんなに驚いたか知れません」後「勘辨しておくれ、たけや、鰻屋へ早くさういつてお出で、お酒も燗つけて」佐「イヤ奥さん、斯うして拜見してゐるさ、實に貴女は御容貌が美くつて在つしやいますな」後「又然んな事をいふよ」佐「イエ全くで、先づ奥さんの御容貌を物に例へたら、日本ならば小野の小町」後「小野の小町、昔から美しい女の事を小町さいふ、私みたやうな御多福の婆ばアが、何で小野の小町さ比べものになるものかれ」佐「イエさうでございません。小野の小町か照手の姫か衣通姫、唐土ならば玄宗皇帝の御寵愛になりましたよう……」後「誰に似てゐるんだよ」佐「ようひゝに似て居ります」

賀正

旅順・大連

旅順

關東長官 塚本清治

關東廳高等官食堂

關東廳內務局長 三浦碌郎

關東廳財務部長 西山左內

關東廳警務局長 中谷政一

旅順要塞司令官 陸軍少將 大谷一男

旅順工科大學々長 野田清一郎

千歳倶樂部

旅順工科大學談話會

關東廳旅順醫院長 醫學博士 渡邊信吉

關東廳旅順療病院 院長 大津尙

關東州海軍駐在武官 佐世保鎭守府附參謀 海軍大佐 久保田久晴

旅順師範學堂長 石川義次
旅順第二中學校長 横佩章吉
旅順高等女學校長 今井順吉

旅順民政署長 關東廳事務官 米內山震作 外署員一同

旅順市長 永山嘉一

旅順市會議員一同

喪中に付年始缺禮申候 旅順第一中學校長 平田芳亮

旅順市役所 助役 蔭山榮太郎

旅順刑務所長 典獄 永田正之助

旅順警察署長 關東廳警視 加藤芳香

關東廳博物館長 津田元德

旅順郵便局長 草野友次郎

旅順市鯖江町五一 米岡法律事務所 米岡規雄 電話二六〇番

日本赤十字社 滿洲委員本部

關東州水産會 關東廳內

旅順市名古屋町 仲野齒科醫院 電話一二九番

旅順市八島町 竹森病院 院長 竹森哲三郎 電話一四二番

旅順新市街松村町二ノ三 オカノ齒科醫院 院長 岡野忠藏 電話五一三番

旅順市富士町 滿洲蠶絲株式會社 電話五六七番

大連

宮內省御用 煤煙防止 淄川炭(シセンタン) 山西炭 大成灰 大成洋行石炭部 電話(七)八三九番 (三)二四九三番

米國ブランシック 米國ソノラ 蓄音機會社 直輸入商 田中蓄音機店 大連市伊勢町 電話(七)八四二二番 (三)一四一五番

在大連滿洲土木建築業協會員

名稱	所在	電話
合資會社 池內市川工務所	大連市若狹町二〇五	電六四四四番
伊賀原組	同 神明町八	電五〇八七番
今井組	同 敷島町四六	電六八八七番
合資會社 原組	同 八幡町二七	電六二三三番
合資會社 長谷川組	同 神明町六	電四五三〇番
合資會社 星野組	同 若狹町一二	電六六七九番
東洋コムプレッソル株式會社	同 若狹町一九六	電五七三〇番
岡組	同 東公園町六五	電三九九二番
大倉土木株式會社	同 山縣通二六	電四三三二番
大林組大連出張所	同 薩摩町一三	電八二四五番
大連工材株式會社	同 入船町一	電四五六九番
合資會社 大同組	同 山縣通五一	電三三七〇番
高岡久留工務所	同 紀伊町二六	電四八〇七番
株式會社 多田工務所	同 淡路町三	電四七八九番
合資會社 蔦井組	同 但馬町二四	電四四二八番
辻組	同 能登町八五	電六〇六七番
草場工務所	同 若狹町一八	電六二五〇番
合資會社 久保田組	同 山縣通五	電八四七〇番
合資會社 間瀬組	同 惠比須町二一	電三二五一番
株式會社 福昌公司	同 山縣通三	電七一七一番
福井高梨組	同 東公園町三九	電三五四九番
荒井工務店	同 若狹町六	電七四二六番
榊谷組	同 能登町七	電六七九一番
合資會社 三田組	同 越後町五	電四八五〇番
白川洋行	同 櫻町一二	電七〇五一三番
合資會社 昭和工務所	同 紀伊町九	電五三〇五一番
合資會社 志岐土木組	同 信濃町五	電七〇七一二四番
合資會社 清水組	同 眞弓町五	電五三九〇番
合資會社 鈴木梅本組	同 西公園町九	電六三五一七七番
石井組出張所	同 惠比須町二五	電六七三四番
井上組出張所	同 眞弓町五	電二一三六一番
吉川組支店	同 西公園町三	電六三九三番
合資會社 山崎英武工務所出張所	同 西公園町五	電六六六七番

賀正

長春

長春領事 田代重德

長春地方事務所長 檜岡茂

長春警察署長 武波善治

長春郵便局長 馬淵俊一

喪中年賀缺禮 長春取引所長 奥平廣敏

長春商工會議所 會頭 永原岩雄

吉長吉敦鐵路局 技師長 田邊利男

南滿電氣長春支店 龜山亨

國際運輸長春支店 支店長 蓼沼泰一

長春學校長一同

長春滿鐵醫院一同

長春富士町 同仁病院 院長 市岡貞三

長春日本橋通 合資會社 ㊉ 和登洋行 長電電二〇四〇番

日清生命保險株式會社 富國徴兵保險相互會社代理店 滿洲日報長春營業部 五味武太郎 電話二三八四番

長春鐵道事務所 白井喜一 九里正藏 田中末治 吉留英熊 武井外一

長春驛 高澤公太郎 服部虎雄 清水利吉 山口義一

保安區長 石津房夫 保線區長 梅津理三 列車區長 神代新市 機關區長 中川正 檢車區長 中村謙治

長春地方事務所 稲葉賢一 三重野勝 渡邊奉綱 本庄進 萩原準

長春商工會議所 副會頭 手塚豊次郎

南滿瓦斯會社長春支店 五十嵐榮一

長春輸入組合 理事 久末吉次

長春地方委員 宇野常吉

長春地方委員 宮崎竹次郎

長春中央通 大島已之助

小松製材所 小松兼松

平本洋行 岡田小太郎

加藤洋行 寺内清次

長春三笠町三丁目 北原紙店 電話二四〇一番

長春 ジャパンツーリストビューロー

長春警察署 警務主任 春木淺次郎 高等主任 井上定弘 司法主任 田畑文 保安主任 三上芳彦 檢事務取扱 中川義治

長春石炭商組合 仁和洋行 電話二一七三番 松茂洋行 電話二〇四二番 加藤洋行 電話二〇三二番 泰利號 電話三一六九番 大昌煤局 電話二五三九番

長春旅館組合 西村旅館 北滿旅館 富士屋旅館 梅屋旅館 常盤旅館 大丸旅館 吉田屋旅館

滿洲土木建築業組合 長春支部

長春東二條通 國際運輸株式會社 長春支店

長春取引所信託株式會社

明治生命保險株式會社代理店 仁和洋行 瀬下金 長春三笠町三丁目 電話二五八二番

吉林燐寸株式會社 長春支店

滿鐵長春販賣事務所

赤十字社長春支部 星熊太郎

長春金融組合 本莊宗三

通濟公司 谷口清 營業所 長春、哈爾賓

峰下商店 峯下一郎

長春驛構內賣店 久保田ケサヱ

長春料理店組合

有價證券賣買業 下畝榮吉 電話二二〇八番 事務所長春驛前富士屋旅館內 電話二三八四番

株式會社 大信洋行長春支店 日本橋通(電話二五二三番)

滿蒙毛織株式會社 長春直賣所

白米雜穀 日鮮精米所 電話三三一九番 電略「ニセ」又「ハセ」 電話三三二七番

長春 食料雜貨 梶原洋行 電話二二五五番

長春大和通 食料雜貨 三浦洋行 電話二三〇四番 電話五〇六七番

長春三笠町 松田洋服店 電話二一四六番

長春吉野町一丁目 村田逍遙園

長春室町二丁目 池の坊花道 藤田夏子

長春吉野町二丁目 錦食堂 電話二九一六番

長春東一條通 天金 片淵八重 電話二五五四番

長春 精養軒

長春吉野町二丁目 レストランヤマト

長春三笠町三丁目 カフエーモナミ

長春富士町三丁目 蝶屋洗布所 電話二七二〇番

長春三笠町三丁目 表裝師 文仙堂 電話二〇六一番

表具師 青井文藻堂 長春東二條通 電話三四六四番

長春梅ケ枝町 古永堂表具店 古田彌一郎

長春濵速町二丁目 住吉鐵工所 電話二五七二番

藤崎工作所 藤崎吉熊 電話三三二六番

長春吉野町二丁目 豊泰號カバン店

疊商 永島高一 電話三四六一番

長春三笠町二丁目 竹屋靴店

長春東一條通 池畑自轉車店 電話三四二三番

長春吉野町二丁目 佐藤洋服店 店主 百武久吉

長春吉野町二丁目 乾寫眞館

長春吉野町二丁目 中京洋服店 川本伊太郎

長春吉野町 秩父屋 淺見商店出張所 電話二九七〇番

長春吉野町一丁目 理髮 神戸軒 三谷倉太

長春三笠町二丁目 森履物店

長春日本橋通 すし竹食堂 電話二七二四番

長春吉野町一丁目 加藤精肉店

陸軍用達 牛乳 三宅牧場

長春蓬萊町 長春調辯所

長春吉野町二丁目 丸德商店 電話二二三三番

市場內 漬物食料雜貨 日・華洋行 電話一三四三番

長春吉野町一丁目 食料雜貨 石堂商店 電話二七三五番

長春日本橋通 金泰洋行

長春日本橋通 みしまや呉服店

長春三笠町三丁目 合資會社 盛倉商店

長春祝町五丁目 特產商 千葉修一商店

長春大和通 大葉商店 電話二六七四番

長春市場 ハムカルバス商 德田商店 電話二五九六番

長春市場 鮮魚商 三盛公

長春市場 和盛祥 本店支店 電話二九一五番

長春三笠町 カフエーミカサ

長春日本橋通 田中電氣商會

長春日本橋通 吉野屋樂器店 電話三〇六八番

長 林洋行 林金次

長春吉野町 江戸屋 電話二〇七〇番

長春日本橋通 東洋藥房

長春三笠町 竹島印刷所 電話二四〇五番

長春吉野町 森野商店

十萬のお守り札を奉天上空から撒く
關東軍がけふ初飛行

關東軍では例年の如く元旦を期し午前八時から初飛行を行ふが當日はこの度滿洲軍慰問のため來奉中の眞言宗八ヶ寺の澤田上人が同乘し奉天上空を飛翔日支兩國民の幸福を祈ると共に十萬枚のお守札を撒布すると【奉天電話】

今年から徐々に景氣は好くなる
米實業家巨頭の話

【ニューヨーク三十日發】アメリカ實業界巨頭中、堅實の考へを有する人々は大體一致して來年度より財界は徐々に好轉すべしといつてゐるが、その期については何れも明言を避けてゐる、ゼネラル電氣社長ジエラード、スウオープ氏曰く
一九三二年度も一九三一年と大體同樣で日本に好轉は期待出來ぬが、其後は徐々ながら各種生産の増加を見るに至るであらう
又ゼネラル、モータース社長フルフレッド、スローン氏曰く
三十二年度は經濟機關が徐々に恢復するであらうがその時期は明言出來ぬ

けふの新年祝賀

一月一日大連市中各方面における新年祝賀式は左の通りである
▲官民合同祝賀會　午前十一時三十分より忠靈塔前で左の方法により擧行
一、開式（喇叭、氣を付け、）二、國旗掲揚（喇叭「君ケ代」一回、一同氣を付けの姿勢）三「君ケ代」合唱二回（此の間樂隊奏樂）四、一同遙拜（宮城の方向に向ひ）五、大連市長祝賀の辭、六大日本帝國萬歳（大連民政署長發聲）七、閉式
▲大連民政署　午前十一署員一同御眞影を奉拜し引き續き祝宴場に集合、祝杯を擧げ辛島署長の萬聲で天皇陛下の萬歳を三唱、同十時三十分より十一時までは各國領事、税務司および一般の參賀を受く
▲遞信局　午前十時第一食堂に參集、高級古參の高等官總代さなつて祝詞を述べ同十一時三十分祝宴場に於て祝宴を開き冷酒を酌み櫻井局長の發聲にて天皇陛下の萬歳を三唱
▲市内各警察署　午前前九時參集九時十分より開式、高級古參者一同を代表して祝詞を述べ祝宴に移り冷酒を酌み署長發聲で、天皇陛下の萬歳を三唱
▲市役所　午前十時より市長以下市吏員市會議員、區長等市會議場に參集、小川市長の祝辭に次いで祝宴に移り一同乾盃大内議長の發聲で天皇陛下の萬歳を三唱
▲滿鐵會社　午前十時副總裁以下重役社員一同社員倶樂部に參集冷酒を酌み天皇陛下萬歳を三唱

輕爆擊機搭載の爆彈が炸裂
わが兩勇士重傷す

二十九日午後三時ごろ三機編隊の輕爆擊機を以て盤山北方の敵軍を爆擊中、福島特務曹長操縱、關次曹長同乘の輕爆擊機第四十號は、一部に機關部に敵彈を受けて歸還、當飛行場西方に無事着陸せんとした際、搭載の爆彈が爆發し忽ち機體を燒失した福島特務曹長は顔面に大火傷を負ひながら左右...負傷せる關次曹長を機體より出し、兩名は直に大石橋衞戍病院にて應急手當中なるが、關次曹長は左關節を爆彈のため粉碎、右腰部並に頭部も彈片にて負ひ頗る重態である、福島曹長は顔面に大火傷を負つた外身に二十數ケ所の火傷を負つたるが經過頗る良好である【大石橋電話】

模範兵士で技能拔群
福島特務曹長

福島特務曹長の中隊長なりし大尉は語る
福島は爆擊、偵察、戰闘飛行軍學の全部を修得した技能群を拔き、自分が中隊長たりし時、中隊の模範下士であつた、そして將來を大いに期待するところあつたが實に惜しいことをした、妻女は福島富貴さいひ目下濱松追分町一六四にありこの遭難を聞けば必ずや喜んでくれると思ふ

關次曹長は爆擊專門

また第七中隊長本田少佐は語る
關次曹長は昭和二年十二月曹長に昇進した、平素沈着豪膽且つ飛行技術は他の模範となる位天晴れなもので、中にも爆擊成績は最も優秀であつた、從つてその後は爆擊專門に研究中だつたが研究心旺盛にて人格さ相俟つて中隊中珍らしい人物であつたその妻イク子は郷里金澤なる實兄長太郎の許にあり、この報に接して必ずや滿足に思ふと信ずる【大石橋電話】

福島特務曹長略歷

埼玉縣入間郡駒村大字粟坪八三明治卅一年四月十二日生、大正七年十二月歩兵第六十六聯隊に入隊、同八年三月シベリア出征、同十年下士志願をなし陸軍航空學校に入學、同年十二月陸軍航空隊教導中隊附、同十二年所澤飛行隊附、同十四年十月濱松飛行第七聯隊附さなり現在に及ぶ

關次廣次曹長略歷

石川縣金澤市拾壹屋町ワノ一明治卅六年五月廿一日生、大正十年十二月航空第二大隊第一中隊に入隊同十五年十二月飛行第七聯隊附に

元日と二日は上々の天氣
薄曇りて氣溫上らう

けふ元旦のお天氣は？卅一日觀測所に伺ひをたてたところ、大連地方はうす曇では...ところへ今朝ごと、...

日滿交換放送
けふ午後一時から

新年の日滿交換放送は左のプログラムで行はれる

寒暖の交差（懸賞寫眞佳作）佐内洒外氏

十字火を浴びて通信を果す天使

きのふの晝火事
信濃町羅場建物一棟燒く
損害は二萬四千圓

營口に駐兵要請
在留邦人が軍當局に

鞍山西方の匪賊討伐

大連部隊を敵軍襲ふ
我軍直に擊退

電杜を倒し薪とす
匪賊團の暴虐

石佛寺に兵匪二百名

盤山激戰被害

盤山附近の負傷者
營口に後送さる

憲兵隊增援

商品切手千圓詐取

御下賜の眞綿
けふ各將士に傳達

大藏男の謝電

ばいかる丸船客

滿蒙維新に寄與する我社の三大事業

我社は今新春の初頭において東亞の史上に一エポツクを劃せんとする滿蒙の黎明に直面し、玆に左記の**三大計畫を發表**して廣く大方の贊助を求め、漸次實行を期して行くことゝなりました蓋し我社の存意は近く誕生を見んとする**滿蒙新國家の建設を祝福し、兼てこれが大業の完成に對し聊か寄與**する處あらんとするにあります、讀者諸氏が奮つて御贊同あらんことを望みます

論文募集

題意　滿蒙維新の大業完成に對する吾人の希望
賞金　當選作五百圓、佳作二百圓、當選作者は南支方面、佳作者は滿蒙方面を共に視察すること、若し視察に就かざる場合は選作者には三百圓、佳作者には百圓を呈す。

滿蒙維新の歌

題意　滿蒙維新を象徵するものを募る
賞金　一等三百圓、佳作五名各五十圓

滿蒙產業調查

新國家設後における我國對滿貿易の進展、產業振興に資する爲め滿蒙各地へ調查員を派遣

昭和七年一月
滿洲日報社

西の風、晴一時曇

武門血笑記 (12)

下村悅夫作 布施長春挿畫

女妖 (三)

「へまをやつたものだれ、一體、まあどうしたと云ふんだえ?」

と、おれんは上り框に片膝を立てゝ、乾分の者に取卷かれて、眞蒼な顔をしてゐる牛次といふ男を見下ろした。牛次の傍には、肩先に深手を負ふて、血潮で眞赤に染まつた死骸が轉がつてゐる。

「へえ、姐御、どうも面目次第もありません……」

牛次は、かう云つて、おづおづと上げてゐた面をがつくりと落す。

死骸は、今宵、太郎左衛門を暗殺しやうとした三州岡崎の浪人、辻川幸作と名乗つた男であつた。

此幸作は、黒兵衛の乾分の中でも第一の手利きで、朱鞘の幸作と呼ばれた男。おれんの命令を受けて同じ仲間の鐵砲玉の牛次と二人で鵜飼の屋敷へ忍び込んだのであつた。

「ごぢやふんぢやつて、済みません。實は、偶や、まだ早いと云つて、幸作兄いを止めたんだつたけれど、兄いはなあに大丈夫だ、相手はぐつすり寝込んでゐる——と云つて、斬込んだものだから、つい、こんな事になつちまつて……」

「だが、姐御、あの太郎左衛門と云ふ親爺は滅法强うがすぜ。こちとらの三人や五人が、一度にかゝつたつて、とても、手におへた代物ぢやありません。まつたくの處、偶や、縁の下に隠れてゐたんだが、助けやうにも、てんで手出しが出來ねえんですからね。おそろしく腕ッ節の立つ親爺だ……」

おれんは、默つたまゝ、口惜しさうに、美しい唇を噛む。傍で聞いてゐた乾分も、默つた儘、薄暗い燈灯に、照らされてゐる、幸作の無殘な死骸を凝乎と眺めてゐる……。

源之丞は、上り框の方から聞えて來る、おれん達の話を、聞くともなしに、耳に止めてゐたが、幾つかの部屋を隔てゝゐる上に、次第に高まつて來る、肩の傷の痛さの爲め、何事かあつたらしい——と云ふ以外に、何も解らなかつた。

おれんの傍にゐる間は、その何とも知れない、不思議な力の爲めに、幾分か紛れてゐた、と思はれる創の疼痛は、かうして獨りぼつちで置かれてゐると、益々激しくなるばかりであつた。全身に焼鏝を當てられるやうな苦痛!それは疵のために熱の高くなつた體を、かうして、夜具もない、うすら寒い部屋の中に、永くうつちやらかして置いた爲めに生じた、烈しい高熱のためでもあつた。

「むむ……」

齒を喰ひしばつて、ぢつと堪へてゐる、彼の蒼ざめた顔は、次第に、斷末魔の人のやうに、色を失つて、苦痛に歪められた、額のあたりは、べつとり、冷たい汗にぬれてゐた……

「むツむツ……」

喰ひしばつた齒の間から洩れる彼の呻き聲は、もうその自制力を失つて、靜かな夜の中に響き渡つた。

と、その聲を聞きつけたらしく

「まあ、騒々しい、この人は!」

乾分の者と何か相談してゐたらしいおれんが、彼の部屋へ戻つて來た。さうして、死人のやうに、眞蒼になつた彼の顔を見ると、急に、柳の眉を、ぐいとひそめて、

「おや、いけないれえ……」

源之丞は、もう眼を明ける力もない。

おれんは、何時になく周章てたやうに、立ち上ると、隣の部屋へ顔を出して、

「おい、誰かお醫者を伴れて來てお呉れ、若い侍が、大變わるさうだから——」

「姐御、うつちやつときなせえ、そのまゝ、眠らしてしまへばいゝぢやれえか」

と、熊坂と呼ぶ大男の不氣嫌な聲。

「いゝやれ、あたしや少しばかり思惑があるんだから——」

と、おれん、それを制して置いて、

「さあ、誰か早く、伜の手で、連れて來てお呉れ」

と、氣忙しく、乾分たちを見廻した。

「へえ、ようがす」

新年雜詠

島田青峰選

一等 東京 秋山 匡
初凪や白き鳥起つ屛風岩

二等 大連 筧 鳴鹿
羽子板の聖母の顔やつかで見る

三等 撫順 溝口 唐雨
初鶏なしかと聞きたる寝覺めかな

佳作

呉市 三輪至之助
元日や樽にさす日なつかしき
茶の花の凍てを淋しみ年賀かな
初詣小寒き松の末社かな
夕まけて粉雪ちらつく鏡正月

大連 和田樹多路
陽をうけて樸の艶まさりけり
ストーヴに人影もなき手毬かな
お飾に門標半ばかくれけり

神奈川縣 川上 晴子
初刷に戰地の春の便りかな
門松に自動車さまりし氣配かな
追羽子にこの泥道の人通り

大連 山 岡 子
初鶏や、道すでに白々と
倉二つ初声鶴に聳えけり
元日の初サイレンや鳴りわたり

神奈川縣 鍋田 靜海
いち早く元朝の旗立てにけり
初鶏にさめてせゞらぎ聞きゐたり

長春 宮本 峻岳
元朝や鐵門閉ぢて大國旗
元朝を高鳴く鶏や陽に向ひ
初空に日の丸高く領事館

大連 筧 鳴鹿
砲列の雪にかゞやく初日かな
初鶏や山のなぞへの支那部落
初鶏に軍馬勢はる兵士かな

大連 奥村 梅園
初風呂に羽子つく音の聞えけり
歩み初めし子を歩ませて初詣

呉市 柘植 至郎
霧の中初荷の索が灯し來る
犬の仔と子等遊びゐる二日かな

大連 石川 洋二
うつしゑを撮るならはしもお元日
元日の靜かに暮れし嬉しさよ

大連 福井 豊久
守備隊の國旗はためく初日かな
元日の滿鐵列車着きにけり

海城 島谷 艶子
初夢にふるさとの母思ひけり

撫順 溝口 唐雨
曉けそむる山の容や鶏の聲

東京 秋山 匡
紋付の色あせしまゝや去年今年

大連 花崎 翠峯
くだかけの聲高々と初日の出

四平街 大橋 流石
お元日陣中居蘇の匂ひして

金州 朝 水
門松や驢馬の嘶く雪の町

鏡子萬 虚 中子
黎明の光豐かや初詣

金州 梅崎 一虎
大平原初日おごそかに昇りけり

旅順 三宅 南星
元日や窓の日にある福壽草

大 岡崎 綠雨
梅の枝のごかにうつす初日かな

大連 高木 春蔭
射し初めし初日や屋根の雪に映ゆ
元日の靜まる街や宵ながら

大連 霧 峰
門毎の松の香もほのかなり

公主嶺 富田 浪華
南嶺の勇士の墓に初日かな

大連 坂口 敏郎
數へ子の雪崩れ込みたる御慶かな

大連 宇都宮鳳翠
鈴冴ゆる雪の鎭守や初鶏

鐵嶺 石 龍 子
カナリヤの何知らで鳴く初明り

大連 宮崎すな夫
神塔の雪にまぶしや初日の出

撫順 松尾 天巣
若水を汲めば鶏鳴聞え來し
初めての女兒に爽ふ

大連 桑原竹堂生
追羽子をつかね兒なれば飾りけり

奉天 田中 扇浦
山頂に拍手寒き初日かな

大連 吉元 汀雨
泊り船舳並べて注連飾

大連 タツミ北斗
鶏鳴くや一の鳥居の空明り

孤家子 萬木 秀穂
朝霧や石炭船の松飾
さんごの火絶えなんとして遠明り

滿洲日報

其の二

更生滿蒙の輝く首途
平和境は斯くして實現せよ

今後の重大使命は滿蒙の工業化
日本の技術、資本と中國の勞働力協調

滿鐵技術局長　斯波忠三郎

我國の工業政策の大方針として内地においては高級なる加工的工業を盛んならしむるやう助長發達の方策を講じ、之をして近代式大工業的組織の下に經營するが爲めには技術の向上と豐富にして確實なる原料の資源を必要とするのである、我國は不幸にして天然の資源に惠まれず、工業原料の資源地としては常に不足を訴ふるのであるけれ共、幸ひにして滿蒙の土地は石炭、鑛物、鐵鑛、農産物、畜産物等現に知られたるだけでも、**工業原料は實に豐富にして又我國よりの距離も最も近きにあり我國を工業化する上において最もよき資源地である、**滿蒙における此等の資源を開發する上においては總て機會均等であらねばならぬ、我等は決して歐米よりの企業者を拒否するものではない、或る論者は歐米よりの企業者が滿洲に入り込む事を我等に障害ある如く考ふるも之は杞憂に過ぎぬ、我等の現に有する優秀な技術と滿蒙における智識とを度外視しては彼等の進出し能はざることは明かである、我等と協調してこそ仕事は出來るのである、之が我等の望み欲する處である、

滿蒙における一般住民の生活狀態は之を我國民の生活と比ぶれば實にいふに足らざる貧弱さである、彼等は多年暴戾なる爲政者の爲めに虐げられて、今に尚憐れなる生活狀態を續けてゐる事實は人道の上よりして之を改善してやらねばならぬと思ふ、我等隣國の誼みを以て之れが向上改善を企つることは我等の重大使命であると信ずる、この使命を果さんが爲めには**我等の優秀なる技術と資本とを供し、中國民の勤勉な勞働とを提供して滿蒙を工業化することゝである、**我等の滿蒙に思ひを致る所以は領土の獲得にあらず、資源の開發である、その資源に依り我等は大工業國たらんことを期してゐたのである、滿蒙における資源及びそれに依つて將來彼地において企業すべき工業の種類としては大略左の如きものが考へらるゝのである、即ち

石炭工業、高壓工業、頁岩製油工業、アルミニウム及びマグネシアム工業、製鐵及び製鋼、ソーダ工業、大豆製油、高粱澱粉、飼料工業、毛織工業、皮革工業等、製材、製紙原料

而して此等の資源により滿蒙に起すべき工業の種類は遠き將來は知らず、現在においては**原料的工業乃至は半加工的工業である、**而してその [illegible] 南洋方面に供給することゝせば市場における慣習の下においては他國の何れよりも優に安値なるものが供給し得らるゝ筈である

滿鐵會社の滿蒙を工業化する上において今後採るべき方策は正に此處にあるのである、滿鐵においては現に滿蒙の資料について之が利用を研究する處の一大研究所を有してゐるが、將來益々此等を發展せしめてその研究の結果を工業化することに努力するつもりである、而して之を**工業として經營する場合には内地の企業家の參加することを希望して止まぬ**のである、從來滿洲の企業は滿鐵のものにして他の企業家の進出を許さずといつたやうな思想の高潮されてゐた時代があつたが、それは誤りであつて内外を通じて機會均等であつてこそ眞の發達は期せらるゝのである、又既往において滿蒙の經營に對して大いに熱心に思ふ處のものはやゝもすれば我等邦人が彼地において生産したるものを内地の同業者が利害の關係より内地に入れることを難じたる事實である、同業者のこの行動は止むを得ずとするも、政府が之に贊同するが如き事があつてはならぬ

滿蒙維新の四階段
ツングース族國の再現

陸軍中將　高柳保太郎

這回の滿洲事變は明治維新にも比すべき大事件であつて、我國存亡の大問題である、幸ひに皇軍の奮闘努力によつて東北民衆の敵にして中日兩國和平の破壞者たる張學良一派の舊軍閥官僚を滿蒙より驅除し得、民意に因る新政權確立し、支那民衆積年の望みたる桃源境を出現せんとするは東洋平和の爲め同慶に堪へない、然し、破壞は易く建設は容易でない、島國日本の維新も明治元勳の燃ゆるが如き熱意によりてなほ二三十年の長歲月を要し、始めて之が完成を見た、然るに吾國に數倍の廣さと複雜せる政治經濟關係に立ち、國際事情錯綜の滿蒙の維新は事容易でない、それには**我國の終始易らざる擧國一致の熱意と努力と後援とが必要で**ある、而して將來に來るべき新滿蒙の體形は次の四階段に變轉、その眞骨頂を現し初めて確固不動のものとなるものと豫測される、即ち今度の事變に過去十數年東北四省を蔽ふたる張家軍閥の紙が先づ剝ぎ取られたが、次は最近數年間雲霞の如く押し寄せ來つた**漢民族の移住とその文化侵略の紙を剝ぎ取る事により第二の更生**を爲すのである、第三は滿蒙における固有民族、即ち滿蒙鮮三族の擡頭となり**此三族を基本とする滿蒙獨自の新政體が生れ出づるであらう**最後に此狀態進化發展するに及んで遂にはその古のツングー種族の原始的統治時代が再現する、茲まで進展する事によつて始めて滿蒙の眞個の更生があるのだ、之を要するに**滿蒙の維新は、この四階段を經てツングース族國を再現**せしむるに於て始めて、達し得らるゝので、茲に滿蒙和平の自由國桃源境の出現となり、中國四百餘州の和平をリードし延いては東洋平和百年の大計は植えつけられるのだ、而も茲に於てこそ皇國の政治的經濟的且つ國防的基礎は確立し東亞一丸となつて世界の平和を誘導し得る事となる（註）以上は記者が平日將軍より聽取の意見を取纏めたもので文責は筆者にある

滿洲新政權と協調
電氣事業の發展に努力
經濟的立場で事態の推移注目

南滿電氣專務　入江正太郎

內外共に多端であり而も記錄さるべき多くの出來事を殘せる昭和六年を送り茲に第七年の新春を迎ふるに至つたことは、寔に慶賀に堪へない次第である

顧みるに最近數年來の日支兩國の親和關係は我等が渴望に背き逆轉亦逆轉惡化に次ぐに惡化を以てし、鬱發する日支抗爭は兩國民の感情を彌が上にも尖鋭化し九月十八日夜半の滿鐵線爆破は遂に我が自衞權の發動を見るに至り、事態は正に「重大化」し世界の視聽を集めるに至つた

×

一昨秋十一月張學良が南京に開かれたる國民黨第四次全體會議に出席して、之に合流するや國民政府外交權の東北四省進出となり、之に據る張學良の巧なる回避政策は滿蒙諸懸案の地方的解決を愈々困難ならしめその前途に重苦しい不安と暗影とを投じた

加ふるに屢次の排日、排日貨運動に依り煽動的經濟闘爭の悲しむ [illegible] を占めたる支那新興ブルヂョアジーは、已の貪慾を民族的國民的心理の狂熱的昂揚にカモフラージし利權回收の名に於て支那ナショナリズムの本能的反抗に油を注ぎ自然發生的、無組織的、無統制的な排日乃至利權回收運動から目的意識的、組織的、統制的なそれへの轉向指導に任じ、「打倒日本」は遂に國民的スローガンとまでなつた

斯くて日本が二十數年滿蒙の秩序を維持し、その富源を開發して兩國經濟に多大の貢獻を爲せる歴史的事實と現實とを忘却し、我國の有する條約上の既得權益を蹂躙 [illegible]

滿蒙の幣制改革に關する考察

滿鐵理事　首藤正壽

現大洋本位制に統一

奉天省從來の幣制

吉、黑兩省の幣制

兌換制度確立の方法

比例準備制度が妥當

生命線の擁護に
われらは決死的奮闘

國際運輸專務　築島信司

積極政策實現と商店界展望

番田忠雄

物價と土建界

土建協會長　榊谷仙次郎

一九三二年の大連映畫界

進展する資本戰から　惠まれぬのはファン

一九三二年の大連映畫界は多年の懸案であつた關東廳令の興行場取締規則による改築を斷行し、新裝を擬して劃時代的な正月興行を迎へた、新裝成つた大連映畫館の

設 備は內地一流都市の映畫館に比肩し得る程度となり、著るしく見劣りのする館がなく、その設備が一樣に揃つた點に於ては日本映畫界の一偉觀であると誇稱しても過言であるまい、また映寫機の揃つて各館とも優秀なる點に於ても內地都市に誇り得るものがあらう、斯くの如く大連映畫界が多年の懸案を一擧に解決して、文化都市大連の面目を傷けつゝあつた映畫界が一年前の俤なく更新した事は當局の英斷による所も多いが、また一面滿鐵協和會館に次いで大日活、常盤座の新映畫館出現によるところも甚だ大なることをも見逃せない、一時

協 和會館が唯一の完備せる映畫上映場として映畫街に一つの脅威であつた頃、滿鐵を中心とした映畫關係者は「協和會館の設備が一般ファンから顧みられなくなる時代を一日も早く實現せよ、それ迄の過渡期の現象として協和會館が過度に持て映されるのである」と常に繰返してゐたが、旣に其時が眼前に訪れて來たのである、殊に大連映畫界にもトーキー時代の氣運に向ひつゝある時、協和會館には未だ本格的トーキーの設備無く、また直流による鮮明なる映寫を誇つたのも昔物語りとなつたではないか、トーキー時代への

躍 進も亦協和會館がそのパイロットをつとめるものと見られてゐたところ、各種の事情より協和會館が本格的トーキー設備を逡巡しつゝある矢先に映畫館が果然ウエスタン・エレクトツク式の本格的設備をなし洋畫の全發聲興行を目差し、常盤座、中央映畫館も亦クランク式發聲裝置を整へ、常盤座は新春より全發聲興行をなし、中央映畫館は「マダムと女房」を先づ上映して、來るべき松竹映畫のトーキー時代に備へつゝある、こゝに最も注目すべきことは發聲映畫裝置のうち最優秀機と定評のあるWE式を設備した映樂館への

外 國資本の進出である、映樂館の洋畫上映は露人映畫配給業者テラケロフ氏を名義人として歩合契約を結び、その詳細なる內容に至つては全く不明なるも、テラケロフ氏の背後に支那映畫界に君臨する上海百代公司があることは明かである以上、やがては外國資本の大連映畫界進出が表面化するものと見るのが妥當であらう、その間のデリケートな問題を省略しても、百代公司がハルビンに持つチエーンの線上に大連を加へ上海と結ぶ興行方法を一考すればその間の事情は瞭然たるものがあらねばならぬ、そしてこの影響が如何に大連映畫界に反映するか、要言すれば

邦 人映畫業者による洋畫の興行が困難となり、洋畫興行はやがて外國資本家の手に歸し、その結果は日本映畫興行に及ぶであらう、この見解には相當の反對論據が發見されるであらうが事實は必ずや日本映畫興行の苦惱不振となつて現はれるであらう、斯くて日本映畫界も亦、既に進展しつゝある資本戰が更に尖鋭化するものと見なければならぬ、卽ち今年の大連映畫界は昨年以上の資本戰の進展による苦惱を深めつゝ、近年にない華々しい興行戰を演じ優秀映畫が續々と上映されながら映畫街は資本戰に破綻を生じ相當の

動 搖波瀾を免れず、ファンにとつてのみ惠まれた一九三二年の映畫界を現出するであらう、その他演藝界を豫想して見ると今年も亦、甚だ期待薄である、劇場としては大連劇場の外に歌舞伎座が小ぢんまりとした小劇場として改築されるが如く傳へられてゐるが、新裝成つた映畫館の設備に比較して頗る振はないものがある、また一方內地演藝界が殆ど全部松竹の手に獨占されてゐる關係上、大芝居の招聘來演は先づ不可能で依然としてドサ物全盛でないかと豫測されるが、これは斷然

排 擊すべきである、すべてのインチキを排した本格的各種演藝の上演こそ今年の宿題として殘された問題であり、取締當局も公平たる態度を以てその黑白を明かにして興行取締令によつて嚴罰主義を以て臨み映畫館改築に示した如き英斷が期待される、たゞインチキ味を賣にして期待されるのは大連會館のサンライズ・フオーリーの將來である、この一團のみはインチキ味が徹底して甫めてキヤバレーらしい雰圍氣として話題を提供するだらうから

日活超特作文藝映畫　『心の日月』物語

正月第二週に帝國館上映

原作　菊池寛
脚色　木村千疋男
監督　田阪具隆
撮影　伊佐山三郎

配役

皆川麗子　入江たか子
渡邊洋子　浦邊粂子
中田愼一　島耕二
篠原　南部章三
みどり　瀧花久子
明美　高津愛子
その友人　如月玲子
磯村晃　井染四郎
その友人新入社　八木宏
中田夫人　峰吟子
麗子の母　英靜代

梗概

▲前篇　山陽道——岡山、皆川麗子はそこに生れ、育ち、そして美しい處女となつた。

初夏、空に浮く白雲、微風、そして青葉の輕やかなそよぎ……、彼女はこの時節に戀人を持つた、だが彼——磯村といふ——は、學業の爲に彼女を殘して帝都へ立つた。殘された彼女には、厭ふべき男との結婚が強要される……。一夜遂に彼女は家を棄てゝ磯村のもとへ走つた。運命はこの若き者達に苛酷だつた。二人は電話で互ひの聲を聞き乍ら、しかも逢ふべき場所を語り乍ら、その場所——飯田橋驛の出口が二つ在つた爲に、遂に相逢ふことが出來なかつた。麗子の受難は此日に始まつた。彼女は上京の車中に知合つた洋子をたづねてカフエー白バラの人となり、更に傳手を求めて中田商事會社の社長秘書になつた。「明眸罪有り」と人は言ふ。彼女の美貌は、社長夫人の嫉妬を買つた。彼女はそこを出なければならなかつた。だが傷付けられたものは、彼女の自尊心のみだつたらうか。彼女はいつの間にか高雅な社長に強く惹き付けられた自分を發見して驚かねばならなかつた。——社長中田は、誤れる結婚に傷付き、麗朗なる彼の秘書の魂にいつしか安らかなオアシスを見出してゐた。中田は再び新なる創傷に苦しまねばならなかつた。磯村は——運命はこゝにもその手を弄して彼を中田家に住ませたのである。彼は其處で中田の妹の愛に、甘い苦痛を惱んでゐた。中田會社を出た麗子には、白バラの洋子のパトロン篠原の黑い手がのびてゐた。麗子は自分の志望である音樂家としての勉學といふ甘言に乘せられて、洋子をあざむいて篠原の庇護を受ける事になつてしまつた。中田の妹の付添として輕井澤に暑をさけた磯村にも愛の危機が近付かうとしてゐる——咋。淺間は一夜闇を貫ぬいて火焰を空高く吹き上げた。この異變の下なる磯村は?そして郊外代々木に新しき住居を持つた麗子に迫る黑い手は?一切を見下す如くまたあたかも彼等の行く手を暗示するかの如く、淺間は暗黑の空に向つて赤き息吹を吐きつゞけてゐる……。

▲後篇　洋子は、胸の病ひを葉山にあつて養つてゐたが、篠原の甘言に乘せられて麗子が自分を裏切つた事を知るや、彼女は病を押して上京し、麗子を痛烈に面罵して去つた。麗子はこの解くべからざる洋子の誤解に苦しみもだえ。遂に篠原の手をのがれて、曾つて白バラにありし時の親しき朋輩みどりを訪れて心中を訴へた。みどりに鼓舞された彼女は、再び職業婦人としてデパートに働いた。だが此處にも彼女は平和を見出す事が出來なかつた。篠原が彼女を發見して恐喝し始めたのだつた。彼女のこの危急を救つたのは、今まで彼女に隱れて彼女を見守つてゐた中田だつた。中田は、彼の結婚生活に痛ましき破綻を生じ、妻は彼を見棄てゝ走つた時だつた。中田は、その胸の創痍に、やはらかき睦き手を求めた。そして彼はそれを麗子に求めたのである。洋子は病あらたまつた時、麗子を枕邊に呼んで彼女の誤解を謝し麗子に中田の許へ行くべきをさとして此世を去つた。中田と麗子の婚約の樂しい旅立ちの日だつた。麗子は東京驛の途次飯田橋驛を過ぎた。飯田橋驛!飯田橋驛!これが飯田橋驛であらうか。彼女が磯村を待つたのは此處では無かつた。磯村!磯村!中田!磯村!彼女はどうすればいゝのだらう。彼等の乘るべき東京發の列車の時刻は、刻々に迫つてゐる【寫眞は入江たかこの麗子】

お正月の映畫（上圖）松竹蒲田發聲映畫五所平之助監督「マダムと女房」中央映畫館上映（中左圖）日活時代劇作品內田吐夢監督「仇討選手」（右上圖）日活現代劇作品田阪具隆監督「心の日月」（左下圖）千惠藏プロ作品伊丹萬作監督「金忠輔」（右下圖）阪妻プロ作品沖博史監督「牢獄の花嫁」以上帝國館上映

試寫室より

「仇討選手」

和田山滋

「仇討選手」は日活現代劇のスタッフの手に成る時代劇映畫である

「仇討選手」は正に時代劇映畫をして古い衣をぬぎ捨てて新しい衣に着換へさせた劃期的な作品といふことが出來る。この映畫は時代劇映畫の固定した型を叩き破つただけでなく、又、主演者大河內傳次郎を固定した型から救ひあげた。誰でも知つてゐるやうに、大河內傳次郎が大衆に持て囃されたのはあの特異なマスクである。伊藤大輔は、數々の作品に於て、この不思議な俳優の特異なマスクを生かした。そこには巨大なものゝ悲壯な美しさがあつた。巨大な美しさは傳次郎の扮する人物に「超人的」な面影を與へさえした。だが內田吐夢は「仇討選手」によつて大河內傳次郎を超人的な存在から人間的な存在へと引き下げた。どこまでも眞實な、眞面目な、普通の人間を浮彫りした。伊藤大輔たちが扱つたのとは違つた大河內傳次郎のタイプを創りあげた。

主人公由松は植木屋の息子だつた。方々の御屋敷へお出入りして植木を手入れして、おまけに美しい娘に想はれてゐる。彼は「果報者」であつたのだ、ところが武家社會では、不幸が何時降つて來るか判らない。彼の親爺は植木鋏を落して、それが下を通りかかつた足輕に當つたといふので、殺される。父親が殺されても、彼は町人だ。仇を討つことは出來はしないのだ。丁度殿樣は仇討に飢えてゐた。退屈だからだ。この殿樣の退屈な御趣向を滿足させるために、植木職由松は「仇討選手」に仕立てられる仇討——「お立派なこと」で御座います。と卑しい女にさえ褒められるやうな仇討の旅に上る。江戸で、物見高い江戸で、賑かな祭禮の日彼は敵にめぐり合ふ。仇討は恐いものである。逃げたり追つかけたりして、雨上りの泥濘の上で、慘めな仇討が行はれる。由松はどうやら敵を討つことが出來た。人の善い敵は苦しい息の下から「土偶人形」と叫ぶ。誰が土偶人形なのだ誰でもない名譽ある仇討選手こそ土偶人形なのであつた。小さな藩の名聲をあげ、殿樣の御機嫌をとり結ぶために、操られてゐた哀れな土偶人形——「仇討選手」は始めて本統のことを知つた權力と策略とが人間を土偶人形にする。彼は自分を弄び、自分の戀人をさえ奪つた憎むべき家老を殺して、討たれる。「仇討選手」の恐るべきカラクリを罵りながら。「仇討選手」はヂヤナリズムの波の上に漂つてゐる蹴られるゝいつだつたのである勿論、この映畫のやうに弱い者が強い者を討つ、といふ型式は、これまでの脚本作法の中にも全然なかつたわけではありはしない。重要な事は小林正がその型式をつかまへて、そこに獨自な人物を作り出したことにある。その人物を通じて、時代映畫に新しい生命を與へたことにある。

小林正について語るとき、僕らは監督者內田吐夢を考へる。この二人の藝術家は離して考へることの出來ない一つのものである。內田吐夢は小林正の脚本を十分に理解した。そして驚くべきことは、內藤吐夢が彼獨特の映畫術を發揮しはじめたことである。伊藤大輔とは違つた映畫話術を作りつゝあるといふことである。話が進んでダレさうになると風俗史的な畫面（例へば、大井川の渡し、宿場江戸の祭禮、雨やどり、など）を挿すところなどを見よ。そこに江戸時代の浮世繪もどきの情趣が描かれる。

俳優はここでは監督者と脚色者との意圖の儘に動いてゐる。すぐれた作者の指導の許に於ては、すべての俳優は名優であり得る。

新春映畫陣
内外映畫の主なもの
大作品揃ふ

▼……正月興行の映畫陣、一年中の書入時だと許り興行師は抜け目なく、特作品を揃へ立て燒き増した、特撮物だと囃子鳴り物入りで宣傳して、お正月氣分で浮れ出すファンの財布の紐をゆるめさそうと苦心慘澹、頭のいゝところは實演や挨拶でスターの顔見世をやつて入場料を高く興行成績を狙つて虎視耽々としてゐるところ、流石にお正月である。

▼……さてお正月にはどんな作品がファンにお目見得するか、目星いところを見わたすと日活では大河内傳次郎の賑やかに面白い時代劇「仇討選手」があり、今までと行き方を一變した大河内物として期待されるし、笑ひ初めにはもつて來いといつた映畫である、また時代劇には、われらの爽快な片岡千惠藏の會心の傑作「金忠輔」があり、現代劇は菊池寛の原作で賣り込んだ「心の日月」が入江たか子の主演で前後篇を同時上映する。

▼……松竹は何といつても蒲田第一回發聲映畫として宣傳が行屆いた「マダムと女房」が期待される、これは日本發聲映畫として見逃せぬ作品だ、その他に「生活戰ABC」や「賢兄愚弟」に時代劇の「まぼろし峠」「なげ節彌之」で右太衛門や長二郎ファンを吸收しようとあるが、この兩作品は先づ花柳界向き。

▼……その間を縫つてBクラスの東活と新興は短期大衆興行と阪妻プロ作品の混成軍でガツチリ儲け利多賣の作戰で新興は流行小唄の映畫「酒は涙か溜息か」「右門捕物帳廿番手柄」「牢獄の花嫁」等大衆向きで映畫的に期待されるのに東活の「綠の地平」と共に「何が彼女を殺したか」がある、その他東活の「白蝶秘門」や月形プロの發聲映畫「紹來文明街」がある。

▼……外國映畫は殆ど全部新春からは發聲版が上映され、その大半が日本版と來てゐるから、會話が解らず、解説者がどなり立てなくとも先づ見當がつく代物となつたところに興行價値があらう、それに發聲裝置もそろ／＼インチキでなくなつたのでトーキーを見たからとて頭痛がするやうなことはあるまい、さて注目される作品はと見ると、先づ獨逸映畫の「モンブランの嵐」があるが、會社ではパラマウントが全盛で「モンテ・カルロ」「市街」「ラヴ・オンパレード」「スキテー」等「女給と強盜」ではクララ・ボウが久振にお目見得する、またコロムビアの猛獸映畫「アフリカは語る」もパ社提供である、その他メトロでは「キートンの決死隊」がお正月らしいところで、新春から發聲漫畫と發聲ニユースが上映されるのも見つけものである。

東活實演隊 花形横顔
元旦から大日活に出演
山田進

船頭ひか心持ち蒼ざめた、理智的な横顔、彼女は淡い旅愁と言ふものを心の何處かに感じて居るのかも知れない。

「岡田だ！」

「岡田靜江さんよ」

密かな私語が寒い冷たい海風に交つて亂れ飛ぶ。

ぼうつと蒼白い顔に、一抹の紅潮が、寒風の吹き荒ぶ埠頭は一杯の人の山だ。

この心からなる熱誠の歡迎に、きつと彼女の胸も感激で一杯になつたのだらう、鋭角的な頬に紅潮が、につこり、この熱心なファンに、感謝の意をこめて彼女は笑ふ魅惑的な艶やかな笑ひ、そして落着いたその容姿、甦生東活の女王として輝かしく君臨するに十二分の貫目を持つて居る。

今も尚、昔乍らの松並木、東海道五十三次は上り、下りの旅客の心を慰む、美しの水郷、繪に書いた様に、羅庭の雅趣を持つ女性的な天然美、その名も床しい濱名湖のほとり、濱松は彼女の呱々の聲を擧げ、搖籃の唄を歡つた、懷しい故郷だ。

湖上で取れるハヤの様に、彼女は敏捷で、ぽつかり浮いた辨天島の様に彼女は美しいのだ。

一九三二年の映畫界、それは彼女に約束された、輝かしい飛躍の年ではあるまいか、

「モダン・ガールなんて嫌だ」新春の感想に彼女はそう語つて居る。

昭和三年五月、日活入社當時の鈴川和子時代から、五年二月の東亞入社、そして現在の彼女たる迄はモダニズムそれが全部の彼女だつた、そして三二年はモガ清算、スマートな演技を持つインテリ女優たる可く精進すると言はれてゐる。

◇◇

宮城直枝さん

潑剌たる若さの中に、一抹の憂鬱の影が、近代人らしい纖細な神經の持主だといふことが肯かれる。

彼女は天眞爛漫だ、彼女の哄笑には一點の邪氣もない、それで引込まれたやうに一諸に大聲を上げると、眉をひそめる、三一年の映畫界はあまりにも彼女に獻品的なものを作らした様だ。

三二年こそ、はつきりと彼女の進むべき路を拓いて呉れることだらう、東活の未來ある新進として僕等は明日の日を期待する。

◇◇

南光明さん

マキノでは「吉岡大佐」から「鐵谷島」を作つて呉れた、この人の甦生東活では新生活こそ、萬人の期待する所だ「白蝶秘門」の家老菱川龍馬、ガツチリした體軀そして、澁い持味をフンダンに、そして今また「大和櫻」一篇の主演者として、遠くこの嚴寒の滿洲にロケーションの意氣、熱と力、

近代資本主義の下に汲々たる、營利會社の作品に良心的なものが出來るかと叫ふ、熱と力は、今年また「鐵谷島」の様な名畫を僕等に與へて呉れるに違ひあるまい。

實説講談　猿廻與次郎

松林伯知演　木俣茂彌畫

桜倉周防守が京都所司代の寛永年間の事支配内の堀川に有名の貧民窟が在つた、此處は大道藝人の巣窟です、此の一廓の内に世俗猿廻しと云ふ是も大道藝人で與次郎と呼ぶ孝子が居る、母を櫻木と云ふもう老年、與次郎は十九歳、色氣も無ければ虚榮もせず天氣がよければ垢と塵埃で襤褸の消えかゝつた木綿の衣類に木綿の裁付袴を穿き長刀の樣になつた藁草履を穿き小さな風呂敷包を背負ひ、其上へこのみと名づけた小猿を乗せ、小さい太鼓を持ち撥を腰に差て下加茂明神の鳥居前に稼ぎに出るさうして少しでも餘分に貰ひがあれば、母に好物の菓子を供へ畜生にも旨い食ひをさせ、喜ぶ顔を見るのを無上の樂しみとして居る、

今日は年の瀬と云ふ大晦日です、與次郎は常より早く戻り、夕飾を濟ませ、このみにも食物を與へた頃には、トツプリ暮れた、薄暗い行燈のもとに何やら思ひに沈んで居る、窶れた母の姿を見ると思はずホロリと涙を落した　與「阿母さん、何を考へてお在で爲さいます　櫻「與次郎や、廣い世の中にわたし程因果な者もありますまい、知つての通り配偶者には早く死別れお後からは何の音信も無く、なさない中のお前にばかり苦勞をかけて誠に濟みません　與「エ、勿體無い、さう云ふ事は夢にも仰しやつては下さいますな罰があたります、碌なお世話も出來ませんのに何の愚痴も仰しやらず堪えて居て下さるお心持が、私はお氣の毒でなりません、併し阿母さん、人間の一生は十轉び八起きとさへ申します、斯んな惡い事ばかりもございますまい、正直にして稼いで居りましたら、又運も向いて參りませうから何卒お氣長にその時の來るのをお待ち下さいまし　櫻「さう云ふお前の優しい心を聞くにつけても思ひ出すのはお後の事です、せめて貧しい中にも兄弟揃つて手許に居てくれゝばお前も氣強からうし、又わたしとしても女は女同志、あれとも相談して何とか手助けにもなれませうものを、これもわたしの深い罪障と思ひませう　與「アハヽ、阿母さん、貴下そんな事許り考へてお在でなさると御身體の毒です、もうもうお忘れなさつて、今お床をのべますから悠然お寢みなさいまし、私もふせります」と起つて戸棚から引出した薄い油染た布團、薄い夜着、手拭で捲いた木枕、枕元を破れた二枚折の屏風で圍ひ　與「サアお寢みなさいまし　櫻「デハ寢かして貰ひます　與「サア／＼何卒」老母は快く伏床に入つた、與次郎はその儘行燈の側に坐し、腕を組頭を襟に入れ太い息を吐いた　與「困つたなア、阿母さんに御苦勞をかけまいと思ひこれまで何の話しもしなかつたが、段々嵩んで來た借財、常と違つて一年のきまり日如何に情深い美濃屋の旦那様も今日は待つては下さるまい、それに越後屋さんのあの御氣性、大きな聲でも出されると困るが、と云つて右から左とお拂ひも出來ず、どうした物か」と思案に暮れて居る、折しも　○「與次郎さん、居なさるかナ」と云ひつゝ表の戸を排けて入つて來たは美濃屋六兵衛と云ふ酒屋の主人です、その顔を見て與次郎は益々胸は閉ぢた、六兵衛は上り框に腰をかけ、六「扨て與次郎さん、誠にお氣の毒だが今夜はお前の言ひ譯を聽いては歸れないよ、縱令幾らでも拂つておくれ、失禮だが此處に居る猿を相手にして他人樣から貰ひ集めて來る錢だ、どう稼いでも知れた物だし、母親と云ふ厄介者もある、それでお前さんがその錢で酒でも飲むとか、女にでも手を出すやうなこともなく、なりふりに構はず親を大事と孝行をして居なさるから謝の困るのにも變りは無いすまぬと思へばこそ正直な頭を低げて詫もするのだ、感心な人だ、無理はないと待つて上げて居る内に、味噌と醤油とで三貫六百溜つてしまつた、扨てさうなると不人情のやうだがわたしの方も商賣だからさうは待つても居られ無い、第一他の御得意先に知れた時に申譯が無い、それに大晦日でもあるからやつて來たが、併しお前さんの方にも又都合があるだらう、無理は決して言はない、千兩のかたに編笠一蓋と云ふ例へもあり、心持だから幾らでもおくれ、それこそ二百でも三百でも宜い、快よく貰つて歸るから、さうしておくれ、いゝきまり日だけにわたしも困るから」と柔かに縋り付くやうに言はれると、そこを押して待つてくれとも嘆めもせず、只面目なく頭を低げて居るところへ　○「與次郎さん、居たかれ」と又門の戸を排けて入つて來たは越後屋五兵衛と云ふ因業な米屋の主人、諸人呼んで鬼と謂ふ　五「オヤ、美濃屋さんも來て居なさるれ　六「ウム越後屋さんか、扨てはお前さんにも迷惑がかゝつたな　五「かゝつたにも何にも些とも埒が明か無えんだもの、弱つたよ」と云ひつゝ六兵衛の側へ腰をかけて　五「與次郎さん、困つてしまふれ、拂ひは如何つけてくれるのだえ、米と薪で十六貫五百だよ、施しにして居る商賣じやアれえ、それで奉公人を使つて飯を食ふのだから、さう／＼いゝ顔をしては居られれえよ、今日は大晦日だ、今夜は綺麗に拂ふだらうれ、此の上に待つてくれは圖々し過ぎるぜ、世間の奴が俺の事を鬼と云ふさうだが、角でも生やさなければ此方が先へいきついてしまふ、一體いゝくぎりは如何つけてくれるのだ」と疊を叩いた、與次郎は何にも言はず起ち上ると、帶を解き、襦袢まで脱いで古布子の上に載せ、繩のやうな帶も添へ、己は犢鼻褌一本、師走の寒さに顫へながら　與「何共申譯がございません、お詫のしるし、どうぞ是れをお持ち下さいまし」と二人の前に出した、先刻から向ふに居て見て居た小猿のこのみは、チヨコチヨコと與次郎の後に來て、着て居た赤い絞の袖無しを脱ぐと、器用にたゝんで主人の衣類と並べ、與次郎と共に頭を低げポロポロ涙をこぼして詫て居る、これを見て情深い美濃屋六兵衛が泣き出した　六「ア、可愛い物だな、飼主の難儀を助け度いと着て居る物まで脱いで一緒に詫るとは、何と云ふ健氣な畜生か、不人情な人間には此の眞似は迚も出來れえ、人間は跣足だ、併し思へば不思議な物だ、與次郎さんが孝行者だから畜生にまで此の深切がある、揃ひも揃つた立派な了簡これには感心した、與次郎さん、從來の貸しは棒を引き改めて褒美をつけてお前さんにあげる、さうして母子二人の面倒は出來ない乍らわたしが見やう、安心をおし、越後屋さん、洵に濟まないが此處で與次郎さんを裸體にして行つた處で悉皆穴が埋まると云ふ譯でも無からう、乾度此入合せは美濃屋がする、わたしも損をするからお前さんも諦めて勘定は綺麗に與次郎さんにやつて下さい　五「やるとも／＼此の畜生の姿を見ては、何で此の着物を持つて歸れる物か、俺は五十五歳だがこれまでに涙をこぼしたのは兩親の歿んだ時と今夜許りだ、先刻から見てゐたがなんと云ふしほらしい小猿であらう、猿は引掻く許りが能だと思つて居たが、成程人間に近いといふが眞實だ、出來る事なら毛を三本殖やしてやり度いと思つて居たんだよ　六「まつたくさうだ、是が人間ならば與次郎さんの良い話相手だらうに、何故畜生に生れて來たか、惜い物だ、時に帳面に棒は引いてくれやうれ　五「引くよ、それこそ股引より太い棒を引く、そこは安心だ、サ與次郎さん、お前と猿が大切な稼人だ、何方が風邪を引込んでも困る、早く着物を着て畜生にも着せてやつておくれ」與次郎は嬉し泣きやがつてこのみに袖なしを着せ、己も衣類を着た　五「それじやア美濃屋さん、歸らう　六「ア、出掛けやう、それでは與次郎さん、若し足りない物があつたらば遠慮なく取りにお出で、店の者にも云ひ附けて置くから、留守でも持つて來て使つて宜いよ　與「有難うございます　五「米でも薪でも失くなつたらば家へお出で、わたしが居なくともお前が來れば何時もだけ持たせてやるやうに小僧や若い者にも言つて置くから、時々見廻つてはやるが、阿母さんを大事にしておあげ」と鬼の五兵衛が佛と變つての深切、その儘美濃屋と共に出て行つた、越後屋五兵衛の大聲に夢は破れて屏風の陰で委細を聽いた母の櫻木はそれへ出て　櫻「與次郎や、お前の孝行、このみの深切、泣いてわたしは聽いて居ました、それにつけてもこのみが身に着けた物まで脱いで……何と云ふいぢらしい心か」と親子が片身代りに小猿を抱き、頬に頬をあて、泣いて居た

扨て一陽來復新玉の春を迎へる元日は下加茂明神の初詣で境内は非常な混雜する、與次郎は斯う言ふ時に儲けて閑な時の用意をして置かうと、汚れ垢染た木綿の衣類に木綿の裁付を穿き、小風呂敷を斜に背負ひ、その上へこのみを載せ、小さな太鼓を持ち、撥を腰に帶して其の朝堀川の茅屋を出て明神の境内に來るともう人は出盛つて居る、頓て鳥居前の廣場へ來て莚を敷き、その上に小猿をおろし己も坐し、頻りに太鼓を打つて人を集める、參詣の老若男女はその音を聽くと　人「ソレ、堀川の猿廻しが來たお猿の藝を見て行かう」と忽ち周圍は黒い人垣を築いた、そこで與次郎は小猿の體につけてある細紐をゆるめて太鼓を打ち拍子を取つて唄ひ囃す、このみはそれにつれて舞ふ、その形のおかしく面白いのさ、舞の巧さに魅せられて四方から雨の降るやうに投錢をする、與次郎は程度の處で撥を止め　與「このみや、大分戴けたやうだ、お前がお禮をして集めてお出で」と命令すると、小猿は獣首くと、與次郎から渡された大きな財布を左に持ち右の肢で落てゐる錢を拾ひ、一々頭を下げて財布に入れ、ついて居る紐で口を結び、キキーと云つて與次郎に渡す、猿は四肢動物で四足共に手の代用をする不思議な獣です、見物は感心して　○「どうだ、利口な物ではないか、頓間な人間にはとても斯うは氣が廻らないよ、併し又よくこれまでに仕込んだ物だれ、斯うするまでが大變だ」なぞと噂をしてゐる、此の群衆の中に所司代板倉周防守の家來で惡い酒癖のある吉田一平と云ふ醉ひどれ武士が、五體に波を打たせ醉顔朦朧として見て居たが　一「面白い猿の舞だ、拙者も餌代を遣はす、今一度舞ふてくれ」と持合せた錢を一掴み、パッと小猿の頭へ投つけた、痛かつたかこのみはパチパチと二つばかりまばたきをして、鼻の先へしはを寄せると飛び付いて一平の顔をパリパリと掻きむしつた　一「ウッッ痛い、無禮者ッ」と左の手で顔を押へ、右手に太刀の鞘を拂つて振冠つた白刃の光に驚いた小猿は與次郎の膝の邊りに逃て來る、與次郎はあはてゝ後に隠し、刀の下に手を突いて　與「どうぞ御勘辨下さいまし、何にも存じませぬ畜生の事、とんだ粗相を致しました、私が代つてお詫をいたします、何卒御了簡なすつて下さいまし　一「インヤ、勘辨ならぬ、何にも知らぬ畜生と其方は申すが、凡そ獸類の内にて最も人間に近き物は猿猴である、猿智惠とさえ申す位賢い物だ、思ふに拙者が彼の頭へ錢を投げつけたを憤り飛付いて面部に爪をあてたに相違無い、小癪な奴だ、これへ出せ、眞二つと致す、出せなまじ慈悲をかけると其方の爲めにもならぬぞ　與「御腹立は御道理ではございますが、此の小猿を力にその日を送る貧乏人、今此處でお刀の錆になりますと明日から老母を養ひます事が出來ませぬ何卒不憫な奴と思召して今日の處はお助けなすつて下さいまし　一「ナラヌ　與「そこを御無理でもございませうが　一「エ、五月蠅、獣れ武士の面部へ穢れた畜類の爪を立てさせ、只此の儘に濟むと思ふか白痴奴、そこを退け、猿奴を出せ」と飽くまで迫つてゐると向ふに見て居た職人らしい若い男が「オイ御武家何も俺は猿の贔負をする譯では無いが、そいつはお前が少し無理だらうぜ、乞食じやアれえ、藝を見せて貰つて居るんだお前だとて跡を見度いと思ふから若い中から錢をやつたんだらう」一「何、若い中から、若しい中とは何だ」「若く無ければおさなしく擲つてやんな」貰ひ心の良いやうに何だ、今の樣は、畜生だと生物だ、ぶつかれば痛え、癇を起すのは當然だ、俺だつて飛付きたくならア、お前のすることが惡いから引掻かれたんだ、それを腹を立てゝ切らうと云ふのは筋が違ふ、切るよりは猿に詫て歸つた方が道だらうぜ」「さうだく猿の方に理窟があつても侍にはれえぞ、早く赤い顔の大將にあやまつてしまえ、馬鹿野郎」「馬鹿武士、サンピン野郎」「オイ、猿廻しの兄貴、斯んな分らずやに何を言つたとて言ふだけ野暮だ、係合つて居ると詰られえ怪我をする、今の内に猿を背負つて逃てしまひな、世の中に馬鹿程恐ろしい者は無え、口惜しくともこうなつたら逃るが勝だ、俺達がゝらかつて居る内に早く逃なよ」「眞實だ、お前が正直に頭を低げて居ると馬鹿は圖に乘つて何をするか判られえから早く逃てしまへ、命は大事だぜ」「猿廻し怪我をし無え内早く逃ろよ」「逃て仕舞えⅡ」と口々に言ふ、イヤ一平は火のやうに憤つた　一「無禮なる町人共其方等から先に成敗致して遣はす、其處動くなツ」と身を翻へしビユーと大刀を振り廻した、強い事を言つてもそこは又町人の悲しさ白刃には向かへ無い、ソレ危れえと四方へ散つた　一「柔弱者奴、逃おつた、サア今度は其方の番だ早く猿奴を出せ、出せと申すに　與「そこを御了簡下さいまして　一「エ、面倒だ」と與次郎の詫て居る頭上をのゝんで振り下した此時、覆面いたした武士がその臂をヒタッと押えて　武「待て　一「コレ何を致す、邪魔立て致すと打放すぞ　武「斬るなら斬れ、武士の威權を笠に被て心弱き町人を苦むる不所存者、後來を戒めて庭して遣はす、能く覺えて置け」と押えた手を放したその機に乘じて一平がさつと斬り付けた、武士は輕く身を翻じ延びた手首を掴むとグイと引いて置いて突つ放した、一平は二三間太刀を提げた儘飛出すと俯伏に倒れた、その時に向かふに在つた石で胡座をかいて居る行儀の惡い鼻をキユーと擦つたが擴がつて居たゞけに擦の場面も廣い　一「己ッと」起き上つた顔を見ると鼻から唇、頤へかけ出血の爲めに採られて居る、覆面の武士はカラカラと笑つた、一旦散つた見物は是を見ると再び集つて來て「態を見ろ、だから早く猿にあやまつてしまへと言つたんだ、間抜け野郎、その面は何だ、口惜しかつたら矢でも鐵砲でも持つて來い、俺が一人で引受けてやろ、御武家樣、若し來ましたら後を戒めて戻してやる、能く覺えて置け、今のあれを一つお願ひ申しますよ」と小さな聲で覆面の武士に加勢を頼んで居る、成程これなら安心です小氣味好く思つたかドッと笑つた、一平は酒の醉ひも醒め、拔刀を鞘に納め鼠舞ひをして逃げ去つた、與次郎は蘇生の思ひにホッと息を吐き、大地へ手を突いて　與「旦那樣、危い所をお助け下さいまして有難う存じます、お蔭で命を拾ひました、お殿樣は何方でございませうか　武「イヤ、別に名乘る用は無い、怪我も無く頂上であつた、緣あらば復會ひますぞ」と言ひ捨てゝ武士は社の方へ急ぐ、是れが與次郎の妹お後の夫婦口傳兵衛である、此の邂逅が辛となつて孝子與次郎の出世を見ると云ふ猿廻し與次郎の實話本年の干支に因み斯は口演いたしました。

賀正

安東・貔子窩・大石橋

安東

- 安東地方事務所長 多田晃
- 鴨綠江採木公司
- 安東銀行集會所
- 滿洲電氣株式會社 安東支店 支店長 田村忠一
- 滿鮮杭木株式會社
- 國際運輸安東支店
- 鴨綠江製材無限公司
- 滿洲鑛山薬株式會社
- 大津峻
- 藤平泰一
- 橋本秀久
- 高山勝司
- 代谷勝三
- 來栖建助
- 山縣寅吉
- 安東縣公署 本島邦男
- 荒川六平
- 水間議之助
- 原田市松
- 安東朝鮮人會長 金虎贊
- 安東石炭商組合
- 大連汽船安東出張所
- 鴨綠江製紙株式會社
- 滿洲土建組合安東支部
- 安東ホテル 安東驛構內賣店
- 安東料理店組合
- 安東挽材株式會社
- 安東輸入組合
- 一木藥店
- 須田武夫
- 柳田宗三郎
- 福原茂平治
- 鹽川泰雄
- 木浦和男
- 高橋貞二
- 由良之助
- 金子商店
- 文榮堂書舖 文榮堂新聞部

貔子窩

- 田中稔
- 清水澂
- 渡部喜兵衛
- 田上乾吉
- 米村茂
- 貔子窩郵便局長 石井庄一郎
- 貔子窩金融組合 理事 松井廣治 電話二四三番
- 大日本鹽業會社貔子窩出張所 小川鶴吉
- 東街三〇番戸 牛田幾郎
- 共益購買會 牛田敏 電話二六六番
- 御料理仕出し 一力食堂 電話二二七番
- 食料品諸雜貨 織方商店 電話二三〇番
- 代書業 梶原貞一 電話二七三番
- 建築請負業 竹原三郎 電話二五九番
- 和洋御菓子 玉木屋商店 電話二九六番
- 食料品諸雜貨 武藏屋 電話二二九番
- 和洋御菓子諸雜貨 黒田商店 電話二七五番
- 御料理仕出し 小梅 電話二四二番
- 清原守一 電話二六二番
- 御料理 喜樂 電話二〇六番
- 疊商 光尾又六 電話二八一番
- 貔子窩旅館 電話二一三番
- 貔子窩運輸公司 電話二七一番
- 貔子窩市場株式會社 電話二八四番
- 滿洲日報取次店 佐藤生々堂 電話二三一番

大石橋

(順序不同)

- 大石橋電燈株式會社
- 地方事務所長 平尾康雄
- 滿鐵醫院長 仁科泰
- 警察署長 猪苗代直躬
- 驛長 日野熊次郎
- 地方事務所
  - 庶務係長 齋藤準一郎
  - 地方係長 猪崎勇
  - 會計係長 平岡正行
  - 社會主事 德島一郎
  - 地方係 堀切盛秀
  - 地方係 出利葉喜一郎
- 大石橋機關區員一同
- 郵便局長 吉川修平
- 憲兵分遣隊長 齋藤重英
- 保線區長 宮下熊吉
- 圖書館主事 前田龜吉
- 大石橋宣武街五ノ四 大石橋金融組合 電話一二九番 振替大連四九四九番
- 齒科醫院 井上竹四郎
- 石文堂書店 電話二八番
- 大石橋輸入組合 電話三四番
- 西島常次郎 電話五〇番
- 大石橋驛前 三角堂藥局 廣津三吾 電話一二〇番
- 大石橋驛前 梅廼家旅館 電話七番
- 地方委員 楠川益藏 川村勝之進 川西重作 小林才治 山下義明 愛甲直剛 赤倉龜次郎
- 御料理 日本館 藝妓酌婦一同 電話一〇番
- カフエードン 君子 歡子 笑子 光子 電話一一九番
- 御料理 滿洲館 藝妓酌婦一同 電話一〇九番
- 御料理 福住 電話一一番
- 御仕出し 福住庵 電話五一番
- 御料理 環之家 藝妓酌婦一同 電話四六番
- 御料理 金泉館 館主外一同
- 牛乳搾取販賣 松島牧場 電話六三番
- 滿洲日報大石橋支局 美座特省
- 諸新聞取次 代書業 細野芳枝 電話四四番 振替大連二七八一番

賀正

大連

大連取引所
錢鈔取引人組合
組合長 赤塚彌太郎
副組合長 劉仙洲
任召南

政記輪船股份有限公司
總理 張本政
大連市監部通三九
電話代表四一四一番

內外板硝子輸出入貿易
衛生防水煖房材料工事
松島商店
大連市山縣通一四九
電話代表五一八六番
同 建材部 電話五七七六番

大連市磐城町八九（西通筋）
博多屋本店
電話四四五三番

船具金物機械諸油塗料
岸洋行
大連市監部通二七
電話四三七六・六四二〇番

文房具、運動具、度量衡
滿書堂文具店
大連市浪速町三丁目
電話（四三九〇六）（四九〇四番）

菱川大昌堂藥局
大連市淡路町七
電話七八九三番

滿洲特產物輸出貿易商
㋚瓜谷長造商店
大連市山縣通一三七番地
電話（國四四二六番）（七三三四番）（七三六四番）（六二）
發電略號（ウ）又は（ウリ）

ビクター蓄音機滿洲代理店
山葉洋行
大連市信濃町
電話代表四一四八番

營業品目 銅鐵材、建築材料、諸工業機械、雜穀肥料
株式會社 大信洋行
大連市監部通四九
大阪支店 大阪市南區安堂寺橋通三丁目
奉天支店 奉天小西關大街
銅鐵工場 大連市香取町六番地
製油工場 大連市千代田町十一番地
倉庫部 大連市東鄉町二五番地

藥品貿易商
株式會社 乾卯商店大連支店
大連市山縣通
電話（三五〇一）（六〇九七番）

永順洋行
大連市大山通
電話（四三四八）（三六八九番）

藤川商店
大連市大山通
電話四六三九番

丁字屋洋服店
大連市連鎖街
電話二二一九番

三好野
大連市磐城町
電話六五一二番

大連市伊勢町九四
山本運動具店
電話五九七九番

滿洲煖房衛生組合一同

株式會社 南昌洋行大連支店
大連市山縣通八八
電話（長）三七四四番

永製菓會社・明治製菓會社 特約店
製菓卸問屋
機械製花アラレ類、掛物類、煎豆ピーナツ其他各種
木村屋分店
大連市若狭町四丁目一九九
電話六八六八番

大連質屋業組合
電話六〇二四番

株式會社 大連車夫合宿所
大連市八幡町二番地
電話六〇二〇番

建築材料、石炭販賣
德和公司
大連市近江町二 電話代表六一八一番
同 入船町區外 電話 四八四七番
同 聖德街二丁目 電話 九二二〇番

森洋行
大連市連鎖商店街
電話二二一八番

ラジオ電氣商
內藤商會
大連市伊勢町
電話四二五七番

南滿ホテル
大連市東鄉町五四
電話（五八一六）（二二六五七番）

大連市山縣通市場
電話七二三五番

大連信濃町市場組合
電話四七六三番

小崗子料理店組合一同
電話四三三六番

大連西檢番組合員一同

御料理 紀の國家
大連西檢
電話八九五〇番

御料理 香壽美
大連西檢
電話六〇三六番

大連市浪速町三丁目
梅園
電話五二一二番

久保田寫眞製版所
大連市武藏町六六
電話八六三一番

食糧品卸商組合（いろは順）
爾宜田商店
中村榮吉商店
松井商行
三星洋行
京和洋行

大連市浪速町大山通角
遼東百貨店

大連酒商組合（イロハ順）
白鹿 元賣元 合資會社 白鹿商店
白鶴 發賣元 嘉納合名會社大連支店
澤龜 發賣元 宅合名會社大連支店
大關 加茂鶴 發賣元 黑岩大連支店
忠勇 發賣元 增屋
櫻正宗 發賣元 扶桑號高見商店
富久娘 發賣元 富久洋行
都菊 發賣元 合名會社 肥塚商店大連支店
菊正宗 發賣元 鐵谷商店
東洋一 發賣元 柴谷洋行出張所
白雪 發賣元 鈴鹿商店

大連綿糸布商組合（いろは順）
日本綿花株式會社 大連支店 大連市山縣通
東洋棉花株式會社 大連支店 大連市山縣通
株式會社 大信洋行 大連市監部通
上野洋行 大連市山縣通
株式會社丸永商店大連出張所 不破洋行 大連市山縣通
株式會社 永順洋行 大連市大山通

大連米穀同業組合員（イロハ順）
石村商店 大連市山縣通市場
遼東精米所 大連市大江町二
中興精米所 大連市秋月町一〇
大矢組株式會社 大連市三笠町八
大島屋商店 大連市心濟橋通
渡邊商店 大連市二葉町二
河又商店 大連市信濃町
大連精糧株式會社 大連市三春町一
泰東精米所 大連市西崗街二五六
田中商店 大連市紀伊町二九
多久洋行 大連市能登町
泰宏洋行 大連市山縣通三八
辻山洋行精米部 大連市山縣通七六
名藤商店 大連市岩代町三八
中矢商店 大連市東公園町六六
村上商店 大連市吉野町三〇
桑野商店 大連市榮町一二
山喜商店 大連市大山通二ノ五三
慶和德 大連市伊勢町六四
福永洋行 大連市若狭町四六
恒盛義精米所 大連市雲井町四
永順精米所 大連市雲井町
越後屋商店 大連市淡路町九
協成泰精米所 大連市雲井町一六
共進洋行 大連市若狭町四四
志摩洋行 大連市若狭町一八
城島商店 大連市近江町一四五
盛進商行 大連市山縣通一四一

お猿さん百態

今年だけは お猿さん萬歳

「お半長右衛門」を踊る印度猿　アチラで人氣のある日本産　なんと愛嬌者よ

猿はアジア、印度、アフリカ、南洋諸島どこにも見受けられる程一般的な動物で、ゴリラ、大猩々、手長猿のように立つて手を振りながら歩行する類人猿といふ高等な猿から、印度、日本猿の様に小柄の愛嬌のあるものに至るまでその種類は澤山あります。類人猿は枯枝を集めて樹上に小屋を作るのが特徴で雨など漏らぬやうに巧みにやります。一體猿の壽命といふものは十四、五歳から二十歳位迄で、稀に三十歳といふ樣に長命するものもあります。所謂壯年期といふのは六、七歳頃で五歳で猿は成年に達し、よき配偶者を得て子を產むのです。

外國に人氣のある日本の猿

日本猿の體格は、ゴリラ、猩々を除いては中等大の部でせう。印度の猿には一寸大きいものがあります。そして尾が無く、顏とお尻が眞赤で口の内側に食物を貯める袋のある事が日本猿の著るしい特徴です。外國では赤い顏の猿といつて日本產は人氣があるやうです。性質はごく柔しく、飼育し易いのですが、意地惡い事でもされるとたいへん性質が惡化して狂暴になり勝ちです、日本では特に猿の產地といふ程の所もなく、全國到る所に發見されます、まづ九州、本州では中國、四國の深い山に澤山居る樣です、この中で九州の猿はその毛色稍外と異つて鼠色が強い。昔の人が山だしで世間知らずと惡口を云ふ時に「此四國の山猿め」と云ひますが、今日よく研究してみますとこんな特異性はない樣です。之等の猿は人里離れた奧深い森林の樹上に生活を營んで居ます。

新年のうた

○凍みふかき地に野伏しの兵もあらむ年たちかはる東雲のいろ　甲斐　水棹

○青羅紗に銀の縫ひとり子の靴が春はまばゆい光と遊ぶ　池淵　錦江

○まだきより正月のうた歌ひ合ひ騷げる子等をさとめむとせず　橋本　英子

○たまさかに夫の落ちつく正月の朝餉親しく物言ひにけり　永原いね子

○正しき皇國まもると雄たけびて雪野のはてに命果てけむ　西島　貞子

○しみ照らふ初日を仰ぎつつ凍土に足ふみしめて軍人は立つらむ　谷山つる枝

猿廻しのサルはインド生れ

秋田縣に「猿山」といつて岩ばかりの山に猿が澤山住んでゐるといふ面白い例もありますが、これなどは例外で多くは森林の中に居ります。日本產は木から木へと飛鳥の如き早業ではれ廻る元氣ものですが臺灣猿は地上に居る事が多い。町辻などで猿廻しの口拍子に合せ小憎らしい程の眞面目くさつた顏付で「お半長右衛門の道行」を踊つてゐる風景をよく見受けるが、あの猿は印度猿が多いようです、値段の關係と性質が溫順のせいから飼養されるのでせう。喰べ物はバナヽ、や葡萄梨等々季節々々の果物を好み春であれば小鳥の卵とか雛、バッタなどをとつてこれを常食としてゐます、草の葉、野菜も食べます。滿山雪に覆はれ食物がなくなる冬になると、山を降つて人里近くに出沒し人家や納屋に忍び込んでは穀物を食べます、從つて冬は彼等にとつて生死の境で榮養も衰へますから身體は著るしくやせこけてしまひます

腕力の強いものが大將さん

然し受難期の冬が過ぎ若草の萠ゆる春五月といふ頃になると牝猿は子供のために危險を冒して又もや人里に現はれて食物漁りをやります。この時かれて待ちかまへてゐた獵師は鐵砲で親猿を打殺して母の體にしがみついて恐れ戰いてゐる子猿をつかまへます、これについては色々涙の出る樣な哀話もあるやうです。類人猿と異なつて印度、臺灣、日本の猿は群をなして即ち規律統制ある團體生活をするといふ特徴があります。若し萬一その團體行動或は統制に服さなかつた場合にはその猿は慘々な目にあはされ、血を見る樣なこともあります。この團體には年長者といつた樣なものがあり、それが團長格となつて一軍ならぬ一群を號令し、他のものはこれに絕對に服從してゐます。動物園で十頭なり、二十頭なり一緒に飼つてもこのデリケートな動きがわかります。所が日本猿は必ずその仲間(十四居れば十四、二十四居れば二十四)の内で最も腕力の強いものが團長になるやうです。年の頃にして六七才といふ所でせう。

大將は部下の喧嘩をも仲裁

然し如何に昔勢力を振つたものでも、力衰へ老境に入れば、その地位に止まる事は出來ません。若いものがこれに取つて代るのです。老たる昔の勇者は人間でも同じやうに子供に馬鹿にされ食物を當がはれて小屋の隅にうづくまつて味氣ない生活をしてゐます「齡ながければ恥多し」は强ち人間にのみ通ずる哲理ではないやうです。團長は必ず牡であつて、牝が團長になるといふ事は絕對にありません團長は一夫多妻で堂々と一群に君臨するほかしばしば起る部下の喧嘩の仲裁をする。喧嘩の原因はやはり食物の事ですが、生來氣の合はぬものがあると見えてよく物凄い爭鬪をやります。或は又子供を他のものがいぢめるとよくしたもので團長はこれを仲裁したり、譴責を加へる。仲裁の場合團長自らこれに當る事は殆どなくまづ部下に命令して喧嘩を取しづめ自分は後からじつと成行を凝視してゐる

二、三ケ月でアンヨが上手

子供が生れると腰合せに抱かゝへ地上を步行出來る迄には生後二、三ケ月は要します。部下が子を生むと團長は大へん喜んで極力これを愛護保護します。嘗つて子を持つたもの或ひは、未だ子持の經驗ない猿どもは子供をほしがつて騷ぎます。子を抱いてゐる母猿の傍にソロソロと氣兼して近寄り、口をもぐもぐさせて親におべつかを使ひ安心させて子猿の手足に觸れたりして終ひには子を借りる迄に到りますがそんな時に子供がキヤツとでも泣いたら大變團長からひどくやられるのです。

漫画 とんちやんのお正月 (ゴネンシの巻)　よこもとさんぺい

曙の鐘 (156)

倉田潮

河野想多畫

人は皆殺す(二)

およりが立ち去ると、あけみはもう爲すべき仕事もなかつた。壯三には既に食事の前にたえ子と逢つた話がしてあるし、お夏には歸ると直ぐ命ずべきことを命じてしまつてゐた。

しかし、たゞ一つ此處にしのこしたことがあつた。それはマリアと逢つて、この不思議な少女が果して事件の眞相を知つてゐるか何うか——それを確めることだつた。

あけみは此の屋敷と云はず、この世の中全部に誰も恐ろ可き人間を知らなかつた。たゞマリアだけは思ひ過ぎかも知れないが、近頃何となく怖ろしいやうに思はれて仕方がないのだつた。特に旅に出る時に「あなたが殺したのではない」と云はれてからは、マリアの姿やその聲までも急にはつきりと心に刻みこまれて、思ひ出す度に神經が狂つたやうにいらだつて來る。さうだ、事實の眞相を知つてゐる者があるとすれば、世の中にマリア一人だけなのだ。が、果してマリアが眞相を掴んでゐるか何うか、今日は紙から試してやらう。もし知つてゐたら……

彼女はさう考へて一人妖艶な笑ひを漏らした。意慾を實行する前途にあたつて、障害になるものが出て來た時には、如何なる手段を用ひても其の障害を取りのぞこうと、彼女は初から決心してゐたのである。その爲めに、あけみの鏡臺の中には、剛太郎の殺害された夜に不思議な因縁で手に這入つたインデアン・リヤゴーと云ふ藥が秘そめ隱されてゐたのだつた。

あけみが部屋に這入つて行つた時、マリアは黒い毛糸の洋服をつけて、部屋の中を歩き廻つてゐた。あけみが扉を開いたのも、殆ど氣のつかぬ樣子で、時々口の中で獨り言を云ひながら、机の彼方を左右に行きつもどりつしてゐる。あけみはその樣子に微笑を漏らさうとしたが、急に眞顔になつて。

「マリアさん」と低く呼んだ「御ひまなの」

「まあ」とマリアはくつきりと白いうなぢを見ぜて振りかへつた。

「何卒……私、例によつてひまですのよ」

あけみはマリアの心まで見透かさうとするやうに、上から凝とマリアの姿を見つめた。マリアもあけみの顔をチラと見あげたが、その瞳は何時になく光りがなく、失望したやうに濁つてゐる。あけみは不審に思つて、

「何處か御惡いの」

と訊いた。するとマリアは憂鬱に、

「この頃不思議な夢ばかり見て、よく熟睡出來ないのよ」と顔をしかめた。

「昨夜なぞは魔女に殺された夢を見ましたわ」

「………」

あけみはぎくとした。何と云ふ不思議な、鋭い人間なのだらう。が、別にあてつけて云つてゐるやうでもなく、たゞ本當に夢に見たことをそのまゝ話したと云ふ樣子なのに安心して、マリアと向ひあつて椅子にかけた。すると、マリアは獨り言のやうに語り初めた。

「私はあけみさん、壯三さんにも話したことがありましたが、善人は地獄におち、惡人は極樂へ行くと思つてゐるのですわ」

この言葉も一種の皮肉にあけみには聞えるのだつた。マリアは言葉をついで、

「こゝに一人の惡人がゐる」とあけみを見つめて、紙の上に乗つてゐた文鎭をぴしりと机の上に、あけみの前に置いた「こゝに一人の惡人がゐる。すると、外の總ての人はその惡人を、怖る可く憎むべき人間のやうに思ふでせう。が、私は決して其の惡人を憎むことが出來ないのみか、かへつてその惡人の此の世に持つて生れた運命の前に、首をさげなくてはゐられないのですわ」

さう云ひながらマリアは本當に御辭儀をするやうに、あけみの前にかすかに首をうなだれた。あけみは青ざめた賊な顔をして、[illegible]にマリアから顔を外向けた。

新年川柳

「福」　高橋月南選

大連　水野　瀟
艶福家またお三時を寄らされ　大連　今中　市路
福引の考案をするにぎやかさ　大連　鈴木　秀子
幸福は只まごろかな父の顔　奉天　山口　筑水
喰ふことを幸運とする親となり　長春　小林　ひさ
お多福に似てお正月からかはれ　大連　鶴家宵雨子
幸福を喜び合つて決死隊
幸福を心に祈る母になり　大連　青山　村雀

子福者へ家主は一寸首かしげ　大連　福賀　久子
幸福は日本の春はラヂオから　鞍山　年　一
昨日とは別な名のつく福草履
福壽草金庫の上に春を咲き　大連　刀根洋人坊
福券にまた新しい妻の慾
幸福に暮す卅娘の日本髪　四平街　原田　逸坊
子福者は年始の禮を順に見せ　旅順　上倉　泥舟
萬福來支那正月は赤く貼り　大連　廣瀬　重臣
靴下を吊し明日への福を寢る　金州　陸奥　一虎
押賣りも福神といつて置いて行き　旅順　饗場　青兒
失業へ子だけ福々太つてゐ　大連　福賀　滿
初風呂へ伸び切つてゐる幸福さ　撫順　山下　岸柳
姉の子は煮こぼれさうな福笑ひ　大連　中村　彦一
せめてもの幸福一家達者です　四平街　伊與部綾子
支那歌で福を投込む松の内　大連　島村　雲英
元旦といふ幸福な顔ばかり
幸福へ努力の足りない朝寢坊　奉天　矮　繪夢
幸福は鍵の穴から覗かせる　大連　鈴木　節子
子福者は撮るとき鼻を拭いてやり
一年の幸福祈る今朝の屠蘇　大連　伊東　六
幸福よと娘からの初便り　大連　神山　緑村
福運は一番違ひをくやしがり　奉天　福井さんぼ
朝蜘蛛を袋に入れて福を待ち　大連　渡邊　紅雀
福笑ひ上手に出來て興がなし　大連　山谷　一狂
幸福の蔭に知られぬ涙あり　大連　坂口　敏郎
福券へ足りないだけを買ひあさり　貔子窩　中村瀘中子
大それた慾に逃げ出す福の神　大連　森　良永
福引へあてられてゐる婦人連　大連　佐伯　一軒
朝詣で願ひ土産は福の神　大連　小川　隆
福の神汚い家を逃げ廻り　大連　森田　晃[illegible]
福を持つ辨財天に少し惚れ　大連　森崎　佛心
福の神足ることを知る身に宿り　大連　中村　〇人
幸福の希望に滿ちた初日出　岡山　見分　汀雨
福の神來そうに春の戸を開ける　大連　芳村　紅吉
福耳にされて失業小一年
七草を福神漬の新世帯　大連　市村　喜一
福引は戸を開けかれる程抱ひ
福相といはれ十年露路に住み　大連　迹田　敏
ルンペンが賣りつけに來る福の神
引き當てる氣福引の桐箪笥　大連　高山　今治
お多福はみにくい顔で悦ばれ
店先きで福助膝が痛くなり　旅順　猪俣　辰雄
我ものにしてお多福も良い女
萬福を祈るも賀狀初日から　大連　酒井　慶聲
幸福に醉つたホネームーンの蔭がよれ
福壽草ちと遠慮した花が咲き　大連　池田　青甫
鄙の娘に幸福そうな旅役者　鐵嶺　小川　柳風
爆笑の渦に福引素戻りし　大連　加藤比良松
お多福の鼻に困つた美容院　大連　鈴木　石陽
年一度幸福に醉ふ今朝の屠蘇　大連　海老　水母
福引になつて末座の氣が直り
子福者に今日の日がある育て甲斐　大連　石田　陽平
福ばかり背負つて疲れぬ福祿壽
在福へやはり壽命といふがあり　青島　正木　琴舟
大黒を祭つて福の來るを待ち
子福者にして年年の生活苦　大連　岡崎　骨保
ルンペンの福を促へた夢に明け
福相にされてモダンの年はふけ　大連　文　甲
國の恩皆な幸福に醉ふた顔　大連　上河邊よし坊
幸福を願ふお屠蘇の初の膳　旅順　吉川酔咲丸
福引へ運の弱いが付け句なり
名ばかりの福字へ祝ふ苦力小屋　大連　弓澤若葉冠
幸福が包めず娘たゞ笑ひ
默々とたゞ貧乏に子の寶　大連　岩見　雅人
子福者に雑煮の膳が一つ殖え　大連　中川　虚舟

福助も一度にまじる猿芝居
一人者福神漬で松の内　長春　宮本　素空
福の神並べて店の寂れ方
赤貧に馴れて子福者よく育て　大連　永島　淑朗
福相と言はれて相好くずし　大連　上河邊紫涙
福神を是非招じたい宮詣り　大連　渡邊　雨明
福壽草土から首を出して春
賞品をさられて寒い福引所　旅順　高橋　ソ六
福引がもたらす春の運だめし
幸福を神へ願ふて廻れ右　大連　伊藤　駒次
二人名で幸福そうな賀狀も來
突ッ張つた顔へ福券白紙なり　大連　大河平蛙洒
福引デー髪がかついだ笹帯
背中から錢を引こうと子はわめき　大連　桐生　孔二
福引の箪笥を娘見て歸り
四十年來ぬ福待ちて餅をつき　大連　赤井　一村
幸福を祈つて歸る嫁の親
大福帳横に戀つて出納簿　旅順　岡野　榮丸
福引の米一俵に迷はされ　大連　寺山青々庵
福相に肥つて血壓氣にかゝり
裕福に見せて窮境うまく抜け　貔子窩　野田杏樹房
幸福の割當てへ來る初詣で　大連　兒玉　凡稚
腕白の戰死を子福者は誇り　大連　藤富　淀月
裏長屋ながら揃ふて居る福茶　旅順　上倉　泥柳
福引があたりそうな氣子にひかせ
寢て福を待つ修業の今日も暮れ　大連　山元　不動
なけなしの金福運へ山をかけ　大連　稲岡　雨蛟
滿洲の鬼は目張りが邪魔になり
名を聞くと福造といふ乞食の子　大連　芳村　紅吉
大黒は福を背負つて米に乗り
初夢に福が舞込むお目出度さ　大連　津田　薫
福引へ娘みんなにひやかされ　大連　新名　臥龍
支拂ひが濟んでアイスも福々し　大連　小谷　一狂
幸福の蔭に知られぬ涙あり　大連　廣瀬　可恒
今年も福茶に終る大晦日

〇〇

一等を取る氣福引ひいて見る　青島　正木　琴舟
　大連　兒玉　凡稚
暴騰へ今日の社長の福々し　旅順　高橋　ソ六
福茶など飲んで老いこむ豆を撒き　大連　鶴家宵雨子
福引へちがつた慾の顔が寄り　長春　宮本　素空
福引の富を妙齢持てあまし　大連　大河平蛙洒
幸福な便りで母は眼をこすり　大連　稲岡　雨蛟
福相と申上げさく肥滿症　大連　桐生　孔二
美人てふ武器で彼女の幸福さ

十客

旅順市外田家屯　上倉　泥柳
福引券たつた一枚へ混ぜ返し　大連市大和町二六　池田　青甫
大連市黄金町五一　迹田　敏
幸福は三度の飯を待ち兼ねる　奉天　矮　繪夢
福運が廻れ右した抽籤器　大連市大和町二六　水島　淑朗
ボーナス日幸福そうな妻を見る　旅順市磐手町二　岡野　榮丸
お多福の女房迎へて樂に生き　大連市錦町七ノ六　藤富　淀月
沈倫の底福音を聽えて居す　大連市眞金町八六　渡邊　雨明
盛裝へ身の幸福を下に向き　大連市對馬町　高山　今治
福袋小さな情を封じ込み　大連市霞町十四丁目四七　海老　水母
幸福の中に育つた日の丸み

入賞句

大連郵便局郵便課

人　伊藤駒次
口と目を龍き違へてる福笑ひ　大連市丹後町七番地

地　寺山青々庵
福音のこぼれ集まる慈善鍋　大連市沙河口十三丁目南三四

天　市村喜一
七福は初日に笑ふ皺を増し

滿洲日報

其の一

竹の園生の御榮
眞に御目出たく拜し奉る

陽光輝かしく明くれば方にこれ昭和七年の新春、天皇陛下には寶算三十二、皇后陛下には玉齢三十、皇太后陛下には恰も中歳御生誕の御年四十九歳、また照宮さまには御八歳、孝宮さまには御四歳、順宮さまには御二歳、澄宮殿下には御十八歳、なほ秩父宮殿下には御三十一歳、同妃殿下には御二十四歳、高松宮殿下には御二十八歳、同妃殿下には御二十二歳、その他各宮樣方にも御機嫌麗しく新春を迎へさせられ、竹の園生の御榮え眞に目出度く拜し奉る。

畏し、時局を御軫念
聖上晝夜政務を御親裁遊ばさる

天皇陛下には御規律正しき御日常と適當の御運動とに相俟つて益々御健かに、昨年は大分御肥りになられた御模樣に拜す。御多端なる御政務をはじめ、毎日の御進講、時々催される木曜日の特別御進講、土曜日の生物學御研究に、目まぐるしいまでに御いそしみあらせらるゝことは既に拜承する所であるが、昨年九月突如として起つた滿洲事變に際しては、側近者が御案じ申上ぐるほどの御精勵さであつた。政務の御親裁は午前十一時と午後五時の二回に定められてゐるが、これは勿論御平常の事で、滿洲事變起つて以來は、早朝から深夜に亘り午後二時から四時の間に行はれる御運動も廢されることすらあらせられた、事變の經過は毎日侍從武官府から書類を以て捧呈する外、首相、陸相、參謀總長等が臨時參内して奏上、陛下には深甚なる御心を寄せられ絶えず事變の經過を御軫念あらせられ、昨年十月には川岸侍從武官を現地に差遣はされて、出動部隊の活動狀況を視察せしめられ、なほ御慰問の爲め將士に恩賜の煙草、酒肴料等を傳達せしめられたるなど聖慮を勞し給ふことは畏き極みである。滿洲事變には皇后陛下におかせられても出動將兵の辛苦を痛く御憂念遊ばされ、十月、十一月、十二月の三回に亘つて御手製の繃帶を負傷兵に賜はり、更に十二月には皇太后陛下と御共同で酷寒の折柄とて出動全將兵に眞綿を賜はつた。

大演習と地方行幸

陸軍特別大演習と地方行幸は、天皇陛下の重大なる御軍務の御一端で、昨年は十一月遠く肥筑の野に鑾旗を進められて、親しく御統監遊ばされたが、本年も十一月の大演習に御統監の爲め行幸あらせらるゝ由に拜承する、地方行幸は昨年四、五月の候山陰地方に聖駕を進めらるゝやの御内儀もあつたが、農村疲弊の折柄とて、畏くも農村の窮狀を思召されて御取止めとなり、大演習後引續いて熊本縣下並に鹿兒島縣下を四日間に亘つて縣治、教育、産業等の狀態を親しく御視察遊ばされた。本年は四、五月の候、宮中に差支へない限り地方に鳳輦を進めさせられ親しく民情をみそなはせらるゝやに洩れ承はる。

皇后陛下の御慈愛深く在さるゝこと申し上ぐる迄もなく、特に今回の滿洲事變においても拜する通りであるが、大奥におかせられては御母性愛いと御深く、内親王さまは御誕生以來すべて御膝下において御養育、順宮さまは目下御乳兒の御事とて晝間は陛下御親ら御授乳、夜間のみ乳人が奉仕してゐる、なほ常に政務に御繁忙の天皇陛下に御優しく御仕へ遊ばされ、婦徳の範を示され、午後の御運動の時間には陛下のゴルフの御相手などを遊ばさるゝ御趣きに拜承する。

凶作地方へは侍從御差遣

更に天皇、皇后兩陛下におかせられては昨年の北海道並に青森縣下の凶作による窮狀を聞召されていたく御軫念あらせられ、舊臘七日黒田侍從を御差遣あらせられ御救恤のため金一封御下賜の御沙汰があつた、同侍從は青森に赴き同地方を約四日間視察の上、更に北海道に渡り狀況を詳細に視察の上歸京、天皇陛下に御復命申上げたが、御救恤金は同侍從より青森縣廳並に北海道廳においてそれぞれ知事長官に傳達されたので、同地方民は畏き思召を拜し何れも感激に咽んだ。

照宮内親王
學習院に御入學

照宮さまには一昨年六月以來、女子學習院幼稚園の園兒十八名と御共に、新宿御苑又は赤坂離宮にて、幼稚園の御課程をお修め遊ばされるが、本年四月を以て御學齡の御八歳に達せさせられるので、いよいよ四月から女子學習院に御入學になり、專ら御學業にいそしませらるゝこととなつたので、兩陛下の長き御心遊びからこの御入學を期に、殿下には御兩親陛下の御膝下を離れさせられて御別居遊ばさるゝこととなり、その御殿を目下宮城内舊御本丸跡に御造營中である。三月迄には完成の豫定であるから、殿下には學習院御入學前に御移りの御手筈であつて、この御殿は「皇子御學修所」と申上げて將來は孝宮、順宮兩内親王殿下にも御移りの趣きである。

皇太后陛下の御日常

皇太后陛下がひたすら先帝御追福の爲め、靜かな御日常を過ごさせ給ふことは、既に民人の尊き範と仰ぎ奉る所であるが、陛下には先帝御不例の際親しく御看護に盡され、一方神宮、山陵等に御平癒の御祈願をかけさせられたので、その御禮參りを昨年遊ばされたき御内意を側近者に御洩らし遊ばされた趣きに承はるが、深刻なる社會不況のさ中天皇陛下にも地方行幸をお取止め遊ばさるゝが如き折からとて、陛下の行啓も御沙汰止みとなつたが、或は本年御實行遊ばさるゝやに承はる、なほ陛下には先帝御追福の思召から、世に最も悲慘な境遇にある癩病患者根絶の長き思召から、さきに國、官立の癩療養所並にその職員に對して莫大なる御下賜金のあつた事は周く知る所で國を擧げて感激した所であるが、更に同陛下は皇后陛下と共に滿洲出動兵士に防寒の眞綿を賜はりて御慰問遊ばされた。

澄宮殿下は
士官學校御入學

澄宮殿下には來る三月目出度く學習院四年を御修了、四月からは陸軍士官學校豫科に御入學遊ばされる筈であるが、將來は騎兵科を御志望の趣きで、隨つて非常に馬術に御堪能であらせられる。

兩皇弟殿下の御精勵

陸の秩父宮、海の高松宮として兩陛下の御羽翼にあらせらるゝ兩皇弟殿下には、皇族方の中でもその御徳高き範を示され、軍務に御精勵遊ばされるが、秩父宮殿下には昨年十一月、三年間の陸軍大學生活を終へさせられて麻布三聯隊に御歸隊、目下は一大尉として御六中隊長の職にあらせらる。高松宮殿下にも大尉に在はし舊臘海軍の大異動によつて軍令部出仕から海軍砲術學校高等科學生を仰付けられた。

御寫眞 上段——聖上陛下(中央)皇后陛下(右)皇太后陛下(左)中段——順宮厚子内親王殿下(右)秩父宮殿下(左)秩父宮妃殿下(中央)下段右から高松宮同妃兩殿下、照宮成子内親王殿下、孝宮和子内親王殿下、澄宮殿下

新年の辭

茲に昭和七年の元旦を迎へて吾人の感懷は實に少くない。凡そ國として最も望ましい姿は、上に英明仁慈の君主いまし、下に忠誠賢良の臣子あり、相輯睦して國運の伸張を期するにある。今の日本の大勢は正にそれだ。就中吾人海外に生を營むもの常時念とする所は、祖國の推移變遷である。人情は父母を念ふより親しきはなく、鄕思は宗家を愛するより切なるはない。吾人の父母たる　今上兩陛下、玉體益々康健に、宗家たる皇室、愈々御繁榮に沸らせ給ふ。今や新春の佳節に當り、高嶺に登つて炊煙の盛なるを望み、玉簾を揭げて民人の疾苦を察し給ふ時吾人の先づ喜びに堪へぬのは、一にこの帝家の惠澤である。

唯夫れ昭和六年度は國政上實に多事多端であつた。而してそれに引き續く七年度は、更に大なる問題に直面して居る。内にあつては産業振興の國是を確立し、外に向つては東洋平和の大業を完成せねばならぬ。歐洲大戰後の世界は、爾來十餘年間を波瀾重疊の裡に送迎した。切言すれば國際平和の支柱を失ひ、人類擧つて疑惑不安の淵に呻吟して居る。之が爲に幾度か平和會議は召集され、幾度か新經濟策は討議されたが、隨つて出づれば隨つて紛糾し、就中亞細亞の過半を占むる東洋大陸は、亂離混沌、益々闇るべき禍源を、深且つ廣ならしめた。

かくの如きは獨り亞細亞民族のみならず、實に世界全民族の不幸である。隨つてこの世界の不安を除去せんと欲せば、先づ東洋の現狀を匡救せねばならぬ。東洋の現狀を匡救せんと欲せば勢ひ支那大陸の動搖を鎭定してその波及する諸弊を掃蕩せねばならぬ。日本が最近手を滿蒙問題の解決に染めたのは、この必至的機勢に發憤して、全支那の自覺を喚起せんと欲する當然の歸結だ。萬國無比の國體を有する日本が、上下一致協力して、進んで東洋民族平和の支柱となり、延いて世界平和の新基礎樹立に貢獻せんとする、決して偶然でない。昭和維新の洪業は實に此一點にあることを、この新年の第一日に於いて吾人は主張する。

日支問題を一切解決
東洋永遠の平和確立
内閣總理大臣　犬養　毅

茲に昭和七年の新春を迎へるに當り謹みて聖壽の萬歳を祝し奉り、併せて七千萬同胞諸君に賀意を表すると同時にこの機會において聊か所懷の一端を述べ國民諸君の御贊同を得たいと思ふ。

先づ第一に御覺悟を願はなければならぬことは、日支紛爭問題であつて、之はこの機會において是非とも解決しなければならぬ、日本は何故にロシアと斷交したか、何故同胞十萬の血を犧牲にして二十億の巨費を抛つて惜まなかつたか、之は全く東洋永遠の平和を確保し、延いては世界人類の文化に貢獻するところあらんとする崇高の信念に基いたものである、幸ひに當地の支那の政治家も日本の眞意を諒解し幾多の條約は双方に善意の下に締結せられ、爾來滿蒙の地は日に月に開發せられ、日露戰爭前には僅かに九百萬人であつた同地方の人口は四分一世紀後の今日においては既に三千萬を突破するの盛況を呈するに至つた、これ實にわが日本民族の努力の賜ものといはればならぬ。

然も日本は之れに滿足するものではない、更に益々進んで及ぶ限りの力を傾注し人類文化のために滿蒙開發に努力しつゝあるに對し、近來支那政治家は日本の眞意を解せず、盛に大衆を煽動して排日運動を行ひ、條約を無視し或は破棄せんと企てるに至つた。

斯くの如く彼等の態度は世界人類に對する背徳である、殊にわが日本民族にとりては、實に生命に對する脅威である、故に昭和三年五月時の政府田中内閣は、滿蒙の治安に關して聲明書を發し同地方の治安を攪亂若しくはこれを紊るの原因をなすが如き事態の發生は帝國政府の極力阻止せんとする旨を力說して、これを支那政府に交附した、然るに彼等はなほ悟らず遂に今回の如き事態の勃發を餘儀なくせしむるに至つたのは寔に遺憾千萬である、若し此機會において日支紛爭問題の一部を解決しなければ、東亞の地は永久に不安に曝らされ、わが民族は遂に大陸から退却するの餘儀なき運命に陷るかも知れぬ、これは斷じて忍び得べきことではない、吾々は如何なる困難をも突破して斷々乎として一路根本解決に向つて進む覺悟を持たればならぬ、次に經濟問題についても吾々には既に與黨の政務調査會において決定したるもあつて大體對策方針は立つて居るが、なほ當面の問題については折角當局において研究し着々實行に誤りなきを期して居る次第である、終りに臨み國民諸君は年の新なると共に更に心を新にし國家のため盡瘁せられんことを切望に堪へませぬ。

支那福祉增進に
全幅の同情と支持
外務大臣　犬養　毅

昭和七年の新春を迎へるに當つてわが國際關係を大觀するに、對支關係においても亦對世界一般關係においても亦極めて多事である、先づ對支關係を見るに、極東の平和を確保し日支共榮の實を擧ぐることは明治以來わが傳統的國策であつて、今日においても何等變るところがない。

滿洲事變のわが對策も亦一に右國策に依據するものである、滿蒙は嘗て我國がその興亡を賭して凡ゆる犧牲を忍んでロシアの極東侵略を擊破して以來、門戸開放、機會均等の原則の下に内外人安住の樂土たらしめんことを要望してわが官民力を盡して其平和的解決に從事し支那軍閥私鬪の波及を阻止し來つたのであつて、わが國防上並に國民的生存上重大至上の利害關係を有するのである。

從つて若し此歴史と此現實を無視してわが滿蒙權益を蹂躙し治安を紊す者あらば、其何者たるを問はずこれを排除し以て滿洲が内外人安住發展の地として保持せられるやう必要なる措置を執るべきはいふ迄もないのである、又支那本土においてもわが通商貿易が暴力により阻害され或はわが居留民地に重大なる被害が及び、斯くの如き事態に對しては之を遂せず有效なる手段を以てわが權益の擁護に當るべき事亦當然である、現在の支那が國内の軍閥政治家、共産主義者其他の不正分子に依つて禍ひせられ漸次無政府狀態に陷り、又國家としての實質形體を共に失ひつゝある事實は、啻に支那民衆のため絶大なる悲慘事であるのみならず善隣のわが國にとつても亦極めて不幸である。

若し支那における穩健分子が同國民衆を極度に苦めつゝある封建的諸軍閥、共匪其他の破壞分子を排除し、民衆の疾苦を救濟するとともに勤勉なる民衆の努力を啻に彼等自身の幸福のためのみならず延いては人類一般の福祉增進のため建設的方面に向はしむるに至らば、我國としても此種運動には全幅の同情と支持とを與ふべき事勿論である。

之を要するに我國は極東の平和を攪亂する支那軍閥が其不正分子の挑戰的行動に對しては自衛的見地より飽く迄之を排除すると同時に他方支那官民にして自ら國内を廓清し且つ日支共榮の本義を重んじ極東の平和と繁榮とに貢獻せんとする者に對しては、協力提攜して相互の福祉增進を圖らんとするものである。

次に支那以外の諸國との關係如何を見るに大體において滿足なる狀態にある、滿洲事變勃發の際は歐米諸國中多少誤解を抱く向きもあつたが、其後事狀判明に伴ひ漸次わが公正なる立場を認識するに至つて居る、近く支那に派遣さるべき國際聯盟委員の調査は支那の實狀に關する歐米の認識を助成するに役立つべきものあると同時に、延いて支那を無政府狀態より救ひ建設的方面に資する處あらば幸ひである、又我國は世界各國を擧げて苦みつゝある經濟不況打開のためには進んで國際協力をなすに吝かなるものではない。

殊に明春開催せらるゝ軍縮會議には有力なる全權團を派遣して、その事業に協力する事になつて居る、先年の華府及びロンドン海軍會議における如く、我國が人類の平和と繁榮とに貢獻し居ることはわが國民の喜びである、昭和七年のわが國際關係は斯くの如く多事なる時局に際會してわが國運を擁護伸長すべき責務を有する吾國民は擧國一致なほ一層の緊張と努力とを有することは一般の等しく痛感する處であつて、吾等一致の協力により此一年が我が國運隆興の歴史に貢獻することゝならんことを諸君と共に切望するものである。

國民の努力により
所謂「陽春布德澤」へ
大藏大臣　高橋是清

昭和七年の新春を迎ふるに際り年頭の所感として一言致します。所謂世界の不況は一面において歐洲戰後世界各國における生産技術の一大進歩に因び、殊に工業品農産物等の生産額は非常に增加するに至つた、然るに其反面に於て數年の間世界各國は競つて金本位制復活に力むると同時に、デフレーシヨン政策を遂行したるが爲め、購買力の增大したる物資の供給と、之に對應すべき購買力との間に權衡を失し、爲めに物價の激落を來し、所る生産事業は非常の窮境に陷り、失業者續出して遂に世界を通じ收拾すべからざる狀況に陷つたのである。勿論我國の經濟界も此の影響を脱することが出來ず、經濟界の不況は日に月に深刻を加へ、何種の事業を營む者も其生産費さへ償ふ能はず、作れば損、賣れば又損といふ有樣であつた、斯の如き狀勢では國民經濟の發展は得て望むべからざるのみならず、國家社會の前途實に寒心に堪へざる所であります。凡そ正しく働く人々に對し正しき報酬の保障せらるゝやうな世相を作り出すことが政治經濟上最も肝要であると思ふのであります。

現内閣は組閣と同時に金の輸出を禁止したのであるが、之は一昨年の金解禁後豫想外に多額なる正貨の流出あり、殊に昨秋イギリスの兌換停止以來其勢急激を告ぐるに至りましたが、前内閣においては極力既定の方針を繼續せんと努めたる結果、我國の金利は愈々高騰し金融梗塞して産業界の壓迫は一層甚だしきに至るべきは明かであり、此上國民に大なる苦痛を強ふるは斷じて不可なるのみならず金兌換制度を維持せんが爲めあらゆる一切の犧牲を國民に忍ばしめんとするは本末を顛倒するものであります、加之如何に努力を續くるとも内外の大勢は金輸出禁止必須の情勢に在ることは明かなりたるを以て政府は現下の國民經濟對策として最も肝要妥當の處置なりと信じ禁止を斷行したのであります。

世間には金輸出をただに禁止すれば、直に好景氣到來するもの、と速斷せるもの無きに非ずと雖も左樣に簡單には參りません、成る程之がために爲替は低落し對内的には物價昻騰し對外的には却つて低落するを以て國内産業を刺戟し、外國貿易の上にも好果を齎すもの、如くなるも、國民が今後緊張したる精神を以て諸般事に當るに非ざれば將來の好結果は俄に到來するものではない、殊に一時の反動景氣に醉ふが如きは最も禁物とせねばならぬ所であつて、飽くまで着實穩健なる方針を以て事に當らねばならないと思ふ、卽ち今後は漸次働く者が働き易き時代に移ることゝせねば成らぬ、それには人々の働きを尊重せねばならぬ、是れ經濟發展の第一條件である。しかしながら折角のその働きを浪費せざること卽ち無駄を省くといふ事も亦國民の充分注意を拂はねばならぬ點であると思ふ。

之を要するに昨年末に至るまでの我經濟界は古人が曾て四時零落三分減、萬物蹉跌過半凋、と詠じたる如き有樣であつた、今や年の新たなると共に所謂陽春布德澤といふ風に進めたいと思ふ、而して果して左樣に進むや否やは國民諸君の覺悟の如何に由るのである。

滿洲問題を解決
國運進展に寄與
拓務大臣　秦　豐助

昭和七年の新春を迎ふるに際し一言所懷を述べて年頭の辭とする、不肖測らずも拓務大臣に任ぜられ拓務行政統理の任に當ることゝなつたのであるが、國家多事の際この重責を擔ひ只管赤誠を以て任に當り大いに拓務行政の實を擧げ以て輔弼の任を謬らざらむことを深く期する次第である。

昭和四年六月拓務省の設置を見たのは時運の進展と共に拓務行政を等閑に附し得ざる事情が朝野に痛感せられた結果であつて國策遂行上寔に適當の施設といふべきである。

然るに設置後僅か二年有半にして前内閣時代に行政整理の犧牲に擧げられ廢止せられんとするに至つたとは甚だ遺憾に堪へぬことであつた、斯の如きは正に時勢を察せず拓務省の本來の使命を解せざるより出でたるものであつて甚だ當を缺くものといふほかないのである。

我國の現狀を見るに内外多事多難であつて無爲消極徒らに座して環境の好轉を俟望し得ざる事情となり、茲に政局の變轉を見た次第であるが、新内閣組織と共に拓務省の存續を確定し、拓務行政の中樞機關としてその機能を發揮せしむることになつたのである。

朝鮮、臺灣、關東州、樺太及び南洋群島の統治に關する事務は年と共に重要性を加へることは明かであり、又滿鐵、東拓の業務の監督に關する事務は益々複雜となつて行くのであるが、更に又遠く南洋南米における移植民及び海外拓殖事業に關しては新政綱の下において海外進出の急務が更に強く提唱せらるべきは火を見るよりも明であらう。

斯の如く拓務省の主管事務は將來益々複雜に且重要となるべきであると信ずるのであるが、更生の拓務省として直面善處する最も重要なる事務は刻下の大問題たる滿洲問題に外ならない。

朝鮮總督府及關東廳に關する事務を統理し、南滿洲鐵道株式會社の業務を監督する等の重責を擔ふ當省として滿洲における治安維持の問題、鐵道、通信、通貨、金融其他の産業問題、在滿鮮人問題等に關しては今回の難局的事變と共に將來の根本方針確立に關し多方面と十分連絡を保ち愼重に考慮し速かに處理し國運の進展に寄與すべき重大使命を有するのである。

回顧すれば昭和六年はまことに多事多難な年であつたが今昭和七年も亦益々多事な年であらう。自分はこの年頭に際し更生の拓務省が大いにその機能を發揮して拓務行政の實を擧げその重責を果すに遺憾なからむことを切望して已まぬ次第である。

謹賀新年

滿洲日報社

社員一同

錦州正規軍の撤退に 別働隊義勇軍が激昂
南京政府錦州死守を嚴命

【天津特電三十一日發】日本軍の進撃を目前にして錦州正規軍は續々撤退を開始し、後は別働隊、義勇軍をして死守せしめんとしてゐるので別働隊、義勇軍は大いに激昂し、全國に飛電を發し中央軍の錦州增援方を急報し**關外の支那軍は全く混亂に陷り、**南京政府よりは學良に宛て錦州を死守すべしとの嚴命來り學良も對內的に事態の重大化を慮り未だ撤退作業に移らない、錦州部隊は錦州に踏止まる可しとの命令を發し事態の緩和に努めてゐる、因に**榮臻は昨夜錦州に到着**之が指揮に當つてゐる

月の休日を取止めて、國難に善處すべき旨を從業員に布告した

錦州軍の退却困難 混亂のため或は全滅か

【天津三十一日發】今朝までに山海關を通過して灤州に向つた錦州軍は第十二旅六千名に達し、砲兵第四旅も撤退を開始した、右は昌黎まで引揚げる筈、溝幇子は既に陷落し、日本軍飛行機は錦州に現はれたため、六個旅約七萬に達する大錦州軍の撤退困難を極め、大混亂を來し、全滅するやもはかられない

錦州城內で掠奪 逃亡兵の暴虐ぶり

【天津三十一日發】錦州よりの避難民の談によれば前線よりの死傷者續々後送され又錦州軍中には逃亡兵多く城內外において民家を掠奪し來たりその亂暴ぶりは言語に盡されぬと

列國を欺瞞する 學良の奸策 義勇隊編成の目的

張學良は日本軍の攻擊に關し、側近に對し左の如き言葉を洩らしてゐる

自分（學良）は最近錦州遼防署あて訓令して曰く、當方において義勇隊を編成以來、遼寧省內においても既にその數十數萬を突破し內兵器を有するもの六萬餘、その隊長はいづれも曾て軍事訓練を受けたるものなり、義勇隊は隨時各所に出沒し、失地を恢復するを得ん、二十八日自分は義勇隊に對し攻擊開始を訓令した

學良が國際關係を顧慮して、斯の如き惡辣手段を以て外觀の目を晦まし、わが後方攻擊を命令しつゝあることは人道上、斷じて許すべからざることである【奉天電話】

北寧線の死守嚴命

【天津三十一日發】張學良は王樹常に對し、北寧線は北支那の死活を制する生命線なるを以て一層裝甲車を增加して、その保護に當るべし、その結果に對しては、王樹常に絕對責任を歸する旨を命令した、なほ北寧鐵路局長高紀毅は正

錦州の重要職員引揚

【天津三十一日發】錦州軍の一部灤州に撤退すると共に東北邊防司令長官公署並に重要職員は今朝錦州發灤州に引揚げた

南京政府狼狽

【南京三十日發】今朝一時から學良軍關內撤退を開始すとの報當地に達したるため政府要人は極度に狼狽してゐる、新政府未だ正式に成立せず責任者なきため中央常務委員は正午より緊急會議を開いた結果、取敢ず學良に飽くまで錦州を死守せよと電命すると共に撤退顚末の詳細報告方を命令した、多數要人は今更ながら學良の無能を

天津英軍 唐山に配兵

【天津三十日發】當地の英軍は錦州軍の撤退に伴ふ唐山方面における同國の權益擁護の爲め一月二日唐山に配兵することゝなり本日午後北寧線鐵路局に對し列車の準備

憤慨し山西軍の增援說有力となつたため目下蔣介石と閻錫山の意見を無電で聽取しつゝあり

馮汪兩氏會見

【上海三十一日發】馮玉祥氏は部下と共に三十日午後四時五十分列車で南京より來滬、直に佛租界に病氣療養中の汪精衛氏を訪問會談一時間餘に亘つたが、右會見後馮氏は語る

奉化へ行くかどうか又何時行くかは未定だ、汪との會見では僅に時候の挨拶をした程度であつたが、汪は不日赴京する旨を表示した

何應欽氏は蔣氏と同時に胡漢民氏に極力出馬を希望して居り必要があれば廣東へ赴いてこれを慫慂すると

兵匪打虎山で掠奪

飛行偵察機の確むるところによれば打虎山に居りし兵匪は三十日午後三時、退却に當り同地を掠奪した【奉天電話】

青堆子鐵橋を敵軍破壞

三十一日早朝打虎山を發せるわが〇〇旅團先發進隊主力は溝幇子に向ひ進擊中のところ青堆子附近鐵道破壞されあるため一時前進を阻止された【奉天電話】

田庄臺一帶の匪賊 漸次兵力增加
我軍徹底的に討伐

田庄臺一帶における匪賊は愈々兵力を增加し折角わが軍に依つて治安が維持されたあとを攪亂し住民の平和な生活を脅かしてゐるのでわが軍では近く大々的討伐を決行する筈である【營口電話】

盤山方面の敵兵數

盤山方面における捕虜義勇軍第二路司令大青山の自白するところに依れば盤山戰參加の敵は孫德荃麾下の第十九路、步兵第六百五十四團に若干の騎兵を配屬したるもので二十九日溝幇子より相當數增援し來つたものであると【奉天電話】

岩本部隊昨曉溝幇子へ

大石橋守備隊岩本中尉の〇〇隊は卅一日午前四時三十六分發列車にて溝幇子に出動す【大石橋電話】

森重部隊鐵道守備

鳩便によれば大石橋守備隊森重中隊は三十一日盤山驛に到着、鐵道守備の任に就いた【大石橋電話】

我軍牛莊城に宿營

關東軍司令部發表＝三十日朝獨立守備隊步兵第〇大隊は牛莊及びその附近を掠奪中なる約二千の匪賊討伐に向つたが、匪賊は既に太子河及び遼河右岸地區に退却し大隊は午後一時牛莊に入城す、大隊の追擊部隊は午後三時牛莊北方約三里大家八子附近に在る匪兵數百の襲擊を受けたが之を西北方に擊退した、わが軍損害無し、敵の損害は相當ある見込み、なほ大隊は三十一日夜牛莊宿營し三十一日歸還した【奉天電話】

聯盟決議に違背せず マタン紙社說

【パリ三十日發】今朝のマタン紙は社說で日本軍の匪賊討伐動作は絕對に聯盟理事會の決議に一致したもので、該決議は日本軍憲が必要に應じ匪賊に對して警察的行動を繼續すべき事を承認してゐるのである、而して假令遼西の地より見るも日本當局の主張する處に充分の理由あるが觀取される事を論じてゐる

學良軍撤退により行動の擴大を防止
國際聯盟方面の希望

【ジュネーヴ三十日發】日本軍が漸次西進し錦州方面に接近しつゝありとの報道に國際聯盟方面では十二月十日の理事會の決議は明かに失敗に歸したことを認めざるを得なくなつたことを告白してゐるしかし張學良の關內に兵を撤退することに依つて戰爭行動の擴大を防止し得るだらうといつてゐる、尙聯盟本部では日本軍の今回の行動は支那調査委員が支那到着前の最後の行動たることを希望し、日本軍も調査委員の監視の下においては新な軍事行動を執るとはなからうと信じてゐる、一方聯盟理事會としても滿洲における日支兩軍の形勢が特別緊急の會議を必要とせざる限り一月廿五日の定期理事會以前に緊急會議を開くことはなからうと觀測されてゐる

大觀小觀

歲が改まる、昭和六年逝いて昭和七年來る▲除夜の鐘が殷々と鳴り響けばやがて朗かな黎明となる▲硝煙彈雨、空には飛行機・地には塹壕・血腥さい裡に歲を送つた滿蒙の天地にも新春は來る▲曉の鷄聲は一たい何を告げるか▲いはく「お芽出度う、いやお芽出度う、建設期の滿蒙！」▲舊東北軍閥の潰滅、馬賊兵匪の掃蕩、三千萬民衆多年の要望たる「滿蒙新國家」の形勢も遠からじ▲斯くて滿蒙の天地に漲る新興機運は今や脈々と波打つて居る▲東亞永遠平和建設の大業よ早く成れ！▲「初日の出待つ家々に鷄の聲」

善隣の實現を期す
奉天省長　臧式毅

元旦に當り一言所感を略述して祝辭に代へたい、中日兩國は境を隣し同文同種にして夙に兄弟の關係にある、今回の事變により雨降つて地固まるで心機一轉、兄弟の實を擧るには絕好なる天與の機會である、卽ち新年元旦より中日有志の士、相提携し共存共榮と共親善隣の實現を謀り以て兩國民多年の希望を達成し、東亞民族固有の光榮を發揮せんこと切望に堪へない、余もと淺學菲才なりと雖も、この目的完成の爲め身命を賭して盡す所あらんとす、希くば一層の助力鞭撻を賜はらんことを卽ち玆に年頭の感想を陳べ併せて滿洲日報の進展を禱る

前途無量
臧式毅

王道主義によつて自治の基礎を確立
奉天省自治指導部々長　于冲漢

一、人民をして自治の精神を喚起せしめんとせば、爲政者は善政善法を以て目標とし人民をして自治の實利を受けしむるを要す、なほ政治は地方の習慣と風俗、人情を尊重するを要す

二、自治の規則及法令は簡單、明瞭なるべく而も順序整然人民を善導し弊害を防止すべし、南京政府の法令は牛毛の如く縣政府より區、村、人民に至る間は之を實施する暇がないため人民は誰しも法令を顧みない、地方の實情を察せず、只空遠新奇な論調をなすは紙上談兵といふべく何の益もなく今日に至つても人民は一笑に附してゐる

三、東三省の自治は軍事の影響を受けて施行されざりしが、今や軍閥滅亡したれば從來の東三省自治精神を復活し空論に走らず人民の組織を增進すべし

四、自治の事は人民自身之を運用すべく自治指導部は之を援助又は善導するにあり、官吏に失態あれば之を彈劾し、官吏の行動を監視し自治の精神を喚起すべし、徒らに何事にも干涉せば變態的官治に成つて人民が却て奮威を感じ百害あつて一益なし

五、自治は恐らく漸進主義に依つて進むを得策とす

六、自治は凡て選擧制に依つて發達すべく政黨政治も亦三省には適合しない

七、東三省に安樂な國土を造成するには所謂法とか律とか條令とかいふものに依て拘束するべからず、王道主義に依て人民をして朝に起き夕に息み井を掘つて水を飮み田を耕して食ひ自然に國家の規則を守らすやう善導すべく斯くて東三省は安樂土となるべし

八、この萬事刷新の際に當り人民をして衣食住に不足なからしめん事が最も緊要とす財富が少數の人の獨占に歸する時天下は平かならざるべし、自治の根本基礎は衣食住の平等分配にあり

鐵道網を完備し經濟發展に努力
東北交通委員會々長　丁鑑修

壬申の歲を迎へるに當り玆に一言所感を述べたいと思ふ、滿洲事變勃發に當り奉天の治安亂るゝや、余は袁金鎧氏を首班とする地方維持委員會に參畫してその末席を汚し、次いで十月一日東北交通委員會の設立を見るや、推されて會長の重任に就いた、東北省民にとり政治的經濟的に**大變動を**與へた辛未の歲は去り、今や新春を迎へて奉天の治安は完全に維持され、金融は圓滑に滿洲が再び舊狀以上に活氣を呈し來つた、新春を迎ふるに當り九月以來繁忙と焦慮に小暇も得ず過ごし來つた余としては誠に喜びに堪へぬものがある、治安維持を見た今日において、緊急缺く可らざるものは東北省の經濟的發展である、凡そ經濟發展の動脈を爲すものは、これ交通である、卽ち鐵道の完備である、東北交通委員會はこの趣旨に基き從來徒らに滿鐵との競爭とか、貨物の奪取戰とかの日支間における感情的紛爭を避け飽くまで日支の協力卽ちわが東北發展のため日支協力して**鐵道政策**の完璧を圖り、以て東北の產業を起し以て支那民衆の利便と、東北の經濟的發展を策すべく、設立されたもので不肖その會長に据ゑられた譯である、日本軍の援助と支那側の保安隊に依り、東北の治安は全く回復した今日、東北は凡ゆる方面において建設時期に直面してゐる、殊にその經濟的建設は東北民衆三千萬の痛切に要望してゐる點であり、又吾人が爲すべき緊急事である、新春に當り余は經濟的建設の原動力を爲す東北鐵道の完備に微力を注ぎ、以て東北の發展に貢獻する處ありたいと思ふ

余の理想
袁金鎧

一、滿洲は支那本土と隔絕し我彼を侵さゞるべし
一、滿洲は滿洲在住三千萬民衆の滿洲にして一部人士の橫奪を許さず
一、政治は王道主義に則り四海同胞均しく恩惠に浴せしむ
一、民をして衣食住に事缺かしめず民心をしてその嚮ふ所を知らしむ
一、警察制度を完成し治安を維持せしめ軍隊を絕對に養成せず

在滿同胞保護に萬全を期す
朝鮮總督　宇垣一成

新に昭和七年の春を迎へ謹みて聖壽の無疆を祈り皇運の隆昌を祝し奉る。

顧ふに余は昨夏就任の當初內外多事の秋に際し官民一致堅固なる決心と冷靜なる態度とを以て之に善處せられんことを要望いたしたのであつたが、爾來時局は愈々重大を加へ思想方面においても經濟方面においても混沌として其の趨く所端睨すべからざるものがある殊に我國經濟界は久しく持續せる世界的不況に苦難を感じ來つたが彼のドイツの經濟破綻、イギリスの經濟恐慌の影響として捲き起つた世界の大波瀾に因つて益々艱難を重ね遂に再び金の輸出を禁止し更に日本銀行券の兌換を停止するの已むなきに至つたから經濟產業方面に於て尙變動の續くことを覺悟しなければならない。

又去秋滿洲事變勃發し曩昔我國が二十萬の生靈と二十億の巨資とを以て獲得せる權益を擁護せんが爲、直接自衞行動に出づるの已むなきに至つたのであるが本事變については國民全般の熱烈なる支援の下に飽くまで確實なる效果を收めんことを期せなければならない殊に滿洲在住同胞の保護安定に關しては是非萬全の方策を講ずるやうに致したい、彼の國際聯盟を始め世界列國いづれも我國の特殊地位及自衞行動の正當なることを承認するに至つたのは固より當然のことである。

わが朝鮮に在りても一般經濟界變動の餘波として農村の疲弊、都市の沈衰は容易に恢復するに至らず、思想方面も亦未だ全く安定せりといひ得ざる狀況にあるに拘らず、幸ひに官民一般之が對策を講じ大體においてその向ふべき所に向つて一意邁進しつゝあることは大に意を强うする所である。

本府に於ても專らこの狀勢に鑑み各種農村對策、北鮮開發、金增產、失業防止並に社會教育等の計畫を樹立し之が實現を期すべく折角努力中である尙產業、交通、土木等從前の諸事業も財政の都合上若干整理緊縮を免れぬが、凡そ現時の時情に照し切要と認むるものは出來得る限り之が促進に努め極力强內一般の福利增進を圖らんとしつゝあるのである。

恰も時局重大の際に新年を迎ふるに當り余は又改めて擧國一致堅固なる決心を以て冷靜、沈着にこの難關を突破し國家萬年の長計に向つて深く强き努力を致されんことを望み殊に朝鮮における官民の一層緊密、平和幸福なる新境地を招かれんことを冀ふて已まない次第である。

賀正　旅順

旅順市青葉町四五 酒問屋 西本商店 西本勝衛 電話一八五番

旅順 潘修海

宏記精米工廠 電話六六二番 呉服店 電話三一八番

旅順市岩手町 農園經營 岡野商會 岡野榮次郎 電話二八〇番

高等理髮 中央館 旅順乃木町

旅順 結髮 東美容院

調髮 昭和軒

旅順市乃木町三丁目 製靴 トロンコ 澤豊太郎商店 電話五二〇番

旅順市八島町 井上釣具店 電話六〇四番

旅順市新市街松村町 御國タクシー 電話四七九番

◎マルミヤ舞樂部創立 樂器 蓄音器 和洋雜貨 マルミヤ商店 ◎旅順五景滿洲寫眞捌元 旅順市乃木町三丁目電話六六六番

電氣機械器具 旅順市乃木町 津田電機商會 電話四六四番

蓄音器 旅順市乃木町 櫻井時計店 電話一九五番

旅順市乃木町三ノ二〇 齋藤洋服店 電話六五六番

和洋諸雜貨 小間物毛糸類 旅順市乃木町 友田商店 電話四一六番

豆腐製造販賣 旅順市青葉町 釘島商店 電話一一六番

本店 旅順乃木町 電話四六七番 旅大定期貨物 引越荷造 自動車大六運送 支店 大連惠比須町停留所前電話七四六二番

明治製菓株式會社 京城菓子株式會社 新高製菓商會 特約店 卸問屋 山岸洋行 旅順市乃木町三丁目電話四五四番

陸海軍御用達 精肉 旅順市乃木町 金太屋 電話二七五番

紙、文具 糸小間物商 旅順市青葉町七二 鮎川商店 江里口吉太郎 電話二五四番

土木建築請負業 旅順市忠海町 磯谷捨吉 電話六〇六番

舊年中は格別の御愛顧を蒙り厚く御禮申上候 尚本年も倍舊の御引立奉希上候 陶磁器、家庭用金物 硝子器、世帶道具一式 旅順仙洞山燒發賣元 緒方商店 電話四二番

自轉車附屬品 修理販賣 富永商店 乃木町電話四〇一番

自轉車 附屬品其他 田村商會支店 乃木町電話五一〇番

各種銘茶 茶器類一式 丸山茶舖 乃木町二丁目電話一六八番

柏木鐵工所 柏木常三郎 朝日町電話一八三番

山下鐵工所 山下好太郎 西町三九電話五〇九番

酒王富久娘販賣元 入江商會 鯖江町五十番地電話一九〇番

銘酒菊正宗 櫻正宗 金水商會 乃木町電話一〇六番

銘酒霞鶴 釀造販賣 北川酒店 北川鶴之助 明治町五七ノ四電話四四七番

慶弔進物 各種記念品 大洋商會 乃木町電話五六五番

成松寫眞館 新市街松村町二一電話二五九番

ヒグチスタヂオ 大連連鎖街常盤町電話二二三〇番、 寫眞機械材料販賣 樋口寫眞館 青葉町四二電話四一七番

迅速叮嚀 齋藤寫眞館 中村町八番地電話六六三番

和洋雜貨 藤井洋品店 新市街松村町電話五七番

圓橋商會 西田泰助 乃木町二ノ一九電話一四〇番

陸海軍各官衙御用達、船具、金物 機械、綿糸布、タオル其他諸納入品一式 センターストーブ特約販賣店 岳南公司 乃木町三ノ六六電話三八二番

諸官衙御用達 久野商店 久野儀一 敦賀町電話一四九番

日米商會蓄音器部 新市街中村町電話六六四番

旅順機業社 サクラ印サイダー、シトロン製造所 那須梅吉 電話二一八番

諸官衙御用達食料品雜貨 齋藤商店 電話一七六番

乃木町三丁目 ゑびす屋呉服店 電話一三〇番

製靴革類 阪本洋行 敦賀町電話六三七番

表具商 原榮年堂 敦賀町電話五三三番

井町商店 朝日町魚市場電話三三二番

南滿公司 寫眞器械、材料藥品、寫眞撮影 旅順寫眞館 乃木町三丁目交番横電話四七二番 振替大連一八二九番

滿電驛前タクシー 電話五二三番

滿洲タクシー 旅順敦賀町（婦人病院前）電話二六二番

旅順タクシー 嚴島町電話五六〇番

食料雜貨 山口屋 山口清輔 市場內電話五四一番

深川齒科醫院 青葉町電話四七六番

近江屋呉服店 乃木町三丁目電話七九番

旅順質屋組合

宮澤疊店 宮澤猛雄 旅順市大津町一八電話四九二番

土木建築請負 和田武吉 旅順市乃木町二丁目電話五八八番

小野田セメント一手販賣店 鋼材金物 船具 村上信二商店 旅順市乃木町電話一〇二番

旅順飲食店組合

旅順菓子信用組合

電機販賣 修理釣具 金澤屋 涌波初三郎 旅順市乃木町（郵便局前）電話五〇八番

竹川支店 宮地梅治郎 旅順市乃木町三ノ六電話一九四番

土木建築請負 築島組 築島米藏 旅順市乃木町二丁目電話三九七番

豆腐製造 福島屋 赤坂惣太郎 旅順市鮫島町三三電話一五八番

左官 大谷守 旅順市名古屋町電話七五二番

和洋雜貨 ふたば屋 旅順市乃木町電話六一一番

土木建築請負業 森谷吉五郎 乃木町三ノ二八電話四八三番

銘酒神代釀造元 土木建築請負 神田酒店 神田小太郎 乃木町二丁目電話三二三番

土木建築請負業 川谷竹次郎 伊知地町三三電話四七三番

歐米諸雜貨 內地各新聞取次 外山洋行 旅順青葉町電話二四一番

土木建築請負 山村組 大津町 電話五八九番

土木建築請負業 久野順一 鮫島町一ノ七電話一五三番

土木建築請負業 前西熊市 大津町四一電話三四三番

疊製造 興石商店 興石久作 大津町一六電話三六〇番

裝飾煉瓦及煉瓦土管製造 小林治作 金比羅町八電話五二五番

西洋家具、室內裝飾品塗及黑板、諸雜貨商 諸官衙御用達 清水洋行 敦賀町五二電話六七五番

和洋家具、書畫骨董 二宮商店 忠海町二四電話四五三番

材木、建築材料 西野商行 乃木町電話六八番

諸官衙御用 山田活版所 山田杢次 乃木町電話五四番

土木建築請負 廣垣治助 忠海町電話三〇七番

書畫骨董、貴金屬賣買 石類、毛皮家具類 後藤勇太郎 末廣町一二電話四三九番

土木建築請負業 清住泰一 鯖江町一二電話五三四番

謹賀新年

小生儀從來喜野商會旅順支店の商號を以て營業罷在候處今般本田商會と改稱仕候間然樣御諒知被下度今後共一層御引立賜り候樣只管奉希上候 敬具

昭和七年一月一日 旅順市乃木町三丁目 本田商會 本田治三郎 （喜野商會旅順支店改稱） 電話二七七番、振替大連一五四九番

旅順料理店組合

旅順驛前 月見農園賣店 電話六二〇番、振替大連二七四一番 月見町 月見農園 富士町 養鷄場

りんご紅玉國光 生みたて玉子 生みたて鷄卵 ウヅラ粕漬卸小賣 內地沿線送荷造 手續一切無料

野間式ストーブ製造元 野間鐵工所 野間鷹一 乃木町電話一九七番

新鮮第一 旅順市乃木町 渡邊果物店

土木建築請負業 石井組 石井本一 旅順市名古屋町一九電一一三番

滿鐵石炭特約店 本溪湖煤鐵公司代理店 千代田生命保險相互會社代理店 朝鮮火災海上保險株式會社代理店 日本麥酒鑛泉株式會社特約店 海軍糧食品御用達 一般倉庫業 旅順倉庫經營 倉庫所在地朝日町一丁目 石炭商 矢幡商會 旅順市八島町（電三一一番） 出張所 滿鐵貯炭場構內 電話三〇六番

（いろは順） 鮫島町 稻富藥店 電話五八七番 乃木町 田中藥舖 電話三三六番 青葉町 萬代號藥房 電話四二八番 青葉町 宮竹藥店 電話一七〇番

トラスト製造元 タイハンストーブ販賣 旅順市金比羅町 石井榮一 電話三七番

石炭商 滿昌洋行 旅順市八島町 電話一六六番 貯炭場 電話一四七番

滿洲寫眞帖出版元 記念品卸商 東京堂 旅順乃木町三丁目電話六一番 大連連鎖商店街 電話二二一九五番

製鹽業 矢原商會 矢原重吉 旅順市嚴島町電話八一・四四六番

旅順金融俱樂部 朝鮮銀行旅順支店 正隆銀行旅順支店 旅順無盡會社 旅順輸入組合 キンユウクミアイ

滿洲乃華 高粱しるこ 加藤東金堂 出張所 旅順白玉山麓電話五三三番 大連市聖德街三丁目 電話九八三六番

土木建築業 本田組 本田與市 乃木町三丁目電話四一一番

旅順市外方家屯 林農園 山羊牧場 林源一郎

謹んで新春の御祝詞申上候 客年中は格別の御愛顧を蒙り難有御禮申上候 過去の業績に鑑み今後一層の努力を傾注可仕候間信舊の御引立御愛顧の程御願ひ申上候

食堂キムラ 浮田寅二郎 旅順市敦賀町角電話三〇五番

御旅館 寶來館 乃木町電話五六番

御旅館 防長館 青葉町電話二八二番

御旅館 旅順ホテル 青葉町電話三六七番

（いろは順） 岩崎洋服店 乃木町電話三六四番 井本洋服店 乃木町電話一五七番 高田洋服店 新市街大迫町電話二二七番 中山洋服店 乃木町電話三三九番 島村洋服店 敦賀町電話一七九番

（イロハ順） 乃木町 御履物 栗田商店 電話三四一番 敦賀町 御履物 ヤマ一號 電話五〇二番 乃木町 みやこ履物店 電話六五九番 青葉町 下村履物店 電話三三五番

敦賀町共榮會 井上玩具店 カフェー松尾 電話一三六番 玉屋モスリン店 電話九二番 熊井洋行 電話六七番 安永商店 電話三九三番 ヤマ一履物 電話五〇二番 小森運動具店 電話五〇一番 木村精肉店 電話六一二番 久富商店 電話四二九番

青葉町街燈維持會（いろは順） 池田洋行 電話七四番 御菓子泉屋 原田時計店 電話六六七番 早瀬商店 電話一六四番 新見時計店 電話四八〇番 岡女庵 電話五〇三番 大阪屋號書店 電話三五一番 吉野洋品店 電話一八六番 谷疊店 電話五八四番 高治洋行 電話八七番 山口商店 電話二四九番 やまこ軒 電話四九三番 山本商店 中野日界堂 松崎紙店 電話一二八番 文英堂書店 電話二〇七番 コンパル食堂 瑞章堂印房 電話六三番 喫茶店スヾラン 電話六八一番

旅順料理屋組合（いろは順） 西町 一力 電話一二〇番 同 蛤亭 電話二四七番 柳町 濱館 電話六九番 西町 東洋軒 電話一〇八番 川端町 吉田屋 電話三一七番 同 旅島屋 電話一六三番 十年町 松葉 電話四三〇番 川端町 滿月樓 朝鮮料理 同 京城樓 朝鮮料理 西町 榮福樓 電話三七〇番 同 吾妻樓 電話三八〇番 朝顏町 堺樓 朝鮮料理 西町 新世界 朝鮮料理 同 新萬歳 電話三二一番 川端町 笑福樓 電話二四三番 東町 春海館 朝鮮料理 川端町 昭和樓 朝鮮料理